

茨城県教育財団文化財調査報告第174集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

熊の山遺跡
(中巻)

平成13年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第174集

島名・福田坪一体型特定土地区画整理 事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

くま^{くま}の山^{やま}遺跡
(中巻)

平成13年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

目 次

- 中 巻 -

第3章 調査の成果	9
2 4区の遺構と遺物	18
(1) 竪穴住居跡	18
② 奈良・平安時代	263
(2) 掘立柱建物跡	485
① 古墳時代	485
② 奈良・平安時代	498
(3) 鍛冶工房跡	507
(4) 欄列跡	510
(5) 溝	513
(6) 井戸跡	519
(7) 地下式墳	520
(8) 方形竪穴状遺構	526
(9) ビット群	537
⑩ 土坑	538
① 陥し穴	538
② 火葬施設	539
③ 墓塚	541
④ 墓塚の可能性のある土坑	542
⑪ 遺構外出土遺物	551
3 5区の遺構と遺物	557
(1) 竪穴住居跡	557
① 古墳時代	557
② 奈良・平安時代	569
(2) 掘立柱建物跡	575
① 奈良・平安時代	575
(3) 溝	577
(4) 土坑	578
(5) 遺構外出土遺物	579
4 8区の遺構と遺物	581
(1) 竪穴住居跡	581
① 古墳時代	581
② 奈良・平安時代	701

插图目次

- 中 卷 -

第300图	第1149号住居跡・出土遺物実測図 ……	446	第333图	第55号掘立柱建物跡実測図(2) ……	491
第301图	第1149号住居跡出土遺物実測図 ……	447	第334图	第56号掘立柱建物跡実測図 ……	492
第302图	第1151号住居跡実測図 ……	449	第335图	第57号掘立柱建物跡実測図 ……	494
第303图	第1151号住居跡出土遺物実測図 ……	450	第336图	第57号掘立柱建物跡・出土遺物 実測図 ……	495
第304图	第1152号住居跡・出土遺物実測図 ……	452	第337图	第130号掘立柱建物跡・出土遺物 実測図 ……	497
第305图	第1153号住居跡・出土遺物実測図 ……	453	第338图	第58号掘立柱建物跡実測図 ……	498
第306图	第1156号住居跡・出土遺物実測図 ……	455	第339图	第58号掘立柱建物跡出土遺物実測図 ……………	499
第307图	第1157号住居跡・出土遺物実測図 ……	456	第340图	第59号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図 ……	502
第308图	第1158号住居跡・出土遺物実測図 ……	458	第341图	第60号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図 ……	504
第309图	第1158号住居跡出土遺物実測図 ……	459	第342图	第129号掘立柱建物跡・出土遺物 実測図 ……	505
第310图	第1160号住居跡実測図 ……	460	第343图	第1号鍛冶工房跡実測図 ……	508
第311图	第1160号住居跡出土遺物実測図 ……	461	第344图	第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図 ……	509
第312图	第1161号住居跡実測図 ……	461	第345图	第3号櫓列跡実測図 ……	511
第313图	第1161号住居跡出土遺物実測図 ……	462	第346图	第4号櫓列跡実測図 ……	512
第314图	第1162号住居跡・出土遺物実測図 ……	463	第347图	第5号櫓列跡実測図 ……	513
第315图	第1164号住居跡・出土遺物実測図 ……	464	第348图	第12号溝土層断面図 ……	514
第316图	第1167・1169号住居跡実測図 ……	465	第349图	第35A号溝土層断面図 ……	515
第317图	第1168号住居跡実測図 ……	466	第350图	第35A号溝出土遺物実測図 ……	516
第318图	第1168号住居跡出土遺物実測図 ……	467	第351图	第60号溝断面図 ……	517
第319图	第1169号住居跡出土遺物実測図 ……	468	第352图	その他の溝断面図 ……	517
第320图	第1170号住居跡・出土遺物実測図 ……	469	第353图	第28号井戸跡実測図 ……	519
第321图	第1171号住居跡実測図 ……	471	第354图	第28号井戸跡出土遺物実測図 ……	520
第322图	第1172号住居跡・出土遺物実測図 ……	473	第355图	第21号地下式竈実測図 ……	521
第323图	第1173号住居跡実測図 ……	474	第356图	第22号地下式竈実測図 ……	522
第324图	第1173号住居跡出土遺物実測図 ……	475	第357图	第23号地下式竈実測図 ……	523
第325图	第1176号住居跡・出土遺物実測図 ……	476	第358图	第24号地下式竈実測図 ……	524
第326图	第1461号住居跡実測図 ……	477	第359图	第25号地下式竈実測図 ……	525
第327图	第1461号住居跡出土遺物実測図 ……	478	第360图	第26号地下式竈実測図 ……	525
第328图	第1462号住居跡実測図 ……	479	第361图	第9号方形竪穴状遺構実測図 ……	527
第329图	第1464号住居跡・出土遺物実測図 ……	480			
第330图	第53号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図 ……	486			
第331图	第54号掘立柱建物跡・出土遺物実測 図 ……	488			
第332图	第55号掘立柱建物跡実測図(1) ……	490			

第362図	第10号方形竪穴状遺構実測図	528	第396図	第1459号住居跡出土遺物実測図	568
第363図	第11号方形竪穴状遺構実測図	529	第397図	第1459号住居跡実測図	569
第364図	第12号方形竪穴状遺構実測図	530	第398図	第1452・1457号住居跡実測図	570
第365図	第13号方形竪穴状遺構実測図	531	第399図	第1452号住居跡出土遺物実測図	571
第366図	第14号方形竪穴状遺構実測図	532	第400図	第1455号住居跡・出土遺物実測図	572
第367図	第15号方形竪穴状遺構実測図	533	第401図	第1460号住居跡・出土遺物実測図	574
第368図	第16号方形竪穴状遺構実測図	534	第402図	第128号掘立柱建物跡実測図	575
第369図	第17号方形竪穴状遺構実測図	535	第403図	第128号掘立柱建物跡出土遺物実測図	576
第370図	第18号方形竪穴状遺構実測図	535			
第371図	第19号方形竪穴状遺構実測図	536	第404図	第18号溝・出土遺物実測図	577
第372図	第6号ビット群出土遺物実測図	538	第405図	第91号溝実測図	578
			第406図	第1408号土坑実測図	578
第373図	第812号土坑実測図	539	第407図	第1409号土坑実測図	579
第374図	第917号土坑実測図	540	第408図	5区遺構外出土遺物実測図	579
第375図	第918号土坑実測図	540	第409図	5区遺構全体図	580
第376図	第919号土坑実測図	541	第410図	第504・508号住居跡実測図	581
第377図	第736号土坑実測図	541	第411図	第508号住居跡出土遺物実測図	582
第378図	墓塚の可能性のある土坑実測図(1)	542	第412図	第509号住居跡・出土遺物実測図	584
第379図	墓塚の可能性のある土坑実測図(2)	543	第413図	第509号住居跡出土遺物実測図	585
第380図	墓塚の可能性のある土坑・第794号土坑 出土遺物実測図	544	第414図	第919・1448号住居跡実測図, 第919号住居跡出土遺物実測図	586
第381図	第755・762・1416号土坑出土遺物実測 図	547	第415図	第926号住居跡実測図	588
第382図	4区遺構外出土遺物実測図(1)	551	第416図	第926号住居跡出土遺物実測図	589
第383図	4区遺構外出土遺物実測図(2)	552	第417図	第927号住居跡実測図	590
第384図	4区遺構外出土遺物実測図(3)	553	第418図	第927号住居跡出土遺物実測図	591
第385図	4区遺構外出土遺物実測図(4)	554	第419図	第933号住居跡・出土遺物実測図	593
第386図	第748号住居跡実測図	557	第420図	第939・943号住居跡実測図	595
第387図	第748号住居跡出土遺物実測図	558	第421図	第943号住居跡出土遺物実測図	596
第388図	第1451号住居跡実測図	559	第422図	第941・944号住居跡実測図	597
第389図	第1451号住居跡出土遺物実測図	560	第423図	第944号住居跡住居跡実測図	598
第390図	第1453・1458号住居跡実測図(1)	562	第424図	第945号住居跡実測図	599
第391図	第1453・1458号住居跡出土遺物実測 図(2)	563	第425図	第945号住居跡出土遺物実測図	600
第392図	第1453号住居跡出土遺物実測図(1)	563	第426図	第1200号住居跡実測図	601
第393図	第1453号住居跡出土遺物実測図(2)	564	第427図	第1200号住居跡出土遺物実測図(1)	602
第394図	第1454号住居跡実測図	565	第428図	第1200号住居跡出土遺物実測図(2)	603
第395図	第1458号住居跡出土遺物実測図	567	第429図	第1202号住居跡実測図	604
			第430図	第1202号住居跡出土遺物実測図	605
			第431図	第1207号住居跡・出土遺物実測図	606

第432图	第1211号住居跡実測図	609	第468图	第1423号住居跡出土遺物実測図	660
第433图	第1211号住居跡出土遺物実測図(1)	610	第469图	第1424号住居跡実測図	662
第434图	第1211号住居跡山土遺物実測図(2)	611	第470图	第1424号住居跡出土遺物実測図	663
第435图	第1211号住居跡出土遺物実測図(3)	612	第471图	第1426・1434号住居跡実測図(1)	664
第436图	第1216号住居跡・出土遺物実測図	614	第472图	第1426・1434号住居跡実測図(2)	665
第437图	第1216号住居跡出土遺物実測図	615	第473图	第1426号住居跡出土遺物実測図	667
第438图	第1219号住居跡実測図	616	第474图	第1427号住居跡実測図	669
第439图	第1219号住居跡出土遺物実測図(1)	617	第475图	第1427号住居跡出土遺物実測図	670
第440图	第1219号住居跡出土遺物実測図(2)	618	第476图	第1429号住居跡実測図	671
第441图	第1219号住居跡出土遺物実測図(3)	619	第477图	第1429号住居跡遺物出土状況図	672
第442图	第1224・1225・1230号住居跡実測図	621	第478图	第1429号住居跡出土遺物実測図(1)	673
第443图	第1224・1225・1230号住居跡実測図, 第1224号住居跡出土遺物実測図	622	第479图	第1429号住居跡出土遺物実測図(2)	674
第444图	第1224号住居跡出土遺物実測図	623	第480图	第1430号住居跡・出土遺物実測図	677
第445图	第1230号住居跡出土遺物実測図	625	第481图	第1430号住居跡出土遺物実測図	678
第446图	第1235号住居跡実測図	627	第482图	第1434号住居跡出土遺物実測図	680
第447图	第1235号住居跡出土遺物実測図	628	第483图	第1438号住居跡実測図	681
第448图	第1243号住居跡・出土遺物実測図	630	第484图	第1439号住居跡実測図	682
第449图	第1401号住居跡実測図	632	第485图	第1439号住居跡出土遺物実測図(1)	683
第450图	第1401号住居跡出土遺物実測図(1)	633	第486图	第1439号住居跡出土遺物実測図(2)	684
第451图	第1401号住居跡出土遺物実測図(2)	634	第487图	第1440号住居跡・出土遺物実測図	686
第452图	第1404号住居跡実測図	636	第488图	第1441号住居跡実測図	688
第453图	第1404号住居跡出土遺物実測図	637	第489图	第1441号住居跡出土遺物実測図	689
第454图	第1405号住居跡実測図	639	第490图	第1445A号住居跡実測図(1)	692
第455图	第1405号住居跡出土遺物実測図	640	第491图	第1445A号住居跡実測図(2)	693
第456图	第1409号住居跡・出土遺物実測図	642	第492图	第1445A号住居跡遺物出土状況・出土 遺物実測図	694
第457图	第1416号住居跡・出土遺物実測図	643	第493图	第1445A号住居跡出土遺物実測図(1)	695
第458图	第1417号住居跡実測図	645	第494图	第1445A号住居跡出土遺物実測図(2)	696
第459图	第1417号住居跡山土遺物実測図	646	第495图	第1445B号住居跡実測図	699
第460图	第1419号住居跡実測図	648	第496图	第1445B号住居跡出土遺物実測図	700
第461图	第1419号住居跡出土遺物実測図	649	第497图	第514号住居跡・出土遺物実測図	702
第462图	第1421号住居跡実測図	651	第498图	第520号住居跡実測図	703
第463图	第1421号住居跡出土遺物実測図(1)	652	第499图	第520号住居跡出土遺物実測図	704
第464图	第1421号住居跡出土遺物実測図(2)	653	第500图	第918号住居跡実測図	706
第465图	第1422号住居跡実測図	656	第501图	第918号住居跡出土遺物実測図	707
第466图	第1422号住居跡出土遺物実測図	657	第502图	第931号住居跡・出土遺物実測図	708
第467图	第1423号住居跡実測図	659			

第503图	第936号住居跡実測図	710	第541图	第1231号住居跡出土遺物実測図	761
第504图	第936号住居跡出土遺物実測図	711	第542图	第1232号住居跡実測図	762
第505图	第941号住居跡出土遺物実測図	713	第543图	第1232号住居跡出土遺物実測図	763
第506图	第1201号住居跡・出土遺物実測図	714	第544图	第1233号住居跡実測図(1)	766
第507图	第1203号住居跡・出土遺物実測図	716	第545图	第1233号住居跡実測図(2)	767
第508图	第1204・1205号住居跡実測図	718	第546图	第1233号住居跡出土遺物実測図(1)	768
第509图	第1204号住居跡出土遺物実測図	719	第547图	第1233号住居跡出土遺物実測図(2)	769
第510图	第1205号住居跡出土遺物実測図	720	第548图	第1233号住居跡出土遺物実測図(3)	770
第511图	第1208・1209号住居跡実測図	721	第549图	第1234号住居跡実測図	774
第512图	第1208号住居跡出土遺物実測図	722	第550图	第1234号住居跡出土遺物実測図	775
第513图	第1209号住居跡出土遺物実測図(1)	723	第551图	第1236号住居跡実測図(1)	778
第514图	第1209号住居跡出土遺物実測図(2)	724	第552图	第1236号住居跡実測図(2)	779
第515图	第1210号住居跡実測図	725	第553图	第1236号住居跡出土遺物実測図(1)	779
第516图	第1210号住居跡出土遺物実測図	726	第554图	第1236号住居跡出土遺物実測図(2)	780
第517图	第1212号住居跡・出土遺物実測図	727	第555图	第1237号住居跡・出土遺物実測図	783
第518图	第1213号住居跡・出土遺物実測図	729	第556图	第1238号住居跡・出土遺物実測図	785
第519图	第1214号住居跡実測図	731	第557图	第1238号住居跡出土遺物実測図	786
第520图	第1214号住居跡出土遺物実測図	732	第558图	第1239号住居跡実測図	788
第521图	第1215号住居跡・出土遺物実測図	733	第559图	第1239号住居跡出土遺物実測図(1)	789
第522图	第1217・1218号住居跡実測図	735	第560图	第1239号住居跡出土遺物実測図(2)	790
第523图	第1218号住居跡出土遺物実測図	736	第561图	第1241号住居跡実測図	793
第524图	第1220号住居跡実測図	737	第562图	第1241号住居跡出土遺物実測図(1)	794
第525图	第1220号住居跡出土遺物実測図(1)	738	第563图	第1241号住居跡出土遺物実測図(2)	795
第526图	第1220号住居跡出土遺物実測図(2)	739	第564图	第1241号住居跡出土遺物実測図(3)	796
第527图	第1221号住居跡実測図	741	第565图	第1242号住居跡実測図	798
第528图	第1221号住居跡出土遺物実測図	742	第566图	第1242号住居跡出土遺物実測図	799
第529图	第1222号住居跡実測図	744	第567图	第1408号住居跡実測図	801
第530图	第1222号住居跡出土遺物実測図	745	第568图	第1408号住居跡出土遺物実測図	802
第531图	第1223号住居跡実測図	747	第569图	第1410号住居跡実測図	804
第532图	第1223号住居跡出土遺物実測図	748	第570图	第1410号住居跡出土遺物実測図	805
第533图	第1225号住居跡出土遺物実測図	750	第571图	第1411号住居跡・出土遺物実測図	807
第534图	第1226号住居跡・出土遺物実測図	752	第572图	第1412号住居跡実測図	809
第535图	第1226号住居跡出土遺物実測図	753	第573图	第1412号住居跡出土遺物実測図	810
第536图	第1227号住居跡実測図	755	第574图	第1413号住居跡実測図	812
第537图	第1227号住居跡出土遺物実測図	756	第575图	第1413号住居跡出土遺物実測図	813
第538图	第1228号住居跡実測図	758	第576图	第1414号住居跡実測図	815
第539图	第1228号住居跡出土遺物実測図	759	第577图	第1414号住居跡出土遺物実測図	816
第540图	第1231号住居跡実測図	760	第578图	第1415号住居跡実測図	818

第579图	第1415号住居跡出土遺物実測図	819	第588图	第1428号住居跡・出土遺物実測図	832
第580图	第1420号住居跡実測図	820	第589图	第1428号住居跡出土遺物実測図	833
第581图	第1420号住居跡出土遺物実測図	821	第590图	第1431号住居跡実測図	836
第582图	第1425A・B号住居跡実測図	824	第591图	第1431号住居跡出土遺物実測図	837
第583图	第1425A・B号住居跡遺物出土状況図	825	第592图	第1432号住居跡実測図	839
第584图	第1425A号住居跡出土遺物実測図(1)	825	第593图	第1432号住居跡出土遺物実測図	840
第585图	第1425A号住居跡出土遺物実測図(2)	826	第594图	第1442号住居跡実測図	843
第586图	第1425B号住居跡出土遺物実測図	829	第595图	第1442号住居跡出土遺物実測図(1)	844
第587图	第1428号住居跡実測図	831	第596图	第1442号住居跡出土遺物実測図(2)	845
			第597图	第1443号住居跡・出土遺物実測図	848
			第598图	第1447号住居跡・出土遺物実測図	850

表 目 次

—中 卷—

表 3	4区住居跡一覧表	481	表 8	4区土坑一覧表	548
表 4	4区掘立柱建物跡一覧表	506	表 9	5区住居跡一覧表	579
表 5	4区溝一覧表	518	表10	5区溝一覧表	580
表 6	4区地下式墳一覧表	526	表11	5区土坑一覧表	580
表 7	4区方形堅穴状遺構一覧表	536			

第1149号住居跡 (第300・301図)

位置 調査4区の北部, H10J8区。

重複関係 北西部で第1147号住居跡を掘り込んでいる。南東部を第1160号住居・第1415号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.20m, 短軸3.16mの方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は40~78cmで、ほぼ直立する。

壁溝 竈部分を除き、壁際を巡っている。上幅12~18cm, 下幅4~6cm, 深さ2~8cmで、断面はU字形である。

床 はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の東寄りを壁外に42cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ110cm, 向袖部幅98cmである。火床面は、わずかに掘りくぼめられて、浅い皿状を呈しており、上面から灰が検出されている。煙道は、火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。袖部の内側及び火床面は、火熱を受けて、赤変している。

覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 2 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 焼土中ブロック少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック少量
- 6 灰赤色 灰多量, 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・砂粒微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量

ピット 1か所。P1は、径23cmの円形、深さ11cmである。南壁東寄りの壁際に位置し、竈と対する位置にあることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

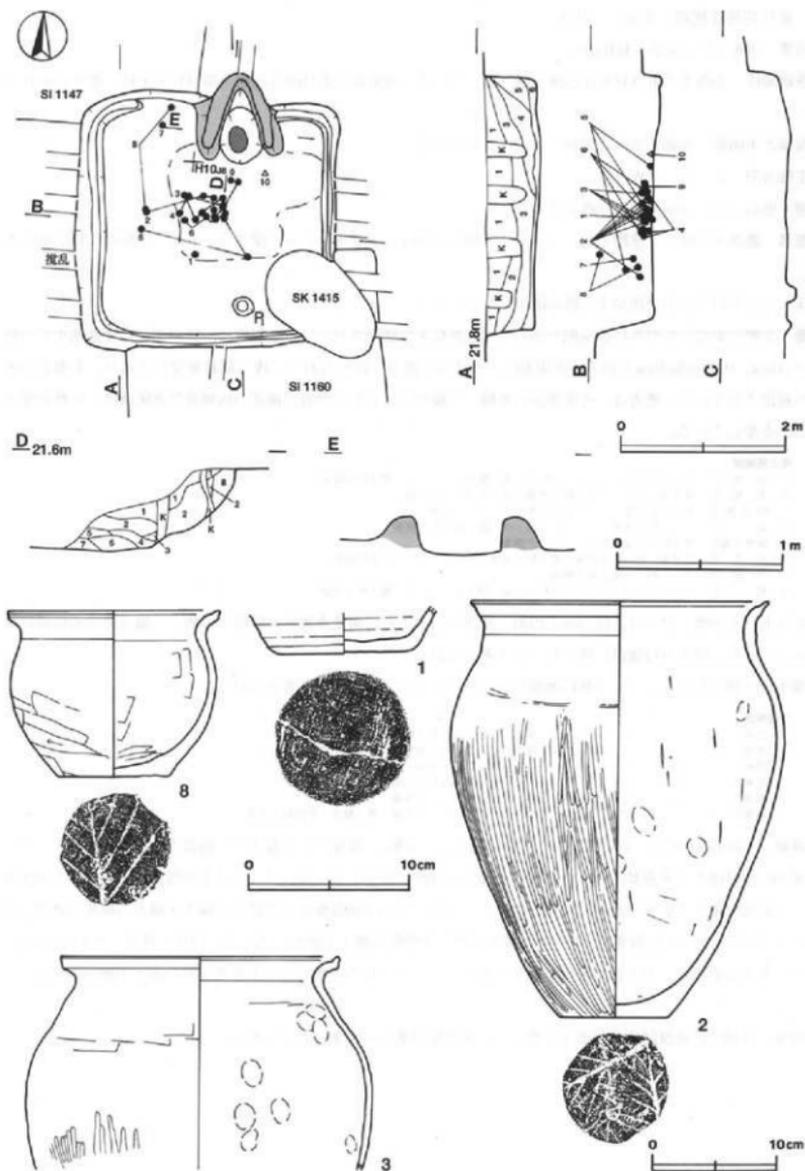
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

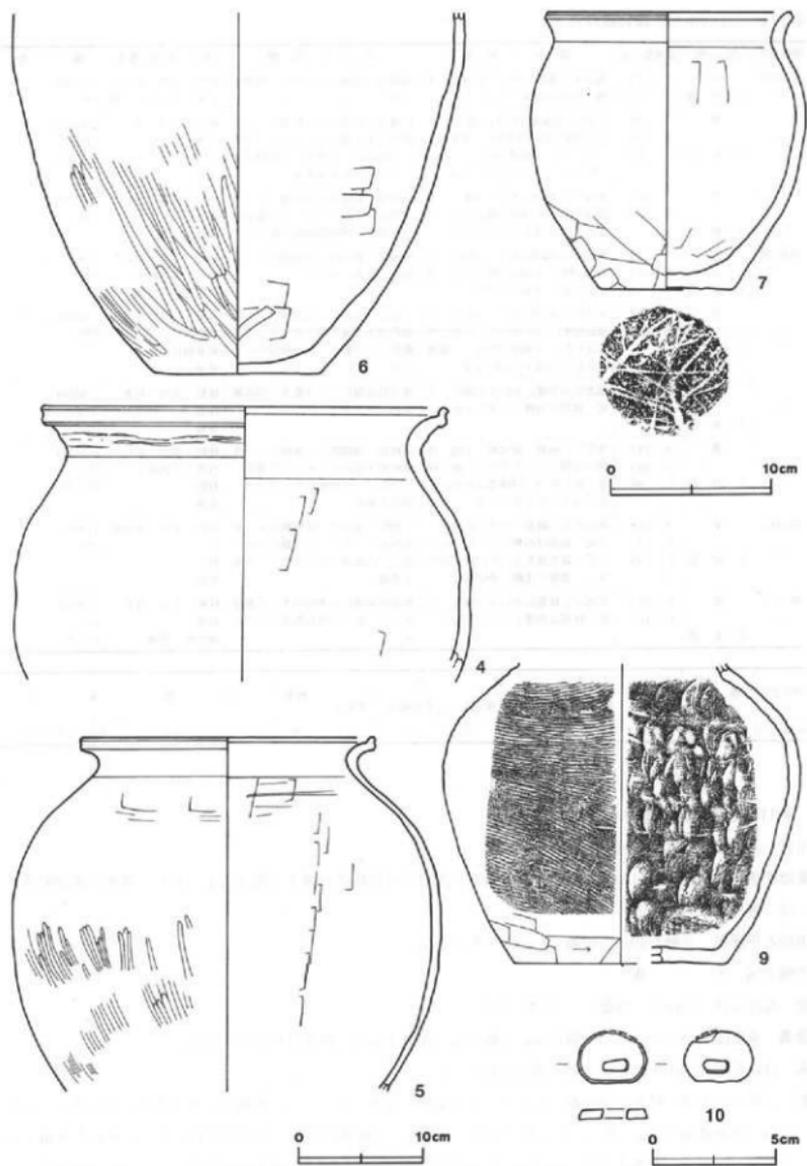
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・灰土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片366点, 須恵器片66点, 鉄製品1点(丸軋), 攪乱により混入した陶器片3点が出土している。第300・301図1の須恵器杯は、中央部の床面から逆位で出土している。2~6は土師器甕で、いずれも中央部の床面及び覆土下層から破片の状態で出土している。7の土師器甕は、北壁際の覆土中層から破片の状態で出土している。8の土師器甕は、中央部の覆土下層と北壁際の覆土上層から出土した破片が接合したものである。9の須恵器甕片は、中央部の覆土下層から出土している。10の丸軋は、中央部北寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から、8世紀中葉から後葉と考えられる。



第300图 第1149号住居跡・出土遺物実測図



第301图 第1149号住居跡出土遺物実測图

第1149号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)		器 形 の 特 徴	手 次 の 特 徴	土 土 ・ 色 調 ・ 焼 成	備 考				
		口径	高さ								
第300図 1	坏 須 恵 器	B (27)	8.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口羅ナデ。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英・黄灰色。普通	P40194 60%				
		A [23.8]						底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内傾して立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反し、肩部は外反し、上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上位横位のヘラナデ、中位以下縦位のヘラ磨き、内面横位のヘラナデ。底部本業痕。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色。普通	P40195 70% P.L.235
		B 33.6 C 8.7									
2	壺 土 師 器	A 22.2 B (17.3)	16.7	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、口縁部は外反する。肩部は上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上半横ナデ、下半縦位のヘラ磨き、内面縦位を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 褐色。普通	P40196 35%				
		A 24.4 B (16.7)						体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、口縁部は外反する。肩部は上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上半横ナデ、下半縦位のヘラ磨き、内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 明赤褐色。普通	P40197 20%
第301図 4	壺 土 師 器	A [23.4] B (28.9)	28.9	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾して立ち上がり、中位に最大径をもつ。口縁部は外反し、肩部は上方につまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上半横位のヘラナデ、下半縦位のヘラ磨き、内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 明赤褐色	P40198 10%				
		A [23.4] B (28.9)						体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内傾して立ち上がる。	体部外面横位のヘラ磨き、内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 普通	P40199 10%
5	壺 土 師 器	B (22.0) C 10.2	10.2	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内傾して立ち上がる。	体部外面横位のヘラ磨き、内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・石英 普通	P40199 10%				
		A [14.7] B 16.9 C 8.0						体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内傾して立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反し、肩部は比輪1条が通る。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面中位以上ナデ、下位横位のヘラ削り、内面横位のヘラナデ。底部本業痕。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 褐色 普通	P40200 70% P.L.234
7	十 師 器	A [14.7] B 16.9 C 8.0	8.0	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内傾して立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は外反し、肩部は比輪1条が通る。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面中位以上ナデ、下位横位のヘラ削り、内面横位のヘラナデ。底部本業痕。	砂粒・雲母・赤色粒子 褐色 普通	P40202 60%				
		A [12.8] B 10.1 C 6.8						底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内傾して立ち上がり、上位に最大径をもつ。口縁部は外反し、肩部は比輪1条が通る。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。体部外面上半横位のヘラ削り、内面横位のヘラナデ。底部本業痕。	砂粒・雲母・赤色粒子 褐色 普通	P40201 70% P.L.234
第300図 8	壺 土 師 器	B (24.5) C [16.8]	16.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内傾して立ち上がる。	体部外面横位の平行印き、下縦位のヘラ削り、内面無文の当て具痕。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色。普通	P40201 70% P.L.234				
		B (24.5) C [16.8]									
第301図 9	壺 須 恵 器	B (24.5) C [16.8]	16.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内傾して立ち上がる。	体部外面横位の平行印き、下縦位のヘラ削り、内面無文の当て具痕。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色。普通	P40201 70% P.L.234				
		B (24.5) C [16.8]									

図版番号	器 種	計 測 値					材質	特 徴	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	垂孔長 (cm)	垂孔幅 (cm)			
第301図10	丸 瓶	2.8	2.1	0.4	1.0	0.4	6.2	底	下位に長方形の穿孔あり。M40026 P.L.237

第1151号住居跡 (第302・303図)

位置 調査4区の北部, H10j0区。

重複関係 北東部で第1153号住居跡を、北西部で第1155号住居跡の覆土を掘り込んでおり、西部を第22号地下式横に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.40m, 短軸3.16mの方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は16~24cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁際を巡っている。上幅12cm, 下幅6cm, 深さ4cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に58cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、焚き口から煙道部までの長さ83cm, 両袖部幅103cmである。天井部は崩落しており、土層断面図中、第2層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから、崩落土と考えられる。火床面は、床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は、火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
- 2 灰褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中ブロック・焼土小ブロック中量、炭化粒子・砂粒微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子多量、炭化粒子・砂粒中量
- 7 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

ピット 1か所。P1は、径24cmの円形、深さ23cmである。南壁中央部の壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

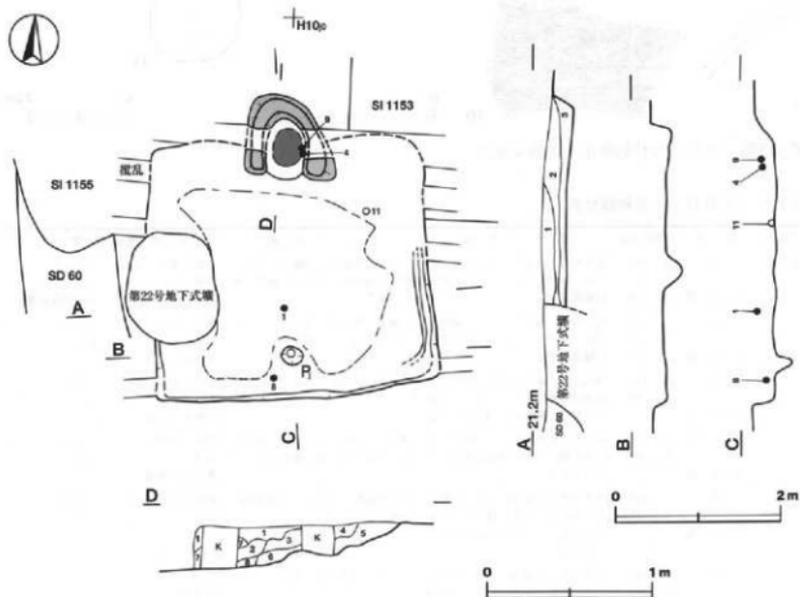
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

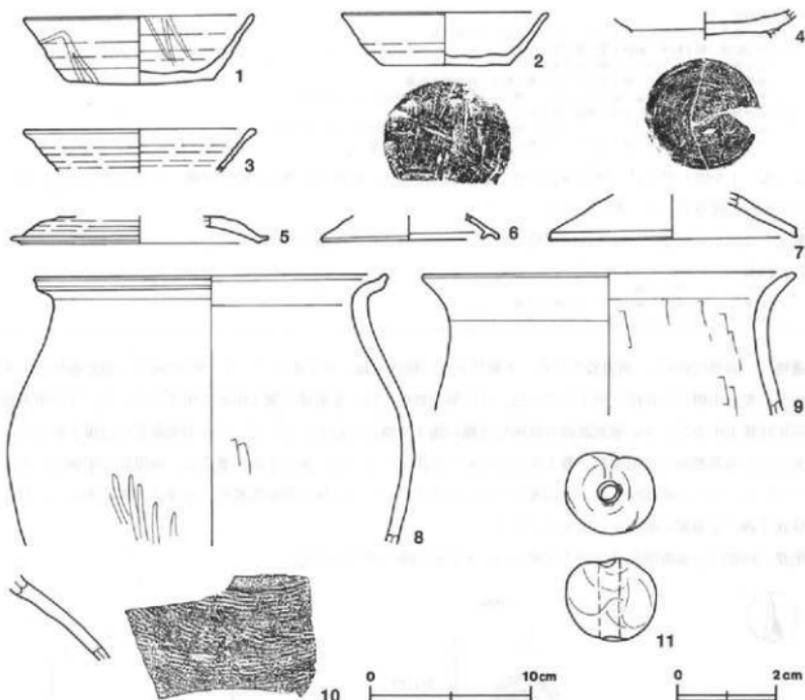
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 土師器片268点、須恵器片57点、土製品1点(球状土錘)が出土している。第303図1の須恵器杯は、中央部の覆土中層から正位で出土している。2の須恵器杯片は、北東部の覆土中から出土している。3の須恵器杯片は覆土中から、4の須恵器高台付杯片は竈の覆土下層から出土している。5の須恵器蓋片は覆土中から、6と7の須恵器蓋片は南東部の覆土中からそれぞれ出土している。8の土師器甕片は、南壁際の床面から出土している。9の土師器甕片は、竈の覆土下層から出土している。10の須恵器甕片は北東部の覆土中から、11の球状土錘は北東部の床面から出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から、8世紀中葉と考えられる。



第302図 第1151号住居跡実測図



第303図 第1151号住居跡出土遺物実測図

第1151号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	断面値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第303図 1	坏	A [13.8]	底部から口縁部にかけての破片。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英	P 40203
	須恵器	B 4.1	平底。体部は外種して立ち上がり、口縁部に至る。	体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	灰黄色、普通	50%、P L 235
		C 8.8				内・外面火漉り
2	坏	A [12.4]	底部から口縁部にかけての破片。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英	P 40204
	須恵器	B 3.2	平底。体部は外種して立ち上がり、口縁部に至る。端部は丸くおさめている。	底部2方向のヘラ削り。	黄灰色、普通	40%
		C 7.6				
3	坏	A [14.0]	体部から口縁部にかけての破片。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英	P 40276
	須恵器	B (2.6)	体部は外種して立ち上がり、口縁部に至る。端部は丸くおさめられている。		黄灰色、普通	10%
4	高台付坏	B (1.8)	底部から体部にかけての破片。高台部欠損。平底。体部は外種して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英	P 40206
	須恵器	E (0.2)			黄灰色、普通	40%
5	蓋	A [16.8]	天井部から口縁部にかけての破片。天井部はなだらかに降下し、口縁部は緩急する。内面に退化したかえりが付く。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・長石・石英	P 40272
	須恵器	B (1.6)			灰色、普通	5%
6	蓋	A [10.8]	天井部から口縁部にかけての破片。天井部はなだらかに降下し、口縁部に至る。内面にかえりが付く。	天井部、口縁部内・外面ロクロナデ。	長石	P 40273
	須恵器	B (1.5)			灰黄色	5%
						良好

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第303図 7	甕 須恵器	A [160] B (27)	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部はなだらかに降下し、口縁部に至る。	天井部、口縁部内・外面ロクロナデ。	灰石・ 灰白色 普通	P40274 5%
		A [214] B (164)	体部から口縁部にかけての破片。 体形は長卵形を呈し、口縁部は外反する。肩部は上方につまみ上げられている。	口縁部、肩部内・外面横ナデ。体形外面と平ヘラナデ。下半部はヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 暗褐色 普通	P40206 10%
9	瓶 土器器	A [224] B (87)	体部から口縁部にかけての破片。 体部上半はほぼ直立し、口縁部は外反する。	口縁部、肩部内・外面横ナデ。体形外面ナデ、内面横位のヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英・赤色粒子 褐色、普通	P40307 10%
		B (58)	体部の破片。体部は内彎する。	体部外面横位の平行叩き。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英、灰黄色、普通	TP40004 5%

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第303図11	土玉	1.8	1.7	0.5	3.9	やや扁平な球体、ナデ。	灰石・石英、にぶい灰色	D4001: 10% P126

第1152号住居跡 (第304図)

位置 調査4区の北東部、H1111区。

重複関係 西部で第1153号住居跡を、北西部で第1154号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.40m、短軸3.30mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は32~41cmで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に22cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。規模は、狭口部から煙道部までの長さ62cm、両袖部幅106cmである。天井部は崩落しており、土層断面図中、第1・2層が粘土粒子や砂粒を多量に含んでいることから、崩落土と考えられる。特に、第1層の下位から検出された第2層は、火熱を受けて赤変硬化しており、天井部の内側の部分と考えられる。火床面は、床面から10cmほど掘りくぼめられて浅い皿状を呈しており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は、火床部から急な傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土粒子・砂粒多量、焼土粒子少量、焼土小ブロック少量
- 2 灰赤色 粘土粒子・砂粒多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒中量
- 4 にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量、砂粒少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、砂粒中量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

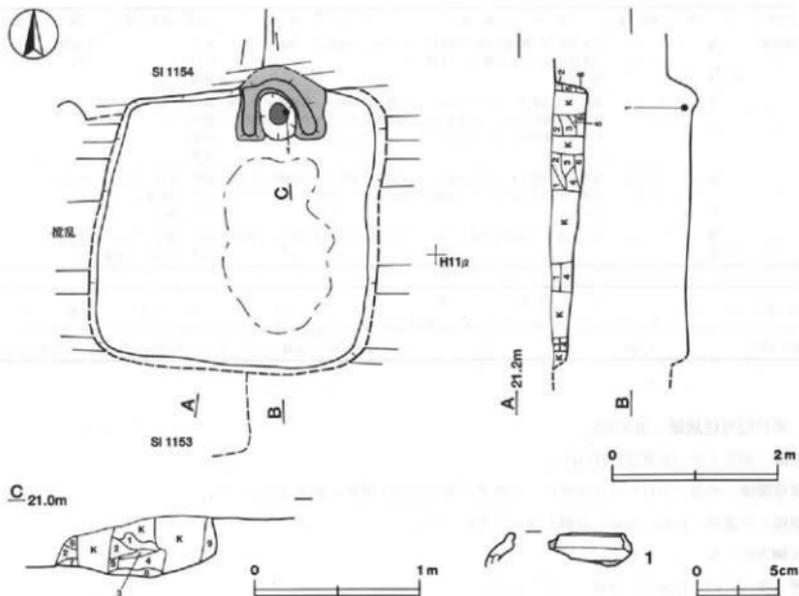
覆土6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片27点、須恵器片12点、撿乱により混入した陶器片1点が出土している。出土した土器は、いずれも細片である。第304図1の土師器製の口縁部片は、竈の火床面から出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から、9世紀代と考えられる。



第304図 第1152号住居跡・出土遺物実測図

第1152号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・硬成	備考
第304図 1	甕 土師器	B (20)	口縁部の破片。口縁部は外反し、 頸部は上方につまみ上げられてい る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・ 石膏 にぶい赤褐色、普通	P40208 5%

第1153号住居跡 (第305図)

位置 調査4区の北部、H10j0区。

重複関係 北部で第1154号住居跡を、北西部で第1155号住居跡を掘り込んでいる。南西部を第1151号住居に、東部を第1152号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.02m、短軸4.25mの長方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は12~22cmで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 遺存状態が悪く、北壁中央部の壁際から火床面が確認できただけである。付近の床面に粘土粒子や砂粒が散在しており、竈材の一部と考えられる。火床面は、長径方向を住居の主軸と同じくする長径22cm、短径17cmの楕円形で、火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、径36~42cmのはほぼ円形で、深さ31~70cmである。いずれも各

コーナー寄りに位置していることから、支柱穴と考えられる。P5は、径28cmの円形、深さ13cmで、南壁中央部の壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

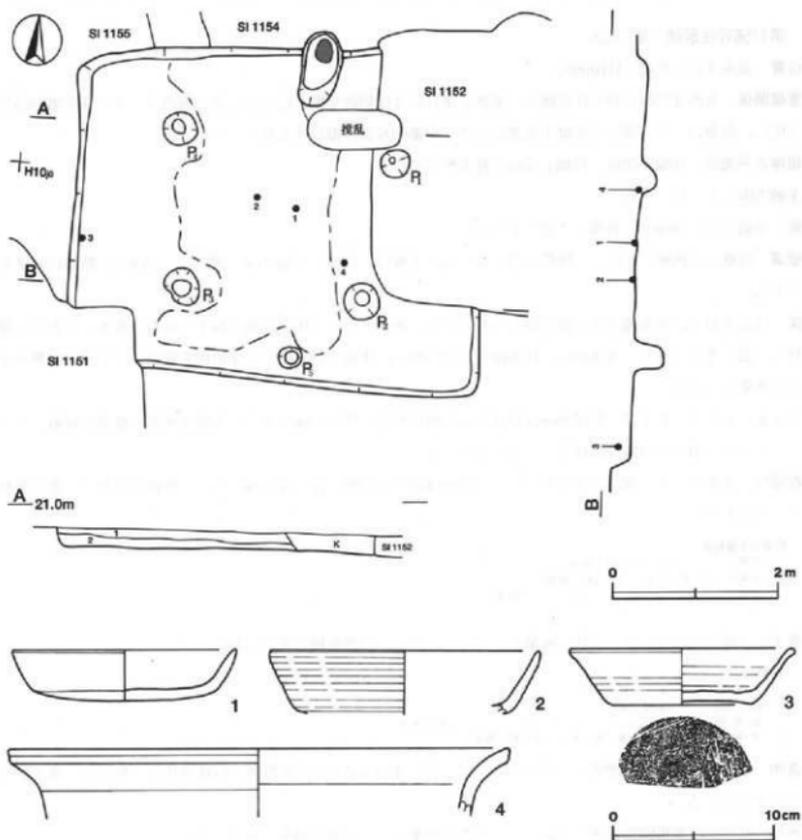
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片126点、須恵器片15点が出土している。第305図1の土師器坏は中央部の床面から逆位で、2の土師器坏片は中央部の床面から、3の須恵器坏は西壁際の覆土下層から横位で、4の土師器寛片は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から、8世紀前半と考えられる。



第305図 第1153号住居跡・出土遺物実測図

第1153号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徵	手法の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第305図 1	土 師 器	A [13.6]	底部から口縁部にかけての破片。 丸みをもった平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面横ナデ。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・赤色粒子 明赤褐色。普通	P 40209 60% P L 235
		B 3.1				
		C [11.3]				
2	土 師 器	A [16.4]	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面口ロナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 焼成不明	P 40210 10% 二次焼成
		B (3.9)				
3	土 師 器	A [13.6]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面口ロナデ。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P 40211 45%
		B 3.4				
		C [8.4]				
4	土 師 器	A [30.4]	口縁部の破片。口縁部は外反する。 端部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 明赤褐色。普通	P 40212 5%
		B (4.1)				

第1156号住居跡 (第306図)

位置 調査4区の北部, H1018区。

重複関係 南西部で第1148号住居跡を、東部で第1155号住居跡を掘り込んでいる。南西コーナー部を第1415号土坑に、南東コーナー部から北壁中央部にかけてを第60号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.60m, 短軸3.20mの長方形である。

主軸方向 N-12° - E

壁 壁高は12~26cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁から西壁にかけての壁隙を巡っている。上幅14~20cm, 下幅8cm, 深さ10~12cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。ある。付近の床面に粘土粒子や砂粒が散在しており、腐材の一部と考えられる。火床面は、径30cmのほぼ円形で、床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火熱を受けて赤変している。

ピット 1か所。P1は、長径28cm, 短径20cmの楕円形で、深さ33cmである。南壁中央部の壁隙に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北西コーナー部に付設されている。径60cmほどの円形、深さは23cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中/ブロック微量

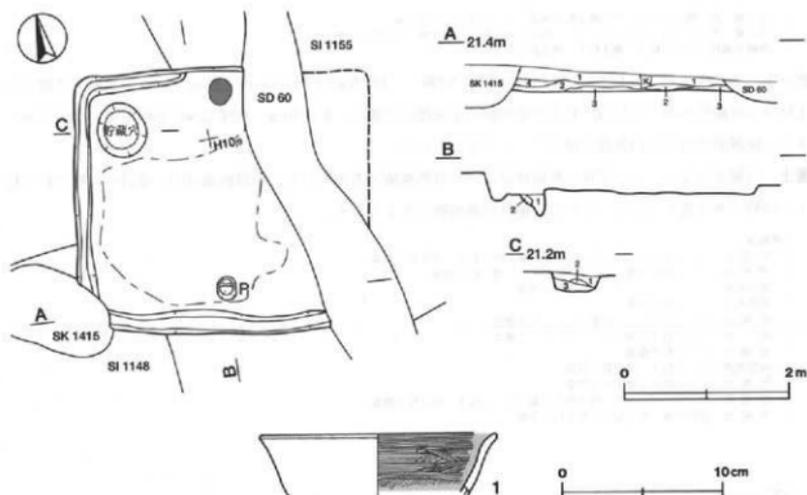
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中/ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片29点, 須恵器片2点が出土している。第306図1の土師器杯の口縁部片は、貯蔵穴の覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係と出土土器から、9世紀後半ないし10世紀前半と考えられる。



第306図 第1156号住居跡・出土遺物実測図

第1156号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第306図 1	坏 土師器	A [142] B (39)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面ロクロナデ。内面横位のヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 10% にぶい黄褐色。普通	P40224 10%

第1157号住居跡 (第307図)

位置 調査4区の中央部, I10f1区。

重複関係 第1159号住居跡の南西部を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.25m, 短軸3.10mの方形である。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は15~21cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅12~16cm, 下幅3~6cm, 深さ約6cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。攪乱のため、煙道部と両袖部の遺存状況が悪い。規模は、焚口部から煙道部まで90cm, 両袖部幅105cmと推定される。天井部は崩落しており、土層断面図中、第2層は粘土粒子や砂粒を多く含んでいることから、崩落土層と考えられる。第5層は焼土ブロックや焼土粒子を多量に含み、下面が赤変硬化していることから、下面が火床面と考えられる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量

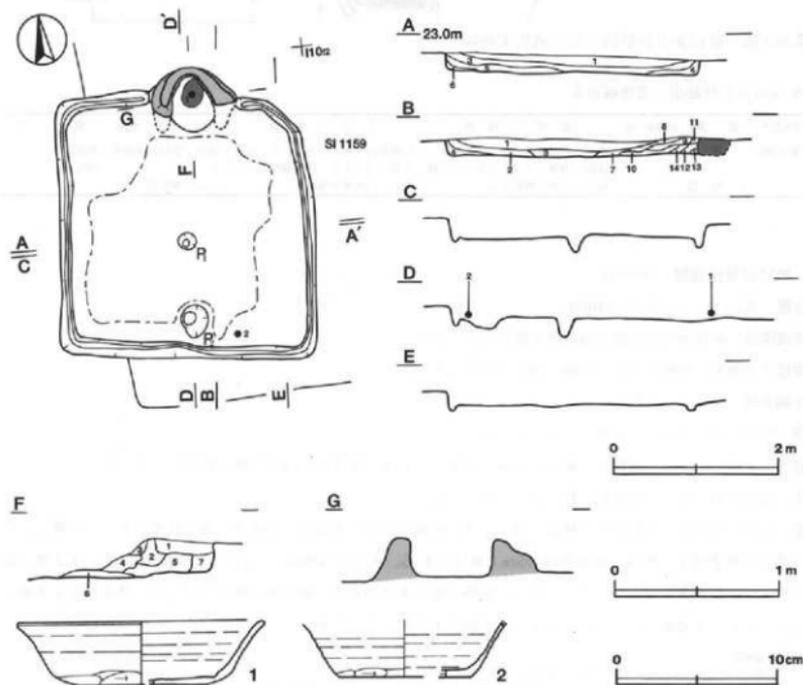
- 5 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、ローム小ブロック少量
 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
 7 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は中央部に位置し、径23cmの円形で、深さ23cmである。規模と位置から主柱穴の可能性が考えられる。P2は南壁際の中央部に位置し、長径40cm、短径32cmの楕円形で、深さ15cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 14層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。土層断面図中、第11~14層は粘土粒子・砂粒を多く含んでいることから、畜材の流出物と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
 3 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
 4 極暗褐色 ローム粒子少量
 5 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
 6 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
 7 黒褐色 ローム粒子微量
 8 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
 9 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
 10 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
 11 暗褐色 砂粒中量、焼土粒子・粘土粒子少量



第307図 第1157号住居跡・出土遺物実測図

- 12 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量
 13 黒褐色 砂粒・粘土粒子中量、焼土粒少量
 14 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック・炭化物・砂粒少量

遺物 土師器片154点、須恵器片7点が出土している。第307図1の須恵器杯は、竈内の覆上下層から出土している。2の須恵器杯は、南東部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第1157号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第307図 1	杯	A [14.8] B 3.9	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰色	P40572 20%
	須恵器 C [7.8]				普通	
2	杯	B (3.5)	底部から体部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒・雲母 灰黄褐色、普通	P40573 15% P.L.235
	須恵器 C [8.0]					

第1158号住居跡(第308・309図)

位置 調査4区の中央部、I10g2区。

重複関係 北東コーナー部を第819・820号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.10m、短軸4.00mの方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は5~10cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部を除き巡っている。規模は上幅10~16cm、下幅4~7cm、深さ約5cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、中央部から西部にかけて特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで78cm、両袖部幅120cmである。袖部は北壁から15~35cmの高さに地山を掘り残し、壁に粘土を貼り付けて造っている。天井部は崩落しており、土層断面図中、第1層が粘土粒子を多量に含んでいることから、崩落土層と考えられる。第3・4層は焼土ブロック・焼土粒子を中量含み、下面が赤変硬化していることから、下面が火床面と考えられる。煙道は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子・焼土中ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・灰少量

ピット 5か所(P1~P5)。P1・P4は竈の両袖部に位置し、P2・P3は南東・南西コーナーから中央部寄りに位置し、それぞれ径20~25cmの円形で、深さ46~68cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置し、径30cmの円形で、深さ30cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

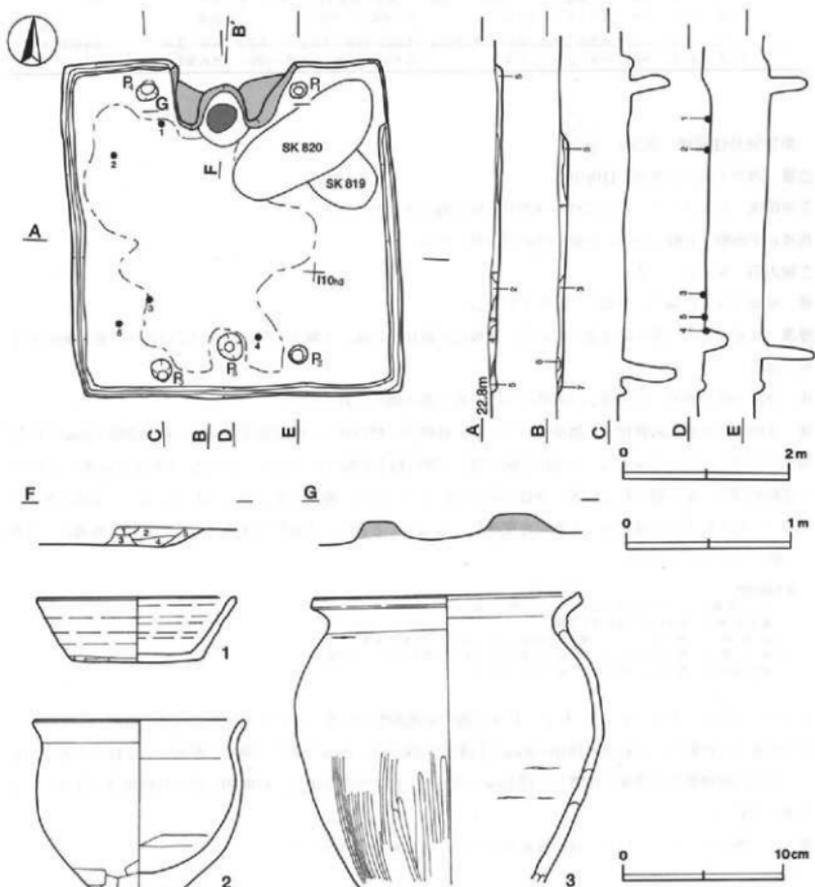
土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子少量

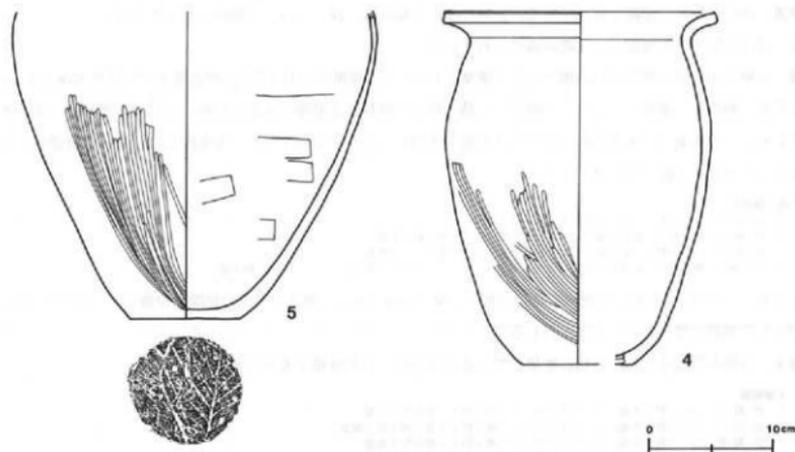
- 3 褐色 rome小ブロック・rome粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 rome小ブロック・rome粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 rome粒子中量
- 6 暗褐色 粘土小ブロック中量, rome粒子少量
- 7 暗褐色 rome粒子・粘土小ブロック少量, rome小ブロック・焼土粒子少量

遺物 土師器片278点, 須恵器片11点が出土している。第308・309図1の須恵器杯は, 北西部の床面から逆位で出土している。2の土師器甕は, 北西部の覆土下層から出土した破片数点が接合したものである。3・5の土師器甕は, 南西部の床面から土圧でつぶれた状態で出土している。4の土師器甕は, 南部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第308図 第1158号住居跡・出土遺物実測図



第309図 第1158号住居跡出土遺物実測図

第1158号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第308図 1	埴 器	A 11.9	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は丸く収めている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持りヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P 40578 99% P L 235
		B 4.0				
2	甕 土 師 器	A [10.6]	体部から口縁部にかけての破片。平底。小形。体部は球形を呈し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ。下位横位のヘラ削り。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい黄褐色、普通	P 40574 70% P L 235
		B 10.5				
		C 5.2				
3	甕 土 師 器	A 16.0	体部から口縁部にかけての破片。体部は長筒形を呈し、頸部でくびれ、口縁部は外反する。端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ。下位ヘラ削き。内面ヘラナデ。体部外面輪轆み痕。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい赤褐色 普通	P 40575 75% P L 236
		B (17.8)				
第309図 4	甕 土 師 器	A [21.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。端部はわずかに上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ。中位から下位ヘラ削き。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・褐色 普通	P 40576 30% P L 236
		B 28.4				
		C [8.6]				
5	甕 土 師 器	B (24.7)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面中位から下位にかけてヘラ削き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・にぶい赤褐色、普通	P 40577 50% P L 235
		C 8.6				

第1160号住居跡(第310・311図)

位置 調査4区の北部、H10j8区。

重複関係 北西部で第1149号住居跡を、北東部で第1156号住居跡を掘り込んでいる。全体を第1148号住居に、北東部を第1415号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.08m、短軸2.98mの方形である。

主軸方向 N-8°-W

壁 東壁の立ち上がりは、第1148号住居に掘り込まれているために確認できなかった。それ以外の壁高は26〜60cmで、ほぼ直立する。

壁溝 南壁を除き、壁際を巡っている。上幅10cm、下幅6cm、深さ4cmで、断面はU字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に72cm掘り込んで構築されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ93cmである。天井部・袖部は、遺存していない。硬化した粘土粒子や砂粒が北壁際の床面に散在しており、竈材の一部と考えられる。火床面は、床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道は、火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 灰褐色 粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量

ピット 1か所。P1は、径28cmのほぼ円形で、深さ23cmである。南壁中央部の壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

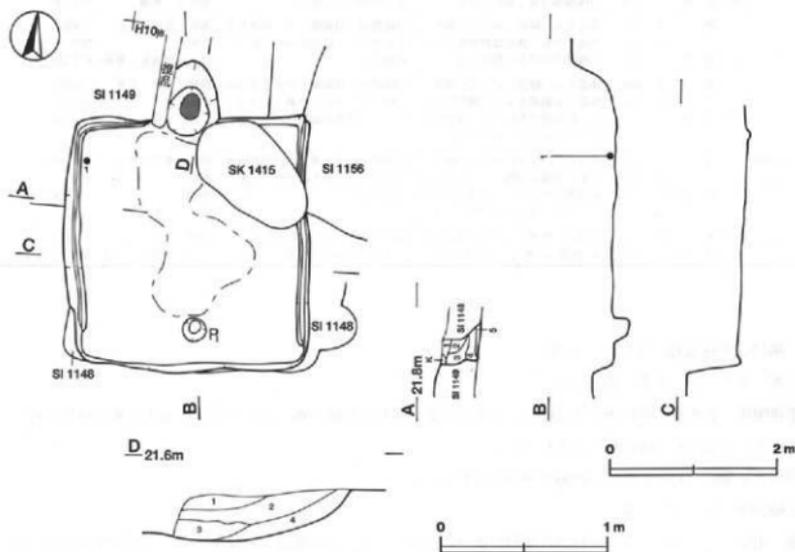
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

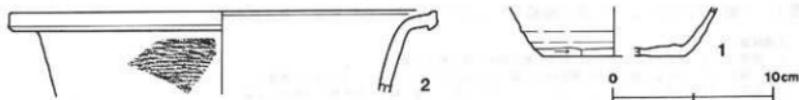
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片42点、須恵器片15点が出土している。第311図1の須恵器杯片は西壁際の覆土下層から、2の須恵器鉢片は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から、8世紀中葉と考えられる。



第310図 第1160号住居跡実測図



第311図 第1160号住居跡出土遺物実測図

第1160号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第311図 1	環	B (3.0) C [8.6]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナテ。体部下端手持ちへう割り。底部1方向のへう割り。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄色、普通	P40193 5%
	鉢 底慮器	A [26.0] B (5.0)	体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。端部は上下に突出させている。	口縁部内・外面ロクロナテ。体部外面横位の平行印き、内面ナテ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P40275 5%

第1161号住居跡 (第312・313図)

位置 調査4区の北東部, H11b3区。

規模と平面形 北部が調査区域外に延びているために、全容は不明である。東西軸は4.84mで、南北軸は0.82mだけが確認できた。南東コーナー及び南西コーナーが直角であることから、方形または長方形と推定される。主軸方向 N-8°-W。南壁中央部の壁際に位置するピットが出入り口施設に伴うピットと推定されることから、南壁直交方向を主軸方向とした。

壁 壁高は22~51cmで、ほぼ直立する。

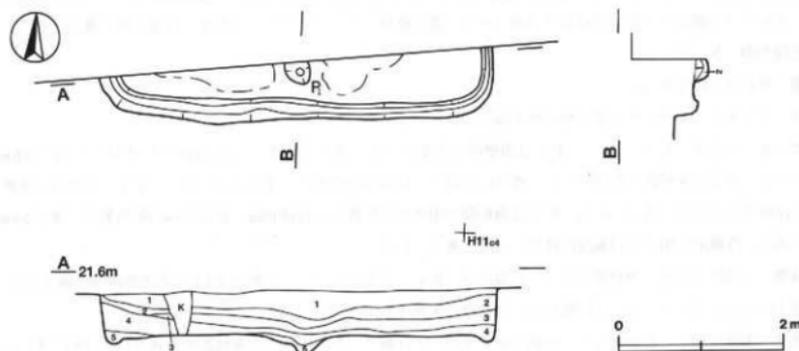
壁溝 確認された壁際を巡っている。上幅16~20cm、下幅8~12cm、深さ8~10cmで、断面はU字形である。

床 はほぼ平坦で、壁際を除き、よく踏み固められている。

ピット 1か所。P1は、径28cmのほぼ円形で、深さ16cmである。南壁中央部の壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量



第312図 第1161号住居跡実測図

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

遺物 土師器片46点、須恵器片4点が出土している。第313図1の須恵器坏片と2の土師器甕片は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から、8世紀中葉ないし後葉と考えられる。



第313図 第1161号住居跡出土遺物実測図

第1161号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第313図 1	坏 須 恵 器	B (1.4) C [8.0]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 褐灰色、普通	P 40225 15%
2	甕 土 師 器	B (1.9) C [6.8]	底部から体部下端にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端横位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい黄褐色、普通	P 40226 5%

第1162号住居跡 (第314図)

位置 調査4区の中央部、I105区。平成7年度と平成10年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査も北部は平成7年度、南部は平成10年度と両年度にまたがった。

規模と平面形 平成7年度の調査区域は攪乱を受けており、全容は不明である。東西軸は4.40mで、南北軸は1.50mだけが確認できた。南東及び南西コーナー部が直角であることから、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

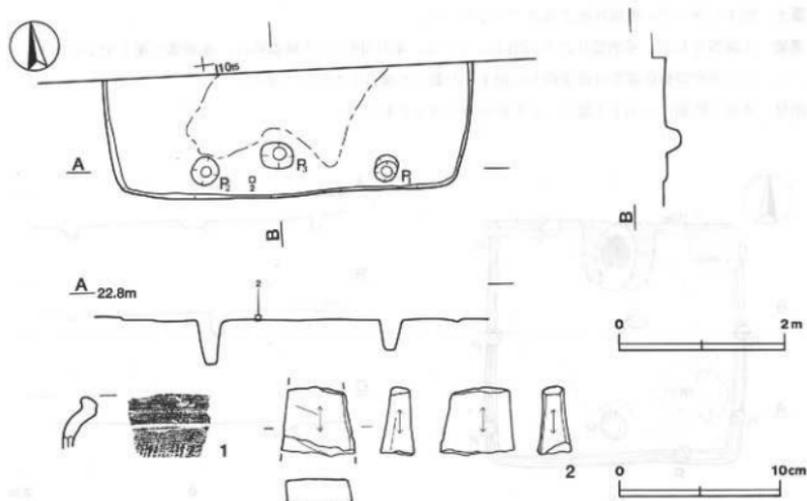
壁 壁高は5cmである。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は南壁際の南東コーナー寄りに位置し、径25cmのはほぼ円形で、深さ39cmである。P2は南壁際の南西コーナー寄りに位置し、径30cmの円形で、深さ57cmである。P1・P2は、規模と位置から支柱穴と考えられる。P3は南壁際の中央部に位置し、長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さ20cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物 土師器片15点、須恵器片9点、石器1点(砥石)が出土している。第314図1の須恵器鉢の口縁部片は、覆土中から出土している。2の砥石は、南壁際の床面から出土している。

所見 本跡は出土土器が少なく、時期を限定することは難しいが、出土した須恵器の形状から9世紀と考えられる。



第314図 第1162号住居跡・出土遺物実測図

第1162号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第314図 1	鉢 須恵器	B (3.1)	口縁部の破片。口縁端部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面ナデ。	赤土・色調・焼成 砂粒・雲母・長石 にぶい黄褐色。普通	T P 40504 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第314図2	砥石	(4.2)	(4.6)	(2.1)	(45.0)	凝灰岩	両端部欠損。砥面4面。	Q40506 P L239

第1164号住居跡(第315図)

位置 調査4区の中央部, I10j6区。

重複関係 西部で第57号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.10m, 短軸3.00mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は4cmである。

壁溝 全周している。規模は上幅12~17cm, 下幅4~8cm, 深さ約4cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

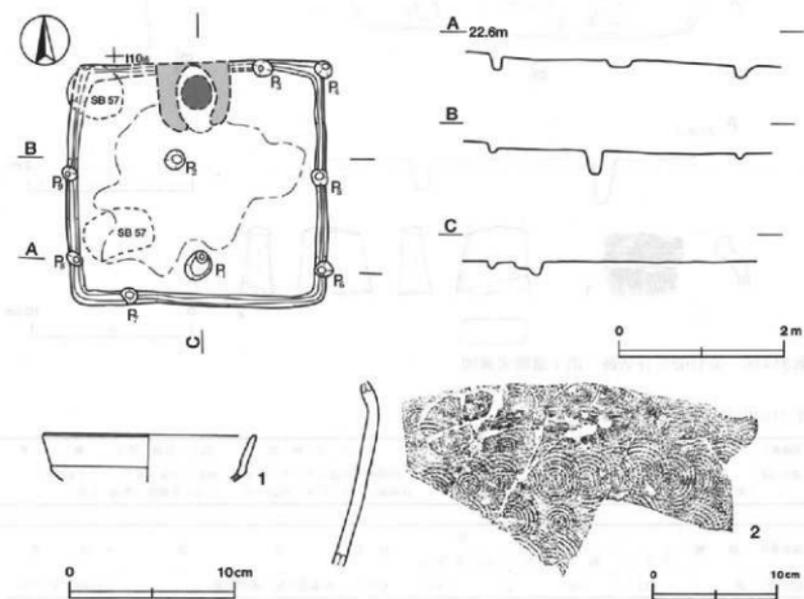
竈 粘土と焼土粒子・炭化粒子の分布が北壁の中央部で検出された。火床部の痕跡で、火床面は赤変している。

ピット 9か所(P1~P9)。P1は南壁際の中央部に位置し、長径40cm, 短径32cmの楕円形で、深さ16cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は性格不明である。P3~P9は壁際沿いに位置し、径17cm~25cmで、深さ13cm~27cmである。位置的に壁柱穴の可能性が考えられる。

覆土 覆土が薄いため堆積状況は確認できなかった。

遺物 土師器片43点、須恵器片21点が出土している。第315図1の土師器坏は、北東部の覆土中から出土している。2の須恵器甕体部片は確認面から出土した数片が接合したものである。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第315図 第1164号住居跡・出土遺物実測図

第1164号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第315図 1	坏	A [128] B (28)	体部上位から口縁部の破片。体部と口縁部の境に段をもつ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子 橙色、普通	P 40637 5%
	土師器	B (15.1)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面同心円状の叩き目。内面ナデ。	砂粒・雲母 灰色、普通	T P 40605 5%
2	須恵器					

第1167号住居跡（第316図）

位置 調査4区の中央部，I10h8区。

重複関係 本跡の大部分が第1169号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 傾斜地に立地しており，東部が遺存していないため全容は不明である。南北軸は3.20mで，東西軸は4.00mだけが確認できた。北西・南西コーナーが直角であることや，ピットや壁溝の位置から，長方形

と推定される。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は8~10cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈の東側で確認された。規模は上幅12~18cm、下幅5~8cm、深さ約3cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦である。

竈 粘土と焼土粒子・炭化粒子の分布が、北壁の中央部で検出された。火床部の痕跡で、火床面は赤変している。

ピット 1か所。P1は南壁際に位置し、径20cmの円形で、深さ18cmである。位置的に、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 2層からなる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

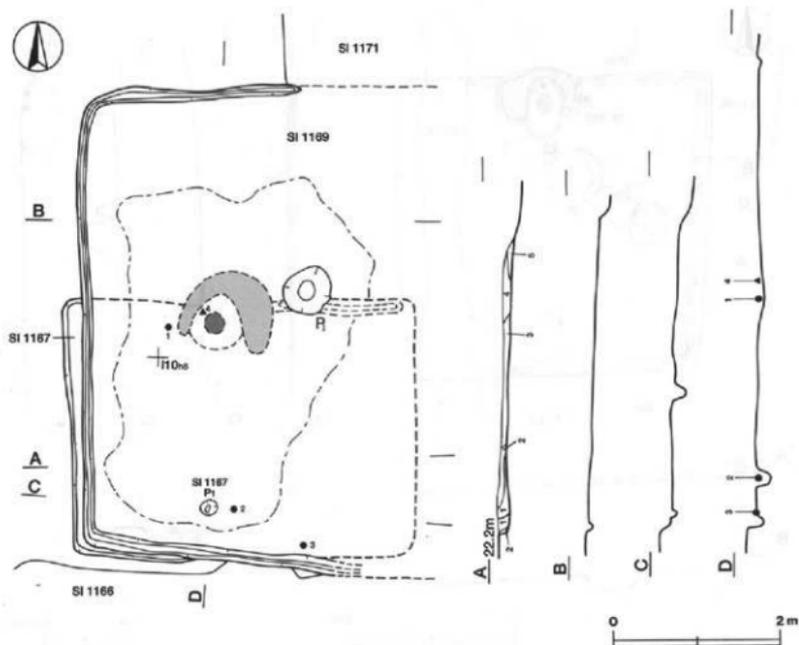
土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量

2 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック中量

遺物 土師器片5点が出土している。

所見 出土土器が少なく時期を限定することはできないが、8世紀後葉と考えられる第1169号住居に掘り込まれていることや、隣接する8世紀中葉と考えられる第1168号住居跡と軸方向がほぼ同じであることから8世紀と考えられる。



第316図 第1167・1169号住居跡実測図

第1168号住居跡 (第317・318図)

位置 調査4区の中央部, I10J8区。

重複関係 北部で第1166号住居跡を掘り込んでいる。また、東部で第65号溝に、北西部で第824号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 傾斜地に立地しており、東部が遺存していないため全容は不明である。南北軸は3.60mで、東西軸は2.70mだけが確認できた。北西・南西コーナーが直角であることやピットの位置から、方形と推定される。

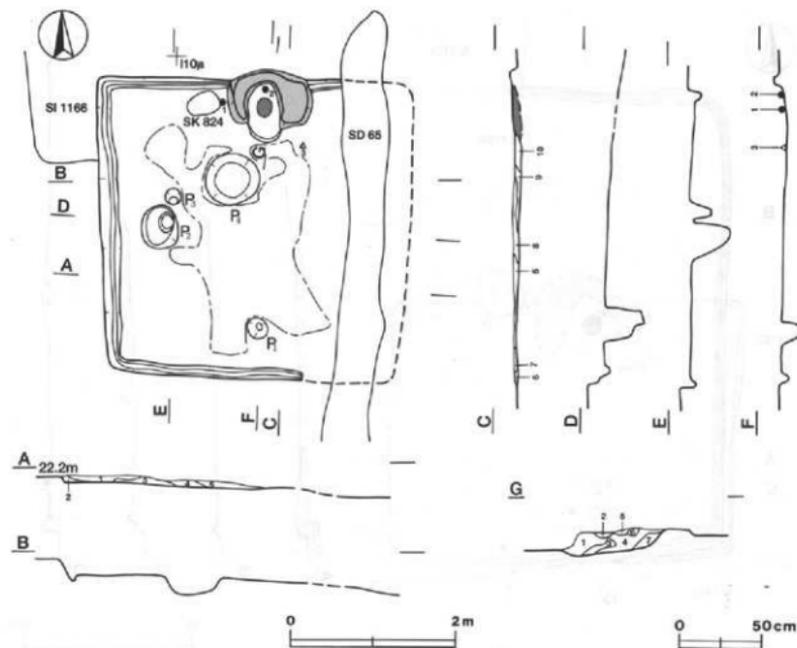
主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は12~18cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁下に巡っている。規模は上幅12~25cm, 下幅4~6cm, 深さ約8cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に20cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口から煙道部まで95cm, 両袖幅103cmである。東袖部の内側は、火熱を受け赤変している。土層断面図中、第4層は焼土ブロックや焼土粒子を多量に含み、下面が赤変していることから、下面が火床面と考えられる。煙道は、外傾して緩やかに立ち上がる。



第317図 第1168号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 暗褐色 rome 粒子中量、黄土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 黄土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 濃い赤褐色 黄土粒子・砂粒少量、rome 小ブロック微量
- 4 濃い赤褐色 黄土小ブロック、黄土粒子中量、炭化粒子少量
- 5 暗褐色 rome 粒子中量、黄土粒子・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 黄土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量
- 7 濃い赤褐色 rome 粒子中量、黄土小ブロック・黄土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

ピット 4か所 (P1~P4)。P1は南壁際に位置し、径30cmの円形で、深さ18cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2~P4は、径20cm~65cmのほぼ円形で、深さ21~50cmである。性格は不明である。

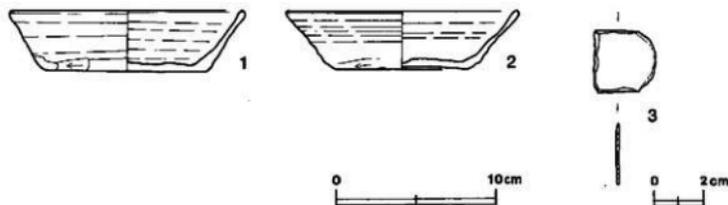
覆土 10層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 rome 粒子・黄土小ブロック・黄土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 rome 粒子中量、rome 小ブロック・黄土粒子少量
- 3 暗褐色 rome 粒子中量、rome 小ブロック・黄土小ブロック・黄土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 rome 粒子・黄土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 rome 粒子・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 rome 小ブロック・rome 粒子・黄土粒子少量
- 7 暗褐色 rome 小ブロック・rome 粒子中量、黄土粒子少量
- 8 暗褐色 rome 粒子中量、rome 小ブロック・黄土粒子・炭化粒子少量
- 9 暗褐色 rome 粒子中量、rome 小ブロック少量
- 10 暗褐色 rome 小ブロック・rome 粒子中量、黄土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片109点、須恵器片22点、不明鉄製品1点が出土している。第318図1の須恵器杯は、竈西袖部際の床面から正位で出土している。2の須恵器杯は、竈内の覆土下層から出土している。3の不明鉄製品は、竈正面の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第318図 第1168号住居跡出土遺物実測図

第1168号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第318図1	須恵器杯	A 14.2	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロコナア。体部下両手持ちへう張り。底部は松へう切り後、1方向のへう張り。	砂粒・雲母 黄灰色	P.40613
		B 3.8				70%
		C 9.7				P.L.235
2	須恵器杯	A [14.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナア。体部下両手持ちへう張り。底部2方向のへう張り。	砂粒・雲母・炭石 黄灰色	P.40614
		B 3.6				40%
		C [8.0]				P.L.235

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第318図3	不明鉄製品	(2.5)	(2.6)	(0.2)	(2.96)	鉄	覆土。角部を円弧状に取めている。鏡面の可能性有り。	M40505 P.L.238

第1169号住居跡（第316・319図）

位置 調査4区の中央部，I10g8区。

重複関係 南西部で第1166・1167号住居跡を，北東部で第1171号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 傾斜地に立地しており，東部が遺存していないため全容は不明である。南北軸は5.70mで，東西軸は3.90mだけが確認できた。北西・南西コーナーが直角であることから，方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は8~12cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北西部から南西部にかけて巡っている。規模は上幅12~20cm，下幅4~6cm，深さ約7cmで，断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり，中央部が特に踏み固められている。

ピット 1か所。P1は中央部に位置し，径58cmの円形で，深さ28cmである。性格は不明である。

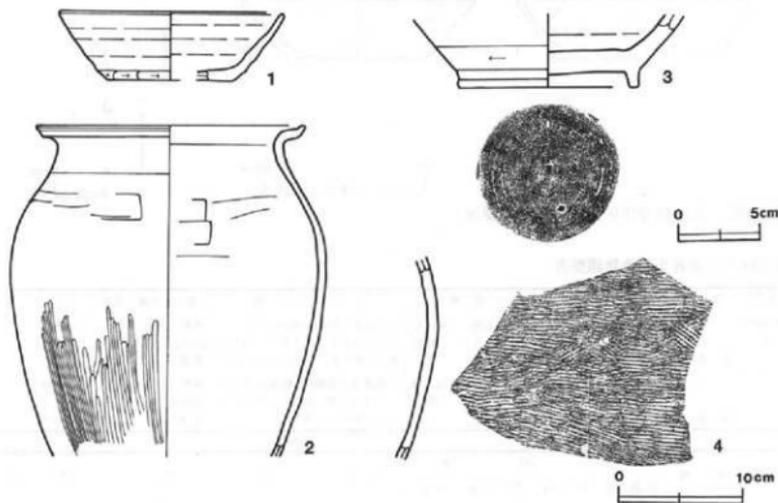
覆土 5層からなる。ブロック状の堆積状況から，人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・
焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子
少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子
少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量 |
| | | 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物 土器器片113点，須恵器片41点が出土している。第319図1の須恵器環は，西部の床面から出土した2片が接合したものである。2の土師器甕は，南部の床面から出土した破片数点が接合したものである。3の須恵器瓶の底部から体部片は，南壁際の床面から出土している。4の須恵器甕体部片は，西部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第319図 第1169号住居跡出土遺物実測図

第1169号住居跡出土遺物観察表

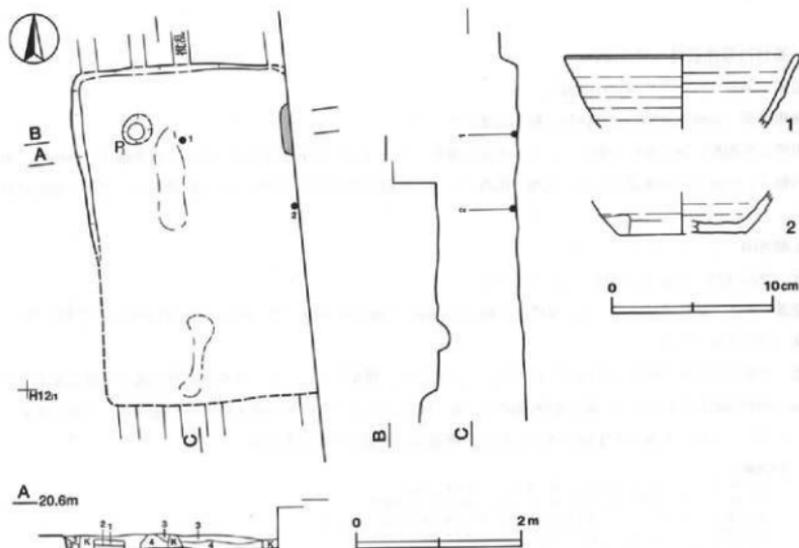
図番	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第319図 1	環 須恵器	A [135]	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P40516 30%
		B 4.2				
		C [7.6]				
2	甕 土師器	A [21.2]	体部から口縁部の破片。体部は内傾して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は外反する。端部はわずかに上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面上位ヘラナデ。中位から下位にかけてヘラ磨き。内面ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石 にぶい赤褐色 普通	P40615 20% P L 236
		B (26.5)				
3	瓶 須恵器	B (4.4)	高台部から体部にかけての破片。高台は短くハの字状に開く。体部は内傾気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、ナデ。	砂粒・雲母・長石 黄灰色 普通	P40617 10% P L 235
		D [10.8]				
		E 1.1				
4	甕 須恵器	B (16.3)	体部片。体部は内傾して立ち上がる。	体部外面横位の平行印き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石 灰色、普通	T P 40506 5%

第1170号住居跡 (第320図)

位置 調査4区の北東部、H12h1区。南に下る緩斜面上に立地している。

規模と平面形 東部が調査区域外に延びているために、東西軸は2.67mだけが確認された。南北軸は、南壁の立ち上がりが確認されなかったため、床面の広がりから4.13mと推定した。平面形は、北西コーナーが直角であることから、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-5°-W



第320図 第1170号住居跡・出土遺物実測図

壁 北壁と西壁で確認できた壁高は17~21cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、北壁際及び南壁と推定される付近の床面から踏み固められた部分が検出された。

竈 北部の床面から焼上や粘上粒子、砂粒が検出されていることから、北壁際に砂質粘土で構築されていたと考えられる。

ピット 1か所。P1は、径36cmの円形、深さ14cmで、北西コーナー寄りに位置している。性格は不明である。

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片37点、須恵器片3点が出土している。第320図1の須恵器坏片はP1の東側の床面から、2の須恵器坏片は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から、8世紀後半ないし9世紀前半と考えられる。

第1170号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第320図 1	坏	A [4.2] B [4.4]	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面クロナテ。	砂粒・雲母・長石・石英 黒色、黄褐色	P40227 10%
	須恵器	B (2.6) C [7.6]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面クロナテ。体部下部手持りへう彫り。底部回転へう彫り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、黄褐色	P40228 10%

第1171号住居跡 (第321図)

位置 調査4区の中央部、I10g8区。

重複関係 南西部を第1169号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 傾斜地に立地しており、東部が遺存していないため全容は不明である。南北軸は3.28mで、東西軸は2.63mだけが確認できた。北西・南西コーナーが直角であることやピットの位置から、方形と推定される。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は12~17cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東部を除いて巡っている。規模は上幅15~18cm、下幅5~8cm、深さ約7cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁の中央部を壁外に30cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで98cm、両袖部幅107cmである。竈土層断面図中、第3層は、焼土ブロックや焼土粒子を中量含み、下面が赤変していることから、下面が火床面と考えられる。煙道は、外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・砂粒少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量、砂粒少量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子・砂粒少量
- 5 暗褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、粘土粒子・粘土粒子・砂粒少量

ピット 1か所。P1は南壁際の中央部に位置し、径25cmの円形で、深さ29cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

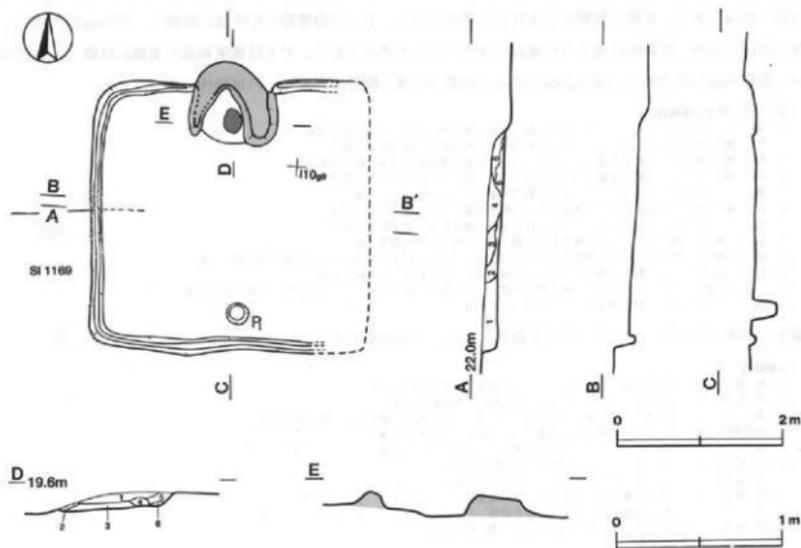
覆土 6層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片14点、須恵器片1点が出土している。

所見 出土土器が少なく時期を限定することはできないが、南東部を8世紀後葉と考えられる第1169号住居に掘り込まれていることや、隣接する8世紀中葉と考えられる第1168号住居跡と軸線がほぼ同じであることから8世紀と考えられる。



第321図 第1171号住居跡実測図

第1172号住居跡 (第322図)

位置 調査4区の中央部、J10b6区。

重複関係 南東コーナー部を第821号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.29m、短軸4.27mの方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は5~12cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。規模は上幅14~18cm、下幅7~10cm、深さ約7cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に10cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで85cm、両袖部幅78cmである。袖部内側は、火熱を受け赤変している。竈土層断面図中、第3層は焼土ブロックや焼土粒子を多量に含み、下面が赤変硬化していることから、下面が火床面と考えられる。煙道は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材・炭化粒少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量
- 3 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、炭少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒少量

ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4は各コーナーから中央部寄りに位置し、径35~45cmの円形で、深さ36~63cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際の中央部に位置し、径28cmの円形で、深さ24cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は竈東袖部の東側に位置し、長径98cm、短径85cmの楕円形で、深さ21cmである。位置から竈に関連するピットの可能性が考えられる。

P1~4・P6土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭十粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒少量
- 8 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 10 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 11 にぶい赤褐色 ローム小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 12 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

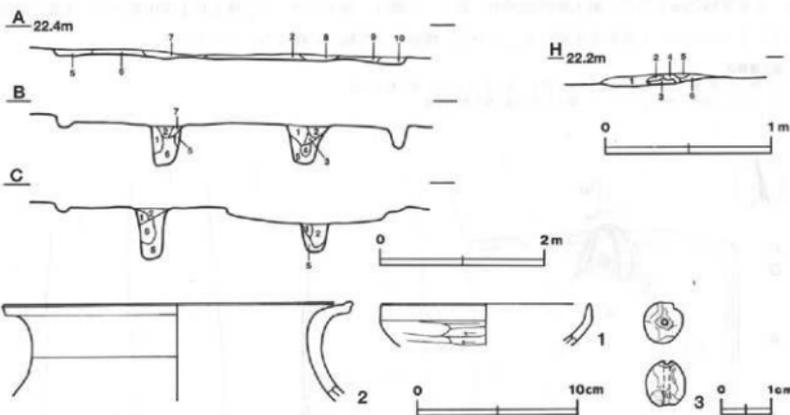
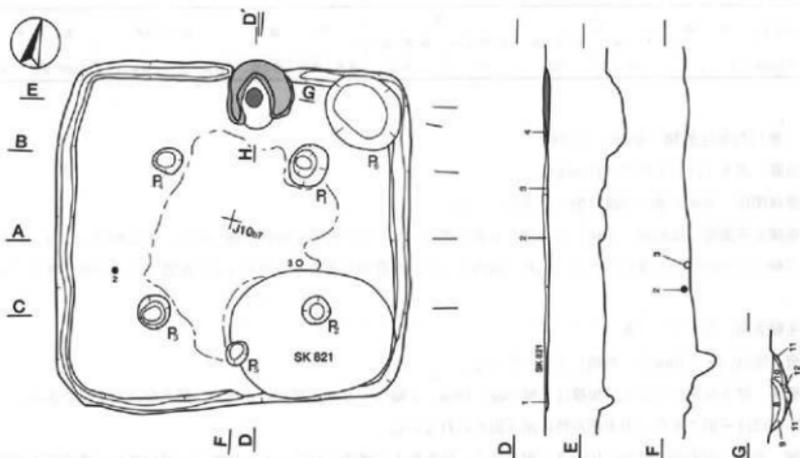
覆土 10層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 コーム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック少量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量

遺物 土師器片101点、土製品1点(土玉)、須恵器片3点、鉄滓1点が出土している。第322図1の土師器杯片は西部の覆土中から、2の土師器甕片は西部の床面から出土している。3の土玉は、中央部の床面から出土している。鉄滓が出土しているが、鍛冶伊等は検出されなかった。

所見 木跡の時期は、出土土器から8世紀前半と考えられる。覆土中から出土した1の土師器杯は7世紀前半と考えられるが、埋没途中で混入したものと考えられる。



第322図 第1172号住居跡・出土遺物実測図

第1172号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第322図 1	罎 土器	A [12.8] B (2.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面横ナデ。	砂粒・雲母・赤色粒子にふい黄褐色。普通	P40618 5%
2	壺 土器	A [21.2] B (6.0)	口縁部片。頸部はくの字状に屈曲する。口縁部は外反気味に開き、頸部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英にふい藍色。普通	P40619 5% P.L.235

図版番号	器種	計測値				特徴	粘土・色調	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第323図3	土玉	0.8	0.9	0.1	0.5	球体、外面一部欠損。	砂粒・長石、明褐色	DP4007, 80%, PL28

第1173号住居跡 (第323・324図)

位置 調査4区の中央部, J10a8区。

重複関係 東部を第65号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 傾斜地に立地しており、東部が遺存していないため全容は不明である。南北軸は3.23mで、東西軸は3.16mだけが確認できた。北西・南西コーナーが直角であることやピットの配置から、方形と推定される。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は8~10cmで、外傾して立ち上がる。

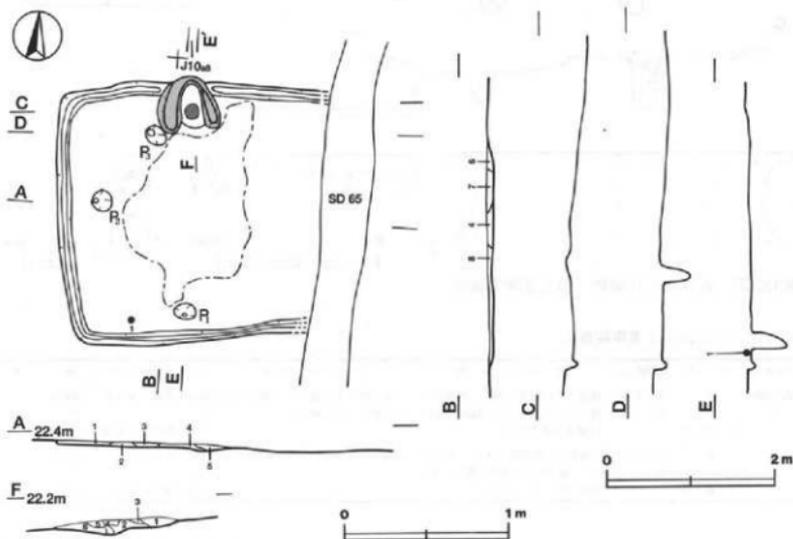
壁溝 壁下を巡っている。規模は上幅13cm~18cm、下幅5~9cm、深さ約6cmで、断面形はU字形である。

床 はほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に10cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで65cm、両袖部幅75cmである。竈土層断面図中、第2・6層は、焼土ブロックや焼土粒子を中量含み、下面が赤変していることから、下面が火床面と考えられる。煙道は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量



第323図 第1173号住居跡実測図

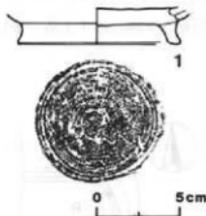
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 5 暗赤褐色 ローム小ブロック・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子少量

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は南壁際の中央部に位置し、長径25cm、短径20cmの楕円形で、深さ45cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3は、それぞれ径25cm・20cmの円形で、深さ40cm・35cmである。性格は不明である。

覆土 8層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



第324図 第1173号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片35点、須恵器片2点が出土している。第324図1の須恵器高台付坏底部片は、南西部の床面から出土している。

所見 本跡は、出土土器が少なく時期を限定することは難しいが、出土した土器の形状から8世紀と考えられる。

第1173号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第324図 1	高台付坏 土師器	B (21) D [9.6] E 1.3	高台部片。高台はハの字に開く。	底部回転へく崩れ後、高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P 40620 5% P L.235

第1176号住居跡 (第325図)

位置 調査4区の中央部、I10h9区。

重複関係 中央部から東部を第12号溝に、南部を第943号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 第12号溝に掘り込まれているため全容は不明である。南北軸は3.93mで、東西軸は1.40mだけが確認できた。北西、南西コーナー部が直角であることから、方形または長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は9~17cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁下を巡っている。規模は上幅18~30cm、下幅6~13cm、深さ約6cmで、断面形はU字形である。

床 はほぼ平坦であり、中央部が特に踏み固められている。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1・P2はそれぞれ北西コーナー・南西コーナーからやや中央部寄りに位置し、径38cm・43cmの円形で、深さ18cm・21cmである。規模と位置から主柱穴と考えられる。

覆土 8層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

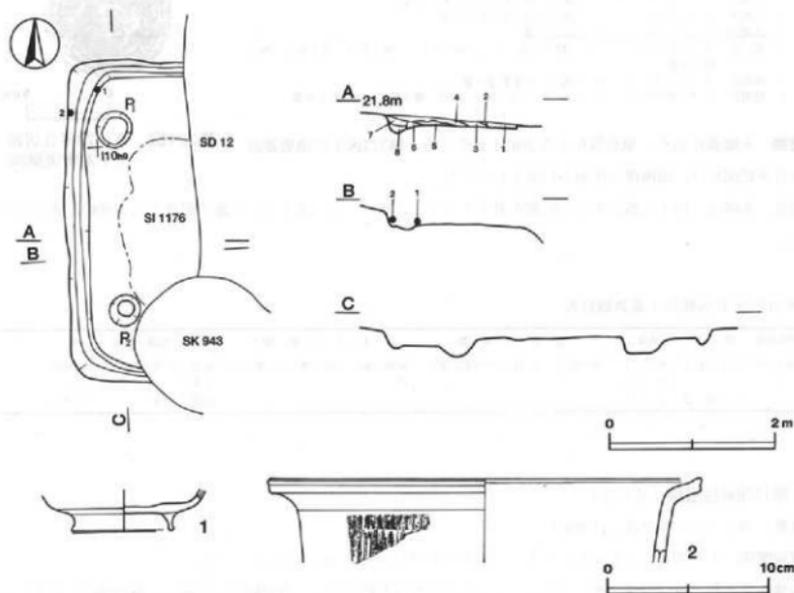
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量

- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
 6 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
 8 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片64点、須恵器片13点が出土している。第325図1の須恵器高台付杯の底部片は、北西コーナー部の床面から出土している。2の須恵器鉢の口縁部片は、西壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡は出土土器が細片で時期を断定することはできないが、出土した土器の形状から9世紀と考えられる。



第325図 第1176号住居跡・出土遺物実測図

第1176号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第325図 1	高台付杯 須恵器	B (2.6)	高台部から体部下端の破片。高台はハの字状に開き、体部は外傾して立ち上がる。	体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色、普通	P-40621 5% P L.235
		D 5.9				
		E 1.2				
2	鉢 須恵器	A [26.0]	体部上端から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で屈曲する。	口縁部内・外周ロクロナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黒褐色、普通	P-40622 5%
		B (5.2)				

第1461号住居跡 (第326・327図)

位置 調査4区の北部, H10j4区。第1462号住居跡から北へ4.5mの距離に位置する。

規模と平面形 長軸4.43m, 短軸4.34mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

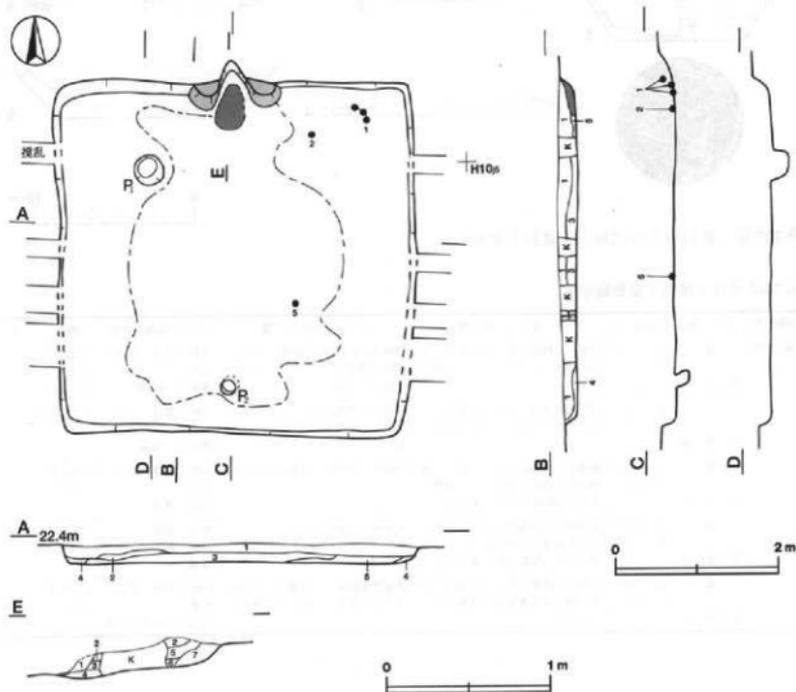
壁 壁高は16~23cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部を壁外に33cm掘り込んで, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ75cm, 両袖部幅116cmである。天井部は崩落している。火床面は, 床面と同じ高さの平坦面を使用しており, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道は, 火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土中ブロック中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 3 極暗赤褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
- 4 黒褐色 炭化粒子・粘土粒子中量, 焼土粒子・砂粒少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 粘土粒子・砂粒少量



第326図 第1461号住居跡実測図

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は径36cmのはぼ円形、深さ21cmで、北西コーナー寄りに位置している。性格は不明である。P2は、径18cmの円形、深さ15cmで、南壁中央部の壁際に位置している。中央部に向かって斜めに掘り込まれており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

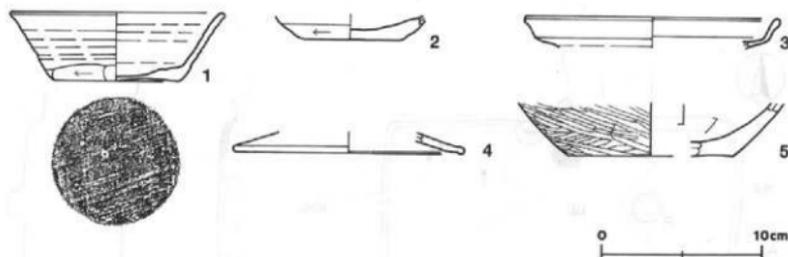
覆土 5層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・黄土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量

遺物 土師器片198点、須恵器片29点が出土している。第327図1の須恵器杯は、北東コーナー一部の床面から出土した破片7点が接合したものである。2の須恵器杯片は、北東コーナー寄りの床面から出土している。3の須恵器盤片と4の須恵器蓋片は、いずれも甕の覆土中から出土している。5の土師器甕片は、中央部の床面から出土している。いずれも、出土位置から、本跡に伴うものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から、8世紀後半と考えられる。



第327図 第1461号住居跡出土遺物実測図

第1461号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第327図 1	須恵器 杯	A 12.9	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 褐色、普通	P40230 75% P.L.235
		B 4.2				
		C 7.7				
2	須恵器 杯	B (1.6)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P40231 10%
		C [6.2]				
3	須恵器 盤	A [15.6]	体部から口縁部にかけての破片。体部は外方に張り、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P40232 5%
		B (1.8)				
4	須恵器 蓋	A [14.2]	天井部から口縁部にかけての破片。天井部はなだらかに降下し、口縁部に至る。端部は短く垂下する。	天井部、口縁部ロクロナデ。	雲母・長石 に多い褐色 普通	P40233 5%
		B (1.2)				
5	土師器 甕	B (3.3)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部外面斜位のヘラ磨き。内面ヘラナデ。底部1方向のヘラ磨き。	砂粒・雲母・長石・石英 に多い黄褐色、普通	P40234 5%
		C [10.0]				

第1462号住居跡 (第328図)

位置 調査4区の北部, I10b3区。第1461号住居跡から南へ4.5mの距離に位置する。

規模と平面形 床面が露出した状態で検出され、壁の立ち上がりを確認できなかったため、床面の広がりや竈の位置、壁溝から規模を推定した。長軸4.47m、短軸3.76mの長方形と推定される。

主軸方向 N-5°-W

床 はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

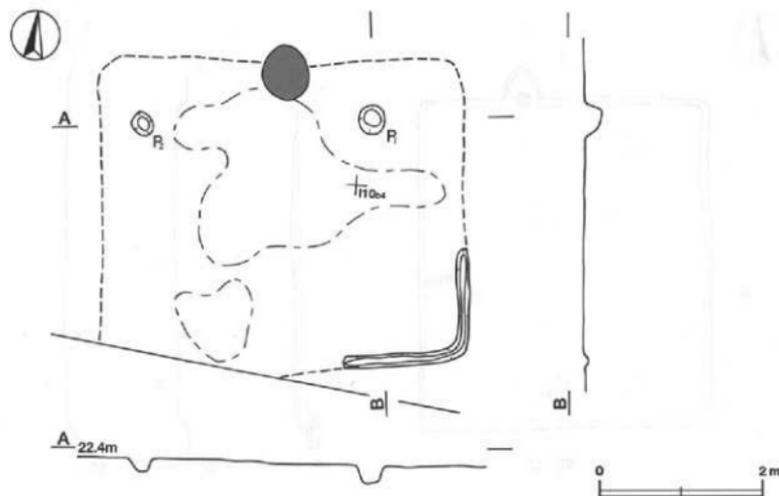
壁溝 南東コーナー部で検出された。上幅12cm、下幅6cm、深さ5cmで、断面はU字形である。

竈 遺存状態が悪く、北壁中央部の壁際から火床面が確認できただけである。火床面は、長径方向を住居の主軸と同じくする長径67cm、短径58cmの楕円形で、火熱を受けて赤変している。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は径33cmの円形、深さ22cmで、P2は径26cmの円形、深さ17cmである。それぞれ北東コーナー寄り・北西コーナー寄りに位置していることから、支柱穴の可能性はある。

遺物 土師器細片21点が出土している。出土した土器片はいずれも甕・瓶類の体部片であり、時期を判断できるものは出土していない。

所見 時期は、第1461号住居跡と住居の主軸方向や規模が近似することから、8世紀代と考えられる。



第328図 第1462号住居跡実測図

第1464号住居跡 (第329図)

位置 調査4区の北部, I10a5区。

規模と平面形 長軸4.02m、短軸3.62mの長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は4~6cmで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁の東寄りを壁外に39cm掘り込んで、砂質粘土で構築されている。天井部や袖部は遺存していない。規模は、狭口部から煙道部までの長さ58cm、壁外に掘り込んだ部分の燃焼部幅46cmである。火床面は、床面と同じ高さの平坦面を使用しており、火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 1か所。P1は、径18cmのはほぼ円形で、深さ30cmである。南壁中央部の壁際に位置することから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

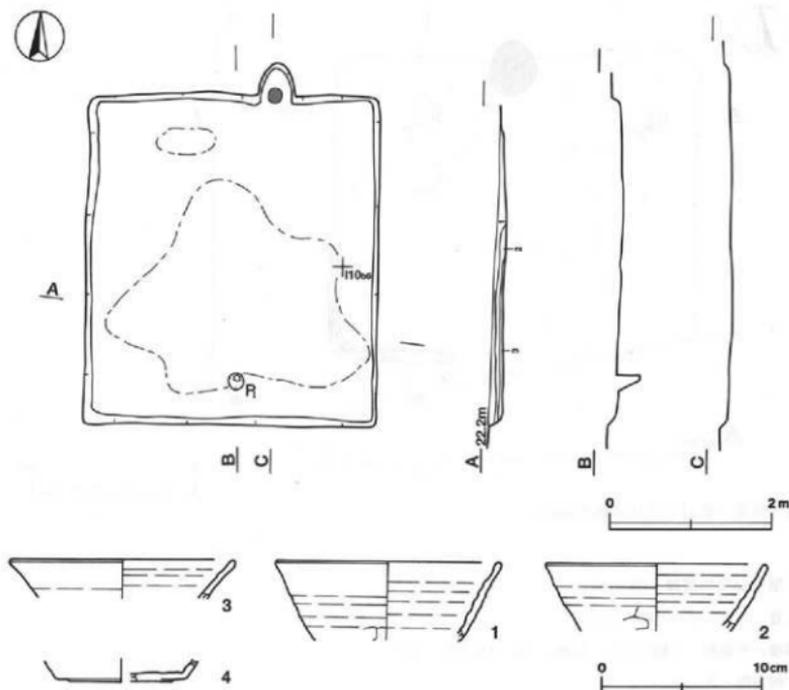
覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器片137点、須恵器片25点、攪乱により混入した陶器片3点が出土している。第329図1の須恵器杯片は南東部の覆土中から、2の須恵器杯片は南西部の覆土中から、3の須恵器杯片は北西部の覆土中から、4の須恵器杯片は南東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から、8世紀後葉ないし9世紀前葉と考えられる。



第329図 第1464号住居跡・出土遺物実測図

第 1464 号住居跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第329層 1	坏	A [13.8] B (4.8)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外側ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ型。	砂粒・炭屑・長石・石美、黄灰色、普通	P 40238 5%
	須恵器	A [3.6] B (4.1)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外側ロクロナデ。	砂粒・炭屑・長石・石美、黄灰色、普通	P 40239 5%
3	坏	A [13.7] B (2.4)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外側ロクロナデ。	砂粒・炭屑・長石・石美、にぶい貴特色	P 40240 5%
	須恵器	B (1.3) C [4.0]	底部から体部下端にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外側ロクロナデ。底部不定方向のヘラ型。	炭屑・長石・石美、黄灰色、普通	P 40241 5%

表 3 4 区住居跡一覽表

住居番号	位置	土層方向	平面形	真 横 (m)	壁 高 (cm)	床面	内 部 施 設						質 土	出 土 遺 物	備 考
							壁 礎	ピット	土柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴			
20	K10-C	N-21°W	長方形	6.58 × 6.12	20~45	平直	全周	1	3	-	竈1	-	自然	土師器 (坏・高坏・高坏・高坏) 支脚	本層→S121→S222→S223
21	K11c1	N-34°W	長方形	[6.43] × [5.02]	-	平直	-	-	2	1	竈1	-	自然	土師器 (坏)	S20→本層→S22→本層
22	K11c1	N-30°W	長方形	6.43 × 5.02	34~45	平直	全周	-	-	-	竈1	-	自然	土師器 (坏・高坏・高坏)	S20→本層→S223
23	K11b1	N-14°W	方形	4.16 × 3.92	54	平直	全周	-	4	-	竈1	-	人為	須恵器 (板蓋) 土師器 (高坏)	S20→S21→22→本層→S11013-1014
29	K10b6	N-32°W	[方形・長方形]	6.86 × 4.90	0~22	平直	全周	-	3	1	-	-	自然	土師器 (坏)	S130→本層→S20
129	I10a9	N-2°E	長方形	[5.01] × [1.66]	48~95	平直	一部	-	2	-	竈1	-	自然	須恵器 (坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏)	S130→本層→S20→S219→1102→S200
130	I10a0	N-18°W	[方形]	[4.56] × 5.93	14~30	平直	一部	1	3	-	竈1	-	人為	土師器 (坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏)	本層→S219→1102→S200
407	J11g4	N-6°W	方形	6.28 × 6.24	54	平直	全周	-	4	1	-	-	-	土師器 (坏)	本層→S1956
954	J9b6	N-80°E	方形	4.73 × 3.20	20~29	平直	全周	-	4	1	竈1	-	自然	土師器 (坏・高坏) 土師器 (高坏)	本層→S1956・S1978
956	J9e6	N-25°E	[長方形]	3.62 × [2.00]	16~24	平直	-	-	4	1	竈1	-	人為	土師器 (高坏) 土師器 (高坏)	S1956・977→本層
959	J9a5	N-2°W	方形	6.72 × 6.27	16~45	平直	全周	4	4	2	竈1	1	人為	土師器 (坏・高坏・高坏・高坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏)	S196→S1914・S196・977・978・S1979
957	J911	N-13°W	長方形	6.38 × 5.70	28~32	平直	全周	-	4	2	竈1	-	人為	土師器 (坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏)	S196→S1914・S196・977・978・S1979
958	J913	N-9°W	方形	5.09 × 4.78	18~25	平直	全周	-	4	2	竈1	-	人為	土師器 (高坏)	S196→S1914・S196・977・978・S1979
960	J819	N-13°W	[長方形]	[3.50] × 3.22	10~27	平直	全周	9	-	-	-	-	人為	土師器 (坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏)	S196→S1914・S196・977・978・S1979
960	K8a0	N-10°W	[長方形]	[2.83] × 2.55	10~25	平直	全周	1	-	-	竈1	-	自然	土師器 (坏)	S196→S1914・S196・977・978・S1979
961	K8a9	N-7°W	[方形・長方形]	[3.30] × [1.65]	40~42	平直	全周	-	2	-	竈1	-	自然	土師器 (高坏) 土師器 (高坏)	S196→S1914・S196・977・978・S1979
963	I9a7	N-11°W	[方形・長方形]	[4.50] × [2.72]	54~66	平直	全周	1	1	-	-	-	自然	土師器 (坏)	S196→S1914・S196・977・978・S1979
964	K8a9	N-5°W	[方形・長方形]	[3.00] × [1.85]	14	平直	全周	-	1	-	竈1	-	自然	土師器 (坏)	S196→S1914・S196・977・978・S1979
965	K8a0	N-103°E	[長方形]	4.91 × 3.62	20~25	平直	全周	-	4	1	竈1	-	自然	土師器 (坏)	S196→S1914・S196・977・978・S1979
966	K8b0	N-19°W	[方形・長方形]	[2.49] × [1.15]	10~27	平直	全周	-	1	-	[竈1]	-	自然	土師器 (高坏)	本層→S1966
967	K9b6	N-18°E	長方形	3.75 × 3.40	5	平直	全周	-	4	1	竈1	-	-	土師器 (高坏)	本層→S1966
968	J9c4	N-11°W	方形	9.41 × 9.25	35~40	平直	全周	-	4	1	竈1	1	自然	土師器 (坏・高坏・高坏) 支脚	本層→S1970・S1971・S1972
969	K9a5	N-9°W	長方形	5.45 × 4.91	8~20	平直	全周	-	3	1	竈1	1	自然	土師器 (高坏)	本層→S1972・S1973
970	J9b2	N-28°W	長方形	3.43 × 3.31	26~50	平直	全周	-	-	3	竈1	-	自然	土師器 (坏・高坏・高坏) 支脚	本層→S1972・S1973
971	J9e2	N-18°W	[方形・長方形]	3.43 × 3.20	40~44	平直	全周	1	1	-	-	-	自然	土師器 (坏)	本層→S1970
972	J9f2	N-17°W	長方形	7.62 × 6.63	20~72	平直	全周	52	4	2	竈1	-	自然	土師器 (坏) 須恵器 (板蓋) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏)	S197→S198→S199→S1970・S1971・S1972
973	J9g2	N-11°W	長方形	4.22 × 3.72	10~25	平直	全周	3	4	1	竈1	-	自然	土師器 (坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏)	S197→S198→S199→S1970・S1971・S1972
974	J9b1	N-30°W	方形	5.65 × 5.23	5~25	平直	全周	2	4	1	竈1	1	自然	土師器 (坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏)	S197→S198→S199→S1970・S1971・S1972
975	J9b2	N-2°W	方形	3.73 × 3.42	10~30	平直	全周	1	-	1	竈1	1	自然	土師器 (坏) 土師器 (高坏)	S197→S198→S199→S1970・S1971・S1972
976	J9f7	N-11°E	長方形	4.01 × 3.30	20~25	平直	一部	3	-	-	竈1	-	人為	土師器 (坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏)	S197→S198→S199→S1970・S1971・S1972
977	J9f6	N-14°E	長方形	3.16 × 2.82	18~22	平直	全周	-	4	1	竈1	-	自然	土師器 (坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏)	S197→S198→S199→S1970・S1971・S1972
978	J9b4	N-15°W	方形	3.86 × 3.65	25~45	平直	一部	-	4	1	竈1	-	自然	土師器 (坏) 土師器 (高坏) 土師器 (高坏)	S197→S198→S199→S1970・S1971・S1972

住居階 番号	変 更	主軸方向	平面形	面積 (㎡) (長軸×短軸)	壁高 (m)	深淵	内 部 施 設						土 土 遺 物	備 考 (前記文書(節))	
							建 物	ビ ッ ト	主 柱 火	出 入 口	伊・電	貯 蔵 火			礎 土
979	J9c0	N-22°W	方形	6.14 × 6.00	28-40	平垣	一部	-	4	1	礎土	-	人為	土師器(杯・環・甕)	S1104→本誌→ S1105・966
980	J20c:	N-20°W	方形	3.44 × 3.28	23-30	平垣	全周	-	-	-	礎土	-	自然	土師器(杯)	-
981	K9b3	N-16°W	長方形	5.36 × 4.77	6-10	平垣	一部	-	4	2	礎土	-	自然	土師器(杯・甕), 陶 器, 瓦	-
982	K9c1	N-7°W	[方形・ 長方形]	4.14 × (3.50)	12-16	平垣	[全周]	-	1	-	礎土	1	自然	土師器(杯), 須古器 (杯・甕), 土師器	-
983	K9d3	N-17°E	長方形	5.34 × 4.76	12	平垣	[全周]	-	4	1	礎土	-	自然	土師器(杯・甕)	-
984	K9c6	N-12°W	[方形]	[4.75] × [4.55]	14	平垣	一部	-	3	-	礎土	-	人為	土師器(杯)	S990→本誌→S1076- 787・789・S1022
985	J10d1	N-11°E	方形	2.82 × 2.76	24-28	平垣	全周	-	4	1	礎土	-	人為	土師器(甕・甕)	S979→本誌
986	J1012	N-70°E	方形	4.20 × 3.90	29-38	平垣	-	-	4	1	[礎土]	-	人為	須古器(杯)	S1077→本誌→ S11006
987	J10a1	N-25°W	方形	6.20 × 6.10	44	平垣	全周	-	4	2	礎土	1	人為	土師器(杯・甕), 須古 器, 瓦, 土師器(杯・甕), 須 古器(高台付杯)	本誌→S1085・983・ 994・998・1005
988	K10a2	N-3°W	[方形・ 長方形]	4.52 × (3.85)	20-40	平垣	[全周]	7	1	1	礎土	-	人為	土師器(杯・甕), 須 古器(高台付杯)	本誌→SD59
989	K10a1	N-3°W	長方形	4.18 × 3.66	10-22	平垣	全周	-	2	2	[礎土]	-	自然	土師器(杯), 美化材	本誌→SD59
990	K9d7	N-30°W	[長方形]	[5.50] × 4.50	5-8	平垣	-	2	4	-	-	-	-	土師器(杯・甕・甕)	A38→S1077・994・ S1022・55・56
991	J9g0	N-30°W	方形	5.86 × 5.84	32-38	平垣	[全周]	2	4	1	礎土	-	自然	土師器(杯・甕)	本誌→S1017・ S1034
992	J8j0	N-12°W	[方形・ 長方形]	3.30 × 0.62	15	平垣	-	-	-	-	-	-	自然	土師器片	S1054→本誌→ S1069・950・955
993	J9i0	N-10°W	方形	4.80 × 4.60	32-38	平垣	全周	-	4	1	礎土	1	人為	須古器(杯・甕), 土 師器(甕)	S1087→本誌
994	J10g2	N-20°W	方形	3.85 × 3.65	30-38	平垣	全周	1	4	1	礎土	-	自然	土師器(杯・甕)	S1087→本誌
995	J9f6	不明	[方形・ 長方形]	[2.10] × [0.34]	4	平垣	[全周]	-	-	-	-	-	-	-	本誌→S1066・977
996	J9d0	N-6°E	方形	2.80 × 2.70	16	平垣	-	1	(3)	1	礎土	-	-	土師器(杯), 須古器 (甕), 瓦	S1079→本誌
997	J10h4	N-8°W	方形	6.00 × 5.80	27-45	平垣	全周	0	4	1	礎土	-	人為	須古器(杯・高台付杯・ 甕・甕), 甕台	S898→本誌
998	J10i3	N-34°W	方形	4.40 × 4.20	24-30	平垣	[全周]	-	4	1	礎土	-	人為	土師器(杯・甕), 須 古器(高台付杯)	S1086→S107・987・ 999
999	J10i5	N-7°W	[方形・ 長方形]	4.72 × 3.30	37-38	平垣	全周	-	2	-	礎土	-	人為	土師器(杯・甕), 須古器 (高台付杯), 須古器(高台付杯)	S1098→本誌
1000	K10e1	N-8°E	[方形・ 長方形]	3.55 × 2.15	39-52	平垣	[全周]	10	1	-	礎土	-	自然	土師器片, 須古器片	S11006→本誌→ SK760
1001	K10e4	N-20°W	[方形・ 長方形]	2.10 × 1.30	27	平垣	[全周]	-	-	-	-	-	自然	土師器(高杯), 支脚片	-
1002	K9b0	N-20°W	方形	8.00 × 8.00	42-64	平垣	[全周]	56	4	2	礎土	1	人為	土師器(杯・甕・甕), 土師器	S11004→本誌
1003	K9c9	N-6°E	[方形]	4.00 × (3.70)	16-32	平垣	[全周]	2	4	1	礎土	1	人為	須古器(杯・甕), 土 師器(甕)	S11004→本誌→ SD36A
1004	K9c9	N-11°W	[方形・ 長方形]	5.20 × 1.80	6-10	平垣	[全周]	-	-	-	-	-	自然	土師器片	本誌→S11002・ 1003
1005	J10i2	N-6°W	方形	2.47 × 2.43	28	平垣	-	-	4	1	礎土	-	自然	瓦	S1086・987→本誌
1006	K10e1	N-31°W	[方形・ 長方形]	3.30 × 3.10	45-52	平垣	[全周]	1	1	-	-	-	自然	土師器片	本誌→S11000
1007	K10i2	N-23°W	[長方形]	4.20 × 2.80	14-18	平垣	一部	-	-	-	礎土	-	自然	土師器(杯)	本誌→SD57
1008	J10f4	N-5°W	方形	4.80 × 4.90	45	平垣	[全周]	1	4	1	礎土	-	人為	土師器(杯・甕), 須古器 (杯・甕), 土師器(杯・甕), 須 古器(杯・甕), 須古器 (杯・甕)	S11010→本誌
1009	J20e4	N-90°E	方形	2.70 × 2.50	11-20	平垣	-	-	4	2	礎土	-	人為	土師器(杯・甕), 須古器 (杯・甕), 土師器(杯・甕), 須 古器(杯・甕)	S11010→本誌
1010	J10e3	N-6°W	方形	8.70 × 9.30	30	平垣	全周	24	4	4	礎土	-	人為	土師器(杯・甕), 須古器 (杯・甕), 須古器(杯・甕), 須 古器(杯・甕), 須古器(杯・甕)	本誌→S1100・S100・ S101
1011	J10d3	N-6°W	長方形	2.70 × 2.40	6-14	平垣	全周	-	(1)	1	礎土	1	人為	土師器(杯・甕)	S11010・1012・ 203
1012	J10e2	N-8°W	方形	7.80 × 7.70	26	平垣	全周	6	4	2	礎土	1	人為	土師器(杯・高杯・甕), 須古器	本誌→S1101
1013	K10h6	N-114°E	方形	3.30 × 3.25	12	平垣	一部	-	4	-	礎土	-	自然	土師器	S129・1014→本誌
1014	K10i6	N-5°W	[長方形]	4.06 × 3.64	12	平垣	[全周]	-	4	1	礎土	-	人為	須古器(高台付甕)	S129→本誌→ S11013
2018	J9a4	N-120°E	[方形]	[2.70] × [2.62]	平垣	-	-	-	4	1	-	-	-	土師器片	本誌→SD50
1017	J9f0	N-8°E	方形	5.45 × 5.13	12-16	平垣	[全周]	-	3	-	-	-	人為	土師器(杯), 刀子, 行 玉	S1091→本誌→ SD35A
1018	J9c9	N-6°W	方形	4.58 × 4.43	14	平垣	[全周]	-	1	-	-	-	人為	土師器片	本誌→SD35A・ S1079
1019	K10e7	N-2°W	[方形・ 長方形]	4.58 × 2.14	25-38	平垣	-	-	1	1	礎土	-	自然	須古器(杯・高台付杯・ 甕・甕), 土師器(甕)	S11020→本誌→ SK785
1020	J10i8	N-75°W	長方形	3.05 × 2.50	2-6	[全周]	-	-	1	1	礎土	-	人為	土師器(杯)	本誌→S1101
1021	J11i3	N-2°E	[長方形]	4.60 × (1.10)	6-21	平垣	一部	-	2	-	-	-	人為	土師器片	-
1023	J10a2	N-6°E	長方形	4.17 × 3.58	-	平垣	[全周]	-	4	2	礎土	-	-	土師器(甕), 須古器	本誌→SD66
1024	J11i2	N-7°W	[方形]	3.25 × 2.70	6-10	平垣	一部	-	4	1	-	-	人為	土師器(杯)	本誌→SK602・906・ ピット群
1027	J10i1	N-5°E	[方形]	2.86 × 2.66	12-16	平垣	一部	-	3	1	礎土	-	人為	須古器(杯), 土師器 (甕)	S11029→本誌→ S1028-SK787-914
1028	J11a2	N-0°E	方形	3.50 × 3.40	7-19	平垣	一部	-	3	1	礎土	-	人為	須古器(杯・甕), 土 師器片	S1029→本誌→ SK785・S10・S11-914
1029	J11a2	N-6°E	方形	4.03 × 3.70	10-12	平垣	-	1	2	1	-	-	人為	土師器(杯・甕)	本誌→S1103・ SK787-911・912-913

住居実 番号	位 置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (m)	床面	内 部 造 設				履土	土 土 運 物	備 考 周辺関係(古一約)	
							壁間	ビツト	金柱穴	出入口				扉
1030	J1016	N-22°W	[方形・ 長方形]	5.15 × 3.15	24~35	平垣	-	2	-	-	壁1	-	入為	復原(環), 土葬器(環), 文書, 瓦, 刀子, 鉄釘 SI1032-本跡
1031	J10e7	N-30°E	長方形	4.22 × 3.40	2~8	平垣	-	-	4	-	壁1	-	入為	復原(環), 土葬器 (環), 鉄釘 SI1054-本跡-NI 1056
1032	J1016	N-6°E	[方形・ 長方形]	3.50 × 3.00	20~42	平垣	[全周]	3	4	-	壁1	-	入為	土葬器(环・夹), 燈 SI1030- 1023
1033	J1016	N-97°E	長方形	3.98 × 3.14	29~32	平垣	[全周]	2	3	-	壁1	-	入為	土葬器(环・高台付环・ 夾) SI1022-1048-本跡
1034	J19j9	N-22°W	[方形・ 長方形]	2.28 × 2.66	31~41	平垣	[全周]	-	2	-	壁1	-	-	土葬器(环・高台・燈・ 夾) 本跡-S1035A
1035	J1017	N-8°W	方形	3.00 × 2.95	15~26	平垣	-	-	4	1	壁1	-	入為	復原器(环・夾) SI1031-1051- 1054-本跡
1037	J1143	N-5°W	[方形]	6.00 × 5.60	45~60	平垣	一部	1	4	2	壁1	-	入為	土葬器(环・板片), 瓦 SI1047-1048-本跡
1039	J10a6	N-12°W	方形	2.86 × 2.86	9	平垣	一部	-	-	-	壁1	-	自然	復原(環), 土葬器 (環) SI1044-本跡-SI 1047・1054
1040	J10a6	N-23°W	方形	6.12 × 5.84	18~31	平垣	[全周]	9	4	1	壁1	-	入為	土葬器(环・夹), 瓦 SI1044-本跡-SI 1047・1054
1042	J10b0	N-15°W	方形	3.62 × 3.58	25~54	平垣	全周	-	4	1	壁1	-	入為	土葬器(环・夹), 瓦, 鉄釘 本跡-SK1416
1043	J11e0	N-108°E	長方形	3.44 × 2.48	8~20	平垣	全周	1	-	-	壁1	-	入為	土葬器(高台付环・瓦)
1044	J10e5	N-1°W	[方形・ 長方形]	5.86 × 3.40	12	平垣	一部	-	2	2	-	-	入為	土葬器(环・高台・燈・ 夾), 瓦, 鉄釘 本跡-SI1040- 1045・1051
1046	J10e5	N-8°W	方形	9.83 × 9.68	6~35	平垣	全周	33	4	2	壁1	1	入為	土葬器(环・高台・燈・ 瓦), 瓦, 鉄釘, 復原 器(環・夾), 土葬器 (環), 土葬器(高台付环・ 高台付瓦), 瓦, 復原器 本跡
1046	J10a6	N-6°W	方形	3.58 × 3.32	8~27	平垣	全周	-	4	1	壁1	-	自然	土葬器(环・高台付环・ 高台付瓦), 瓦, 復原器 本跡
1047	J10a6	N-9°W	方形	3.44 × 3.25	6~22	平垣	全周	-	-	1	壁1	-	自然	土葬器(环・瓦), 刀子 SI1040-948・1054 -本跡-SI1039
1048	J10a7	N-24°W	方形	5.70 × 5.52	40	平垣	全周	3	4	1	壁1	-	-	土葬器(环・瓦), 瓦 SI1039-1039・1039 -本跡
1049	J10a9	N-32°W	方形	6.68 × 6.54	20~45	平垣	一部	3	4	2	壁2	1	入為	土葬器(环・高台・燈・ 瓦), 瓦, 鉄釘, 復原 器(環・夾), 土葬器 (環), 土葬器(高台付环・ 高台付瓦), 瓦, 復原器 本跡-SI1039・1039 -本跡
1051	J10e7	N-8°W	方形	4.76 × 4.40	13~31	平垣	全周	-	4	1	壁1	-	入為	土葬器(环・瓦), 瓦, 鉄釘 本跡-SI1039・1039 -本跡
1052	J11a3	N-2°W	長方形	4.25 × 3.89	20~36	平垣	全周	2	4	1	壁1	-	入為	土葬器(环・瓦), 鉄釘 SI1037-1080-本跡
1053	J10e9	N-107°E	[方形]	3.00 × 2.90	12~32	平垣	一部	-	4	1	壁1	-	入為	土葬器(环・高台付环・ 瓦), 瓦 SI1046-1059- 本跡-SK921
1054	J10g7	N-80°E	長方形	5.34 × 4.72	22	平垣	全周	-	4	1	壁1	-	入為	土葬器 SI1040-1048-本跡 -SI1039-1039
1055	H10e8	N-7°W	[方形]	4.06 × 0.80	4~28	平垣	全周	-	4	1	[壁1]	-	入為	土葬器(环・瓦), 瓦, 鉄釘, 土葬器(高台付环・ 高台付瓦), 瓦 本跡-SI1039・1039 -本跡
1056	H10e8	N-7°W	方形	4.09 × 4.04	16~32	平垣	全周	1	4	1	壁1	-	入為	土葬器(环・瓦), 瓦, 鉄釘 SI1119-本跡
1059	J10e0	N-80°E	[長方形]	4.50 × 3.50	18~35	平垣	一部	3	3	-	-	-	入為	土葬器(环・高台付环・ 瓦), 瓦 SI1046-1059-本跡
1060	J10f0	N-8°W	方形	3.92 × 3.84	35~45	平垣	全周	-	4	1	壁1	-	自然	復原器(环・高台・燈・ 瓦), 土葬器(環), 瓦 本跡-SI1039-1039 -本跡
1061	J10f0	N-0°	方形	5.60 × 5.18	9~41	平垣	全周	-	4	1	壁1	-	入為	土葬器(环・板片), 瓦, 鉄釘 本跡-SI1039-1039 -本跡
1062	J10a9	N-8°W	方形	3.72 × 3.56	50	平垣	全周	8	3	1	壁1	-	入為	復原器(環), 燈 SI1063-本跡
1063	J10b0	N-4°W	方形	5.64 × 5.12	16~60	平垣	全周	-	4	1	壁1	-	入為	土葬器(环・高台付环・ 瓦), 瓦, 鉄釘 SI1076-本跡-SI 1062-SB60-SB20
1064	J1010	N-17°W	方形	5.29 × 5.20	14~40	平垣	全周	4	4	1	壁1	-	入為	土葬器 本跡-SB90・60
1065	J1018	N-7°W	長方形	4.20 × 3.56	25~48	平垣	全周	-	3	1	壁1	-	入為	復原器(环・高台付环・ 高台付瓦), 瓦 SI1066-本跡- SI1068
1066	J1017	N-5°W	長方形	3.97 × 3.38	6~22	平垣	全周	-	-	-	壁1	-	入為	復原器(环・高台・ 燈) SI1048-本跡- SI1068
1067	J10e8	N-9°E	方形	3.24 × 2.99	8~27	平垣	全周	-	-	2	壁1	-	入為	土葬器(环・瓦) 本跡-SI1051
1068	J11a4	N-1°E	方形	3.58 × 3.32	44~50	平垣	全周	-	4	1	壁1	-	入為	土葬器(环・高台付环・ 瓦), 瓦, 鉄釘, 瓦 SI1076-本跡
1069	J11b2	N-4°W	方形	3.05 × 2.91	30~34	平垣	全周	-	-	1	壁1	-	入為	土葬器(环・高台付环・ 高台付瓦), 瓦, 鉄釘 本跡-SI1076
1070	J1112	N-8°E	長方形	3.05 × 2.58	20~28	平垣	-	-	-	-	壁1	-	入為	土葬器(环・高台付环・ 高台付瓦), 瓦, 鉄釘 本跡-SI1076
1071	J10b0	N-85°E	方形	2.68 × 2.60	16~23	平垣	[全周]	-	-	-	壁1	-	入為	土葬器(环・高台付环・ 瓦) 本跡-SK367
1072	J11a1	N-79°E	長方形	3.36 × 2.96	11~26	平垣	[全周]	2	1	-	壁1	-	入為	復原器(環), 土葬器 (環) 本跡-SI1073
1073	J11a1	N-1°E	方形	4.13 × 3.92	20~26	平垣	全周	-	4	1	壁1	-	入為	土葬器(环・高台付环・ 高台付瓦), 瓦, 鉄釘 本跡-SI1073
1074	J1111	N-7°W	方形	3.62 × 3.32	26	平垣	全周	-	-	-	壁1	-	入為	土葬器(环・高台・ 燈) SI1078-本跡
1075	J11g1	N-17°W	方形	4.68 × 4.60	36	平垣	[全周]	15	4	2	壁1	-	入為	土葬器(环・高台・ 燈), 瓦, 鉄釘 本跡-SI1078-1078- 本跡-SI1077
1076	J11a0	N-8°W	方形	5.71 × 5.66	26	平垣	全周	-	3	1	-	-	入為	土葬器(环・高台付环・ 瓦) 本跡-SI1075-1080- 本跡
1077	J11a2	N-22°E	長方形	3.82 × 3.38	16~32	平垣	全周	1	-	3	壁1	-	入為	復原器(环・高台・燈・ 瓦), 土葬器(环・高台付 环・高台付瓦), 瓦 本跡-SI1075-1080- 本跡
1078	J11h1	N-2°W	方形	5.08 × 4.78	47	平垣	全周	9	4	2	壁1	-	入為	土葬器(环・高台付环・ 瓦), 瓦, 鉄釘 本跡-SI1075-1080- 本跡
1079	J11b2	N-15°W	方形	3.78 × 3.48	12~22	平垣	[全周]	-	4	1	壁1	-	自然	土葬器(环・高台付环・ 瓦), 瓦, 鉄釘 本跡-SI1080-本跡
1080	J11h2	N-6°W	方形	6.50 × 6.20	58	平垣	全周	4	4	2	壁1	-	入為	土葬器(环・高台付环・ 瓦), 瓦, 鉄釘 本跡-SI1052・1077- 本跡
1100	H11d7	N-88°E	方形	2.68 × 2.53	12~14	平垣	-	2	1	1	壁1	-	自然	土葬器(环・高台付环) 本跡
1101	H11e8	N-91°E	長方形	4.15 × 2.86	15~23	平垣	一部	1	1	-	壁1	-	自然	復原器(環), 土葬器(高台 付环・高台付瓦), 瓦 本跡-SI1102-本跡- SI1100

住居番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (㎡)	階数 (ca)	築年	内 部 設 計						備 考		
							総床	ビット	主柱火	出入口	貯・電	貯蔵火			
1102	H1147	N・S-E	方形	5.33 × 4.93	48-50	平成	全周	-	4	-	電2	-	自然	土留跡 (坪・塹), 塹 土留跡 (塹), 塹, 自主 土留跡 (塹)	SI1.09→本跡→ SI1.00→本跡
1103	H1147	N・S-E	方形	8.66 × 4.55	38-48	平成	全周	2	2	2	-	-	自然	土留跡 (坪・塹), 塹 土留跡 (坪・塹), 塹 土留跡 (坪・塹)	SI1.09→本跡→ SI1.00→本跡 本跡→SI1.02
1104	H1144	N・1'-E	方形	3.43 × 3.28	36-48	平成	全周	1	-	-	電1	-	自然	土留跡 (坪・塹), 塹 土留跡 (坪・塹), 塹	本跡→SI1.09→本跡
1106	H1149	N・10'-W	[換方面]	[2.79] × [2.83]	23-30	平成	全周	-	2	-	-	-	人為	土留跡 (坪)	本跡→SK721
1107	H1110	N・7'-W	[方形]	[4.14] × 4.10	6	平成	-	1	-	-	電1	-	自然	土留跡 (坪)	本跡→SK04・815・ 816
1108	H1110	N・2'-E	長方形	(5.46) × 4.93	9-12	平成	-	-	-	-	電1	-	自然	土留跡 (坪)	本跡→SI1.11
1109	H1147	N・93'-E	方形	3.65 × 3.21	9-18	平成	-	4	-	-	電1	-	自然	土留跡 (塹), 高台付坪・ 塹	本跡→SK06・810・ 811・813・828
1110	H1112	N・12'-W	方形	6.46 × 6.32	49-53	平成	全周	1	4	1	電1	1	自然	土留跡 (坪・塹), 塹 土留跡 (坪・塹), 塹 土留跡 (坪・塹), 塹	本跡→SI1.09→本跡
1111	H1211	N・10'-E	[方形・ 長方形]	5.04 × (2.00)	20-22	平成	-	-	-	-	電1	-	自然	土留跡 (坪)	SI1.09→本跡
1111	H11a1	N・2'-E	長方形	[4.66] × 3.29	15-26	平成	-	1	-	-	電1	-	自然	土留跡 (坪・塹), 塹	N1.30→本跡
1113	H11e9	N・0'	長方形	3.63 × 3.25	36-42	平成	-	-	-	-	電1	-	自然	土留跡 (坪)	本跡→SI1.06・ 1144
1114	H11a1	N・5'-W	[方形・ 長方形]	3.27 × (2.50)	5	平成	-	-	-	-	-	-	自然	土留跡 (坪)	
1115	H11o5	N・10'-W	方形	4.83 × 4.77	43-77	平成	全周	-	4	1	-	1	自然	土留跡 (坪・塹・塹), 塹, 塹, 塹, 塹	本跡→SK727
1116	H10b5	N・1'-W	[方形・ 長方形]	4.48 × (2.89)	4-7	平成	全周	2	2	1	-	-	自然	土留跡 (坪)	SI1.22→本跡
1119	H10g8	N・15'-W	方形	3.84 × 3.68	40-60	平成	全周	-	3	1	電1	1	自然	土留跡 (坪・高坪), 塹	本跡→SI1.06・ 1144
1120	H10f4	N・7'-E	長方形	4.15 × 3.70	-	平成	全周	-	4	1	電1	1	-	土留跡 (坪・塹)	
1121	H10d4	N・23'-W	方形	6.00 × 5.49	12-19	平成	全周	-	4	1	電1	1	人為	土留跡 (坪・塹・手取 支脚)	
1122	H10c6	N・6'-E	方形	8.70 × 8.34	28-42	平成	全周	3	4	2	電1	-	自然	土留跡 (坪・塹・塹), 塹, 塹, 塹, 塹	本跡→SI1.16・ 1123・1124・1125
1123	H10b7	N・4'-E	方形	3.90 × 3.70	18-24	平成	全周	-	1	-	電1	-	自然	土留跡 (坪・塹・塹), 塹, 塹, 塹	SI1.22→本跡 SI1.24・1125
1124	H10c7	N・94'-E	長方形	2.67 × 1.80	5-15	平成	-	2	-	-	電1	-	自然	土留跡 (坪・塹)	SI1.22・1123→ 本跡→SI1.25
1125	H10c8	N・110'-R	方形	3.40 × 3.15	8-18	平成	-	-	-	-	電1	-	自然	土留跡 (坪・塹)	SI1.23・1124→ 本跡
1126	H10c0	N・12'-E	[方形・ 長方形]	[3.05] × [2.70]	5	平成	-	-	-	-	電1	-	人為	土留跡 (坪・塹)	SI1.22→本跡→ SD40
1127	H10c9	N・95'-E	方形	3.45 × 3.30	26-31	平成	-	-	-	-	電1	-	人為	土留跡 (坪・高台付坪)	本跡→SI1.28・ SD40
1128	H10d0	N・100'-E	長方形	4.13 × 3.25	8-16	平成	全周	-	-	-	電1	-	人為	土留跡 (坪・塹)	本跡→SI1.10
1129	H10e2	N・13'-E	[換方面]	[4.47] × [3.87]	-	平成	-	1	-	1	電1	-	-	-	
1130	H10e9	N・25'-E	[換方面]	[4.25] × [3.55]	-	平成	-	-	-	-	電1	-	-	土留跡 (塹)	S1.28・1130→ 本跡→SD40・SK749
1131	H10h5	N・2'-E	方形	3.71 × 3.65	6-20	平成	全周	-	4	1	電1	-	自然	土留跡 (塹)	SI1.30→本跡→ SI1.38
1133	H1019	N・16'-W	[方形・ 長方形]	3.24 × (1.94)	25-28	平成	全周	-	1	-	電1	-	人為	土留跡 (坪・塹), 塹, 塹	本跡→SI1.00・116・ 1141・SD85・SD40
1134	H10f0	N・26'-E	方形	4.98 × 4.80	18-50	平成	全周	-	4	1	電1	-	自然	土留跡 (坪・塹・塹), 塹, 塹, 塹, 塹	SI1.30→本跡→ J41・244・259
1135	H10f0	N・13'-E	[換方面]	[3.30] × 2.94	12-22	平成	-	-	-	-	電1	-	自然	土留跡 (高台付坪・塹), 塹, 塹, 塹, 塹	SI1.24・1144→ 本跡
1136	H10g6	N・1'-E	方形	3.10 × 3.10	10-16	平成	全周	-	-	-	電1	-	自然	土留跡 (坪・塹), 土 留跡 (塹)	SI1.31・1139→ 本跡→SK756
1138	H10g5	N・85'-E	方形	2.50 × 2.50	-	平成	全周	1	-	-	電1	-	-	土留跡 (塹)	SI1.29→本跡
1139	H10h5	N・7'-W	方形	8.50 × 8.40	10-12	平成	全周	2	4	2	電1	1	自然	土留跡 (坪・塹)	本跡→SI1.11・SI1.116 1167
1140	H10h8	N・0'	方形	4.20 × 4.12	29-53	平成	-	-	1	-	電1	-	人為	土留跡 (高台付坪・塹), 塹, 塹, 塹, 塹	SI1.42・1144・ 1147→本跡
1141	H10f0	N・95'-E	[方形]	3.82 × (2.64)	6	平成	-	-	-	-	電1	-	自然	土留跡 (高台付坪・塹), 塹, 塹, 塹, 塹	SI1.33・1134→ 本跡
1142	H1019	N・24'-W	[換方面]	[3.90] × 3.20	7	平成	-	-	-	-	電1	-	自然	土留跡 (坪・塹), 塹, 塹, 塹, 塹, 塹	SI1.44・1156→本跡 SI1.42→本跡
1143	H11g1	N・66'-E	[方形]	[3.10] × [3.10]	-	平成	-	-	-	-	電1	-	-	土留跡 (坪・高台付坪)	SB58→本跡
1144	H10h9	N・8'-W	長方形	6.05 × 5.70	28-72	平成	全周	2	4	2	電1	-	自然	土留跡 (坪・塹), 塹, 塹, 塹, 塹, 塹	SI1.38→本跡→ 140・142・SD89・SD70
1145	H11c1	N・5'-W	方形	8.60 × 8.50	56-80	平成	全周	-	4	2	電1	1	自然	土留跡 (坪・塹・塹), 塹, 塹, 塹, 塹	本跡→SK727
1145	H11d3	N・87'-E	長方形	5.70 × 3.80	10-16	平成	-	-	4	-	電1	-	人為	土留跡 (坪・塹・塹), 塹, 塹, 塹, 塹	本跡→SK727
1147	H1017	N・2'-E	方形	4.72 × 4.40	30-52	平成	全周	-	4	1	電1	-	自然	土留跡 (坪・塹), 塹, 土留跡 (塹), 塹	SI1.465→本跡→ SI1.140・1149
1148	H1018	N・81'-E	方形	3.20 × 2.90	20-54	平成	-	-	-	-	電1	-	自然	土留跡 (高台付坪・塹), 塹	SI1.100→本跡→ SI1.136・SI1.415
1149	H1018	N・6'-W	方形	3.20 × 3.16	40-78	平成	全周	-	-	-	電1	-	自然	土留跡 (坪・塹), 土 留跡 (塹), 塹	SI1.47→本跡→ SI1.140・SK1.415
1151	H1010	N・7'-W	方形	3.40 × 3.16	16-24	平成	-	-	-	-	電1	-	自然	土留跡 (坪・高台付坪), 土留跡 (塹), 塹	SI1.35・1152→本跡 →本跡→SI1.415
1152	H1111	N・5'-E	[方形]	3.40 × [3.30]	32-41	平成	-	-	-	-	電1	-	自然	土留跡 (塹)	SI1.53・1154→ 本跡
1153	H1010	N・2'-E	長方形	5.02 × 4.25	12-22	平成	-	-	4	1	電1	-	自然	土留跡 (坪・塹), 塹, 塹, 塹, 塹, 塹	S1.34・1155→ 本跡→SI1.415・1152
1154	H1010	N・12'-W	方形	4.32 × 4.30	10-32	平成	全周	-	4	1	電1	-	人為	土留跡 (坪・塹・塹), 塹	本跡→SI1.52・ 1153

住居跡 番号	方位	主軸方向	平面形	面積 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床厚	内 部 施 設					覆土	出土遺物	備 考	
							敷設	ピット	土柱穴	出入口	炉・竈				貯蔵穴
1155	E1019	N-18°-W	方形	5.62 × 5.66	5~24	平版	全周	1	4	1	竈1	-	自然	土貯器 (坏・壺), 雑 土貯器 (坏)	種-31-Q101・102・103・104・105・106・107・108・109・110・111・112・113・114・115・116・117・118・119→本跡
1156	E1018	N-12°-E	[長方形]	[3.60] × 3.20	12~26	平版	一部	-	-	1	竈1	1	自然	土貯器 (坏)	S1189→本跡
1157	E1014	N-7°-E	方形	3.25 × 3.10	15~21	平版	全周	-	1	1	竈1	-	自然	灰土貯器 (坏), 土貯器 (壺)	S1189→本跡
1158	E1022	N-6°-W	方形	4.10 × 4.50	5~10	平版	[全周]	-	4	1	竈1	-	人為	灰土貯器 (坏), 土貯器 (壺)	S1189→本跡
1159	E1072	N-0°	[方形]	7.10 × 6.90	8~22	平版	全周	7	4	2	竈1	-	人為	土貯器 (坏・壺), ミニチュア土貯器・土師製土器	S1189→本跡
1160	E1018	N-8°-W	方形	3.08 × 2.98	28~60	平版	一部	-	-	1	竈1	-	自然	灰土貯器 (坏・壺)	S1189→本跡
1161	E11b3	N-8°-W	[方形・長方形]	4.84 × (0.82)	22~51	平版	[全周]	-	-	1	-	-	自然	灰土貯器 (坏), 土貯器 (壺)	S1189→本跡
1162	E1075	N-0°	[方形・長方形]	4.40 × 1.50	5	平版	-	-	2	1	-	-	-	灰土貯器 (壺), 磁石	S1189→本跡
1163	E10g5	N-26°-W	方形	8.20 × 8.00	10~22	平版	全周	51	4	2	竈1	1	人為	土貯器 (坏・高坏・壺・甕・甗・字甗)	本跡→S327・S328・S329・S330
1164	E1016	N-1°-E	方形	3.10 × 3.00	4	平版	全周	8	-	1	竈1	-	-	土貯器 (坏), 須恵器 (壺)	S187→本跡
1165	E11017	N-12°-W	[方形・長方形]	5.10 × 2.60	7~11	平版	全周	-	-	4	竈1	-	人為	土貯器片	本跡→S1166・SD63
1166	E1018	N-0°	[方形]	6.78 × 4.50	9~15	平版	[全周]	5	4	1	竈1	-	人為	土貯器 (坏・壺), 須恵器 (坏), 瓦土	S1189→本跡
1167	E1018	N-2°-E	[長方形]	4.00 × 3.20	8~10	平版	一部	-	-	1	竈1	-	-	土貯器片	本跡→S1169
1168	E1018	N-6°-E	[方形]	3.60 × 2.70	12~18	平版	全周	2	-	1	竈1	-	自然	灰土貯器 (坏), 土貯器片	S1166→本跡
1169	E10g5	N-1°-W	[方形・長方形]	5.70 × 3.90	8~12	平版	一部	1	-	-	-	-	人為	須恵器 (坏・壺・甗), 土貯器 (壺)	S1166→1167・1171→本跡
1170	E12b1	N-0°-W	[方形・長方形]	[4.13] × (2.67)	17~21	平版	-	-	1	-	-	-	自然	灰土貯器 (坏), 土貯器片	S1166→本跡
1171	E10g8	N-0°-W	[方形]	3.28 × 2.63	12~17	平版	[全周]	-	-	1	竈1	-	人為	土貯器片, 須恵器片	本跡→S1169
1172	E1016	N-10°-W	方形	4.29 × 4.27	5~12	平版	全周	1	4	1	竈1	-	人為	土貯器 (坏・壺), 土貯器片	本跡→S1821
1173	E1018	N-3°-W	[方形]	3.23 × 3.16	8~10	平版	全周	2	-	1	竈1	-	人為	須恵器 (高坏片・甗)	本跡→S1265
1176	E1019	N-0°	[方形・長方形]	3.93 × (1.40)	9~17	平版	[全周]	-	2	-	-	-	人為	須恵器 (高坏片・甗)	本跡→SD12・S333
1464	E910	N-10°-E	[方形・長方形]	3.21 × (2.60)	4	平版	-	-	-	-	竈1	-	自然	土貯器片	本跡→SD12・S333
1461	E1014	N-2°-E	方形	4.43 × 4.34	16~23	平版	-	-	1	1	竈1	-	自然	須恵器 (坏・壺・甗), 土貯器 (壺)	本跡→SD12・S333
1462	E10b5	N-5°-W	[長方形]	[4.47] × [3.76]	-	平版	一部	-	2	-	-	-	-	土貯器片 (壺・甗)	
1463	E1015	N-26°-W	方形	3.38 × 3.14	6~11	平版	-	-	1	-	竈1	-	人為	土貯器 (坏・壺)	
1464	E10x5	N-0°	長方形	4.02 × 3.62	4~6	平版	-	-	-	1	竈1	-	自然	須恵器 (坏), 土貯器片	
1465	E1016	N-0°	長方形	4.28 × 3.71	12~29	平版	全周	-	4	1	竈1	-	自然	土貯器 (坏), 須恵器片	本跡→S1147

(2) 掘立柱建物跡

① 古墳時代

第53号掘立柱建物跡 (第330号)

位置 調査4区の西部, J9g1区。

重複関係 P2・P3が第54号溝に掘り込まれている。

規模 調査区域との境界線上に位置するため, 検出された柱穴はP1~P3の3か所だけである。他の柱穴は調査区域外に存在していると考えられ, 規模は確定できない。南東コーナー部に位置するP2を基準として, 柱間寸法はP1の方向へ2.68m, P3の方向へ2.63mである。柱穴は, 平面形が径80~84cmのほぼ円形で, 深さ84~103cmである。

桁行方向 不明である。P2からP1の方向は, N-21°-Wである。

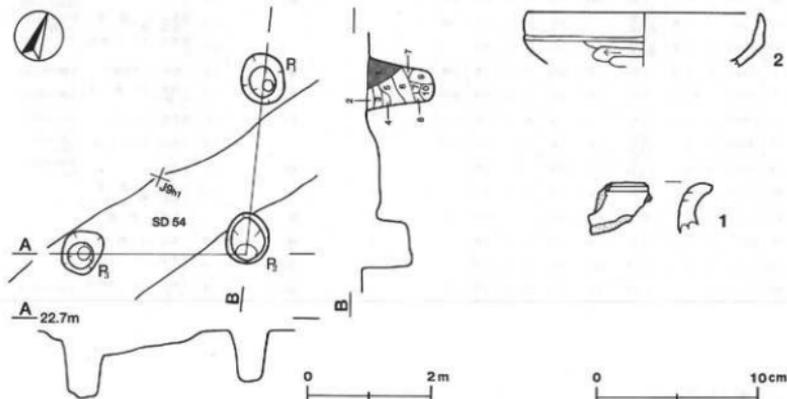
柱穴覆土 P1の土層だけが確認されている。第1層が柱の抜き取り痕, 他の層は突き固められていることから埋土と考えられる。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

遺物 土師器片28点が、P1～P3から出土している。内訳は、P1から土師器片5点、P2から土師器片9点、P3から土師器片14点である。第330図1の土師器残片はP1の、2の土師器残片はP2の、それぞれ埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器と隣接する古墳時代後期の住居跡の軸方向と本跡の方向が近似していることから6世紀後半から7世紀代と考えられる。



第330図 第53号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第53号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第330図 1	甕 土師器	B 3.1	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 に多い橙色。普通	P41411 3% 外面摩滅
2	坏 土師器	A [14.3] B (3.2)	体部から口縁部の破片。体部は内 壁気味に立ち上がり、口縁部は直 立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 ヘラ削り。内面ナデ。	石英・雲母 に多い橙色 普通	P41412 5% 外面摩滅

第54号掘立柱建物跡 (第331図)

位置 調査4区の西部, J8j0区。

重複関係 P3・P4が第965号住居に、P5が第960号住居に、P6が第959号住居に、P7が第959号住居・第54号溝に掘り込まれている。

規模 桁行2間、梁行2間の縦柱式の建物跡で、桁行長3.97m、梁行長3.95mである。柱間寸法は、桁行1.80～2.10m、梁行1.90～2.10mである。柱穴は、平面形が径37～51cmのほぼ円形で、深さ44～103cmである。

桁行方向 N-9°-W

柱穴覆土 P1の第1・3・4層、P2・P3・P4・P7の第1層、P6・P8の第1・2層、P9の第1・2・5層は比較的しまりも弱いことから柱の抜き取り痕、他の層は突き固められていることから埋土と考えられる。

P1土層解説

- 暗褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 褐色 rome 粘土中量、rome 大ブロック・rome 中ブロック・rome 小ブロック微量
- 暗褐色 rome 粘土中量、rome 大ブロック・rome 中ブロック・rome 小ブロック・炭化粒子微量
- 暗褐色 rome 粘土中量、rome 小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 褐色 rome 粘土少量
- 褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック少量
- 暗褐色 rome 粘土中量、rome 小ブロック少量
- 褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック少量、rome 中ブロック微量
- 褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック中量、rome 中ブロック少量
- 暗褐色 rome 粘土中量、炭化粒子・rome 小ブロック微量

P2土層解説

- 暗褐色 rome 小ブロック・rome 粘土少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック少量
- 暗褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック・炭化粒子微量
- 暗褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック少量、rome 大ブロック・炭化粒子微量
- 褐色 rome 粘土中量、rome 小ブロック少量、rome 中ブロック微量
- 暗褐色 rome 粘土中量、rome 小ブロック・炭化粒子微量
- 褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック少量
- 暗褐色 rome 粘土少量、炭化粒子少量

P3土層解説

- 暗褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック・炭化粒子少量
- 褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック・炭化粒子微量
- 暗褐色 rome 粘土中量、rome 小ブロック微量
- 褐色 rome 粘土中量
- 褐色 rome 粘土中量、炭化粒子微量

P4土層解説

- 暗褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック・炭化粒子微量
- 暗褐色 rome 粘土少量、焼土粒子少量、rome 小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・彩粒微量
- 褐色 rome 粘土中量、rome 小ブロック少量、rome 中ブロック・炭化粒子微量
- 褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック中量、炭化粒子少量
- 褐色 rome 粘土少量、rome 中ブロック・rome 小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック微量

P6土層解説

- 暗褐色 rome 粘土少量、rome 中ブロック・rome 小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 暗褐色 rome 小ブロック・rome 粘土・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 暗褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック少量
- 暗褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック微量
- 暗褐色 rome 粘土少量、炭化粒子微量

P7土層解説

- 暗褐色 rome 粘土・炭化粒子中量、rome 中ブロック・rome 小ブロック・焼土粒子少量
- 暗褐色 rome 粘土・炭化粒子少量、rome 小ブロック微量
- 暗褐色 rome 粘土中量、rome 小ブロック・炭化粒子微量
- 褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック少量、rome 中ブロック微量
- 暗褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック微量
- 暗褐色 rome 粘土中量、rome 小ブロック微量

P8土層解説

- 暗褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 暗褐色 rome 粘土中量、rome 中ブロック・rome 小ブロック微量
- 褐色 rome 粘土中量、rome 小ブロック少量、rome 中ブロック微量
- 暗褐色 rome 粘土中量、rome 小ブロック少量、rome 中ブロック・炭化粒子微量
- 褐色 rome 粘土中量、rome 小ブロック少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 rome 粘土少量、rome 小ブロック・炭化粒子少量

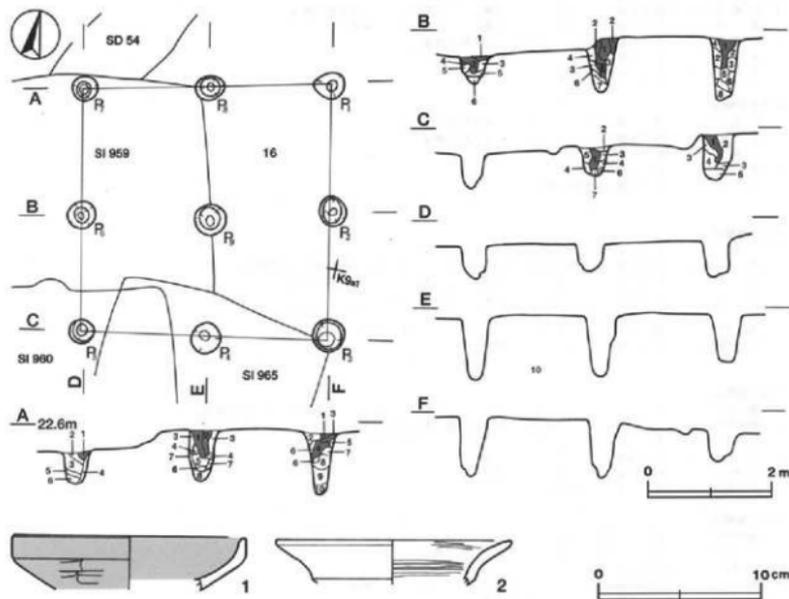
- 7 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
 8 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少量

P 9土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
 6 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック微量

遺物 土器器片10点がP 1・P 2から出土している。内訳はP 1から8点、P 2から2点で、柱の抜き取り痕または埋土から出土している。第331図1の土器器片と2の土器器高杯片は、ともにP 1の柱の抜き取り痕から出土している。

所見 本跡と規模・形状・桁行方向が類似する掘立柱建物跡として、第15号掘立柱建物跡（5区）・第120号掘立柱建物跡（8区）が検出されており、いずれも古墳時代後期のものである。本跡の時期は、出土土器と重複関係から古墳時代後期でも6世紀後半以前と考えられる。



第331図 第54号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第54号掘立柱建物跡出土遺物観察表

区画番号	群 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第333区 1	坏	A [14.0] B (3.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へく削り。内面横ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 灰褐色 普通	P41413 5%
	上 脚 器					
2	高 坏	A [14.4] B (2.7)	口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面横ナデ後、横位のへく削き。外面横ナデ。	砂粒・雲母にふい・灰色 普通	P41414 5% 外面塗成
	上 脚 器					

第55号掘立柱建物跡 (第332・333区)

位置 調査4区の西部、J9a6区。第56号掘立柱建物跡の南側に隣接し、南西へ24mの距離に位置する第57号掘立柱建物跡と並列する。

重複関係 P1が第753号土坑に、P9・P16・P17が第53号溝に、P12が第51号溝に、P17が第751号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模 桁行5間、梁行2間の総柱式の建物跡で、桁行長12.20m、梁行長6.20mである。柱間寸法は桁行2.30～2.80m、梁行2.30～3.65mである。柱穴は、平面形が長軸(径)0.55～1.65m、短軸(径)0.50～1.00mの円形・楕円形・隅丸方形または不定形で、深さ53～90cmである。

桁行方向 N-15° -W

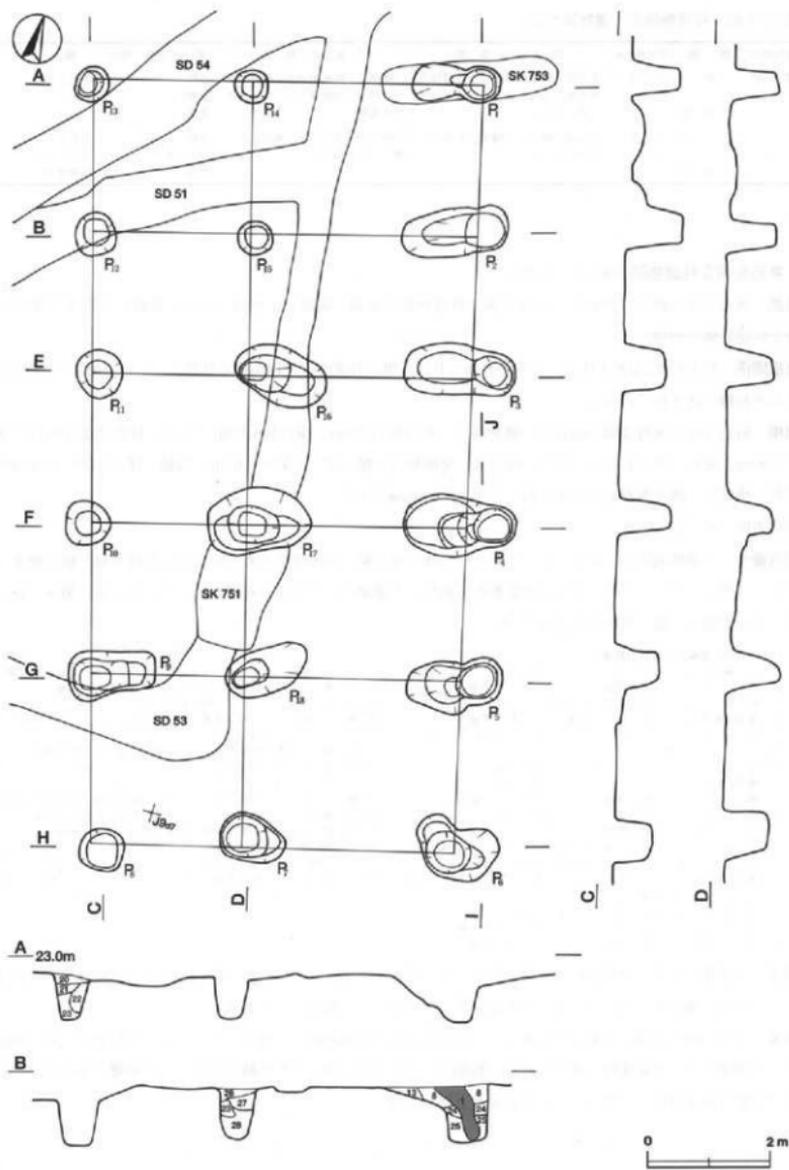
柱穴覆土 土層断面図中、第1・2・3層は柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。柱抜き取り痕の跡まりは弱い。埋土はロームブロックを含む暗褐色・褐色土を基調にしており、互層をなしている。特に第8・18・24・25・27層は、強く突き固められている。

P1～P18土層解説 (各柱穴共通)

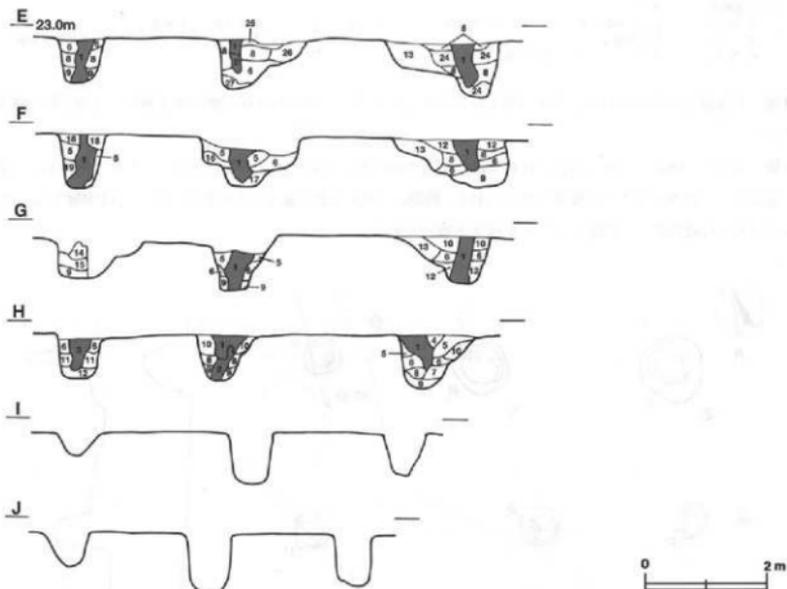
1	暗 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量	17	暗 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化粒少量
2	褐 色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量	18	黒 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
3	暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、粘土小ブロック少量	19	灰 褐色	ローム粒子・粘土粒子中量
4	灰 褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量	20	褐 色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
5	暗 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子少量	21	灰 褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
6	暗 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量	22	灰 褐色	粘土粒子中量、ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
7	暗 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量			
8	褐 色	ローム粒子多量、ローム中ブロック中量	23	褐 色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土粒子少量
9	褐 色	ローム中ブロック・ローム粒子多量	24	暗 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量
10	褐 色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量	25	黒 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
11	暗 褐色	ローム粒子中量、粘土粒子・炭化粒子・砂粒微量	26	灰 褐色	粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
12	灰 褐色	ローム粒子少量、炭土粒子微量	27	にぶい・褐色	ローム粒子多量
13	灰 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子・炭化粒少量	28	灰 褐色	粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
14	黒 褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量			
15	灰 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量			
16	褐 色	ローム粒子多量、ローム中ブロック少量			

遺物 土師器片6点、須恵器片1点が、P4・6の埋土から出土している。土師器片のうち4点は甕の体部細片、2点は土師器坏の細片である。須恵器は甕の体部細片で、攪乱により混入したとみられる。

所見 本跡の桁行方向が北東に24m離れている第57号掘立柱建物跡と一致することから、同時期に連の施設として機能していた可能性が考えられる。時期は、出土土器が細片なため特定することは困難であるものの、第57号掘立柱建物跡との関連から7世紀後半と推定される。



第332图 第55号掘立柱建物跡実測图(1)



第333図 第55号掘立柱建物跡実測図(2)

第56号掘立柱建物跡 (第334図)

位置 調査4区の中央部, 19区6区。第55号掘立柱建物跡の北側に隣接し, 南西へ24mの距離に位置する第57号掘立柱建物跡と並列する。

重複関係 P1が第51号溝に, P2・P5が第50号溝に, P3が第752号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模 桁行2間, 梁行2間の総柱式の建物跡で, 桁行長6.20m, 梁行長5.10mである。柱間寸法は桁行2.50~3.70m, 梁行2.40~2.80mである。柱穴は, 平面形が長径0.40~1.10m, 短径0.28~1.00mの円形または楕円形で, 深さ70~123cmである。

桁行方向 N-74° - E

柱穴覆土 土層断面でとらえられたのは, すべて埋土である。

P1土層解説

- 1 麻暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 麻暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

P7土層解説

- 1 黒褐色 粘土小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 粘土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, 粘土粒子少量

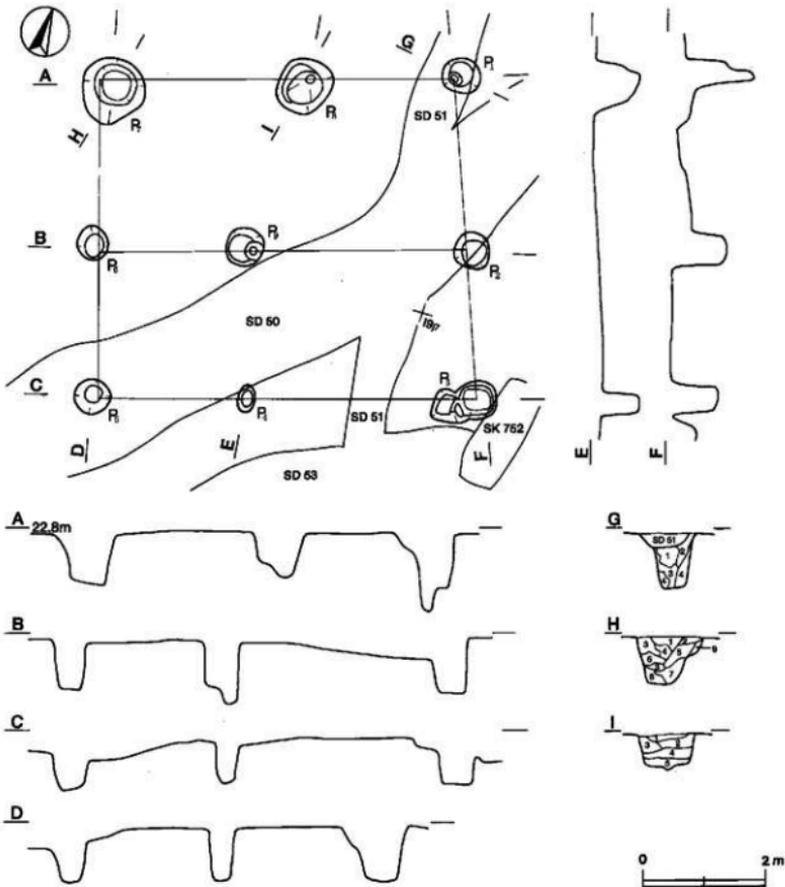
P 8土層解説

- 1 濃褐色 ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化物微量
 2 褐色 ローム粒子多量
 3 暗褐色 ロームハブロック・ローム粒子少量

- 4 褐色 ローム粒子多量、砂粒微量
 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量

遺物 土部器片13点が、P 3・P 4の埋土から出土している。そのうち9点が甕の体部細片、4点が坏の細片である。

所見 本跡は、隣接する第55号掘立柱建物跡の桁行方向に対して同一線上に並列することから、同時期に一連の施設として機能していた可能性が考えられる。時期は、出土土器が細片のため特定することは困難なものの、第55号掘立柱建物跡との関連から7世紀後半と推定される。



第334図 第56号掘立柱建物跡実測図

第57号掘立柱建物跡 (第335・336図)

位置 調査4区の中央部、H105区。第55・56号掘立柱建物跡から北東に24mの距離に位置する。

重複関係 P2～P5・P21・P22が、第1163号住居跡を掘り込んでいる。P4を第832号土坑に、P5を第63号溝に、P25・P26を第1164号住居にそれぞれ掘り込まれている。

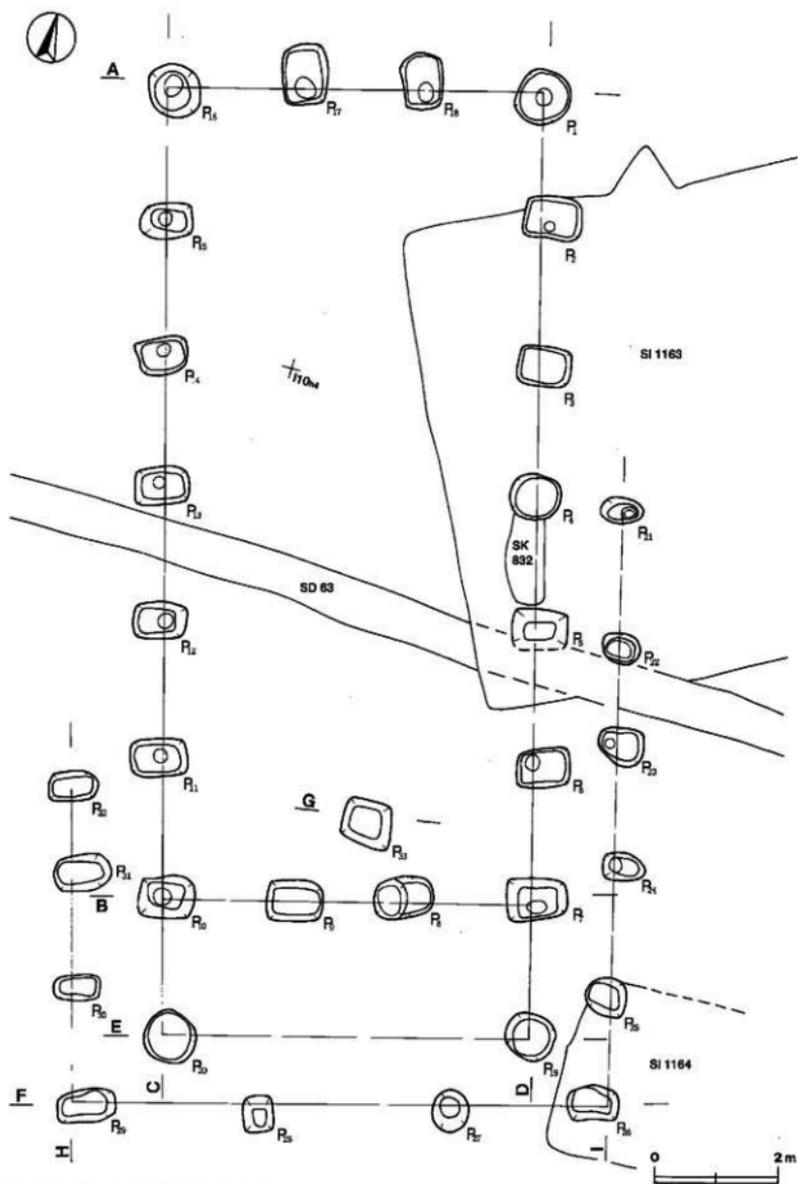
規模 桁行6間、梁行3間の隅柱式の建物跡で、桁行長13.16m、梁行長6.15mである。桁行の柱間寸法は、2.10～2.30mである。梁行寸法は、南側梁行中央部のP8とP9の間が1.40mと狭く、その両側のP7とP8の間、P9とP10の間が2.40mと広い。それ以外は、2.00～2.10mである。柱穴の平面形は、P1・P16だけが径0.90mほどの円形で、それ以外は長軸(径)0.91～1.00m、短軸(径)0.60～0.85mの隅丸長方形、または楕円形である。深さは、各コーナーに位置するP1・P7・P10・P16が0.82～0.93mと深く、その他は0.43～0.70mである。また、P7・P10からそれぞれ南側へ2.20m離れてP19・P20が検出された。平面形は、いずれも径0.85mほどの円形で、深さはそれぞれ0.40m、0.47mである。さらに、本跡の南側にこの建物の一部を構成していたと考えられる柱穴列を検出した。P4～P7から東側へ1.40m離れて東桁行に、P7～P10から南側へ3.50m離れて南梁行に、P10・P11から西側へ1.30m離れて西桁行にそれぞれ平行して、全体で「コ」の字状の柱列(P21～32)が確認できた。規模は、P21～P26の長さ9.60m、P26～P29の長さ8.40m、P29～P32の長さ5.30mである。柱間寸法は、P27とP28の間だけが3.00mと広く、それ以外は1.50m～2.60mである。柱穴は、平面形が長軸(径)0.60～0.85m、短軸(径)0.41～0.78mの隅丸長方形、円形または楕円形で、深さ40～55cmである。また、P8から北西へ0.70m離れてP32を検出した。長径0.82m、短径0.70mの隅丸方形で、深さ0.48mである。

桁行方向 N-14°-W

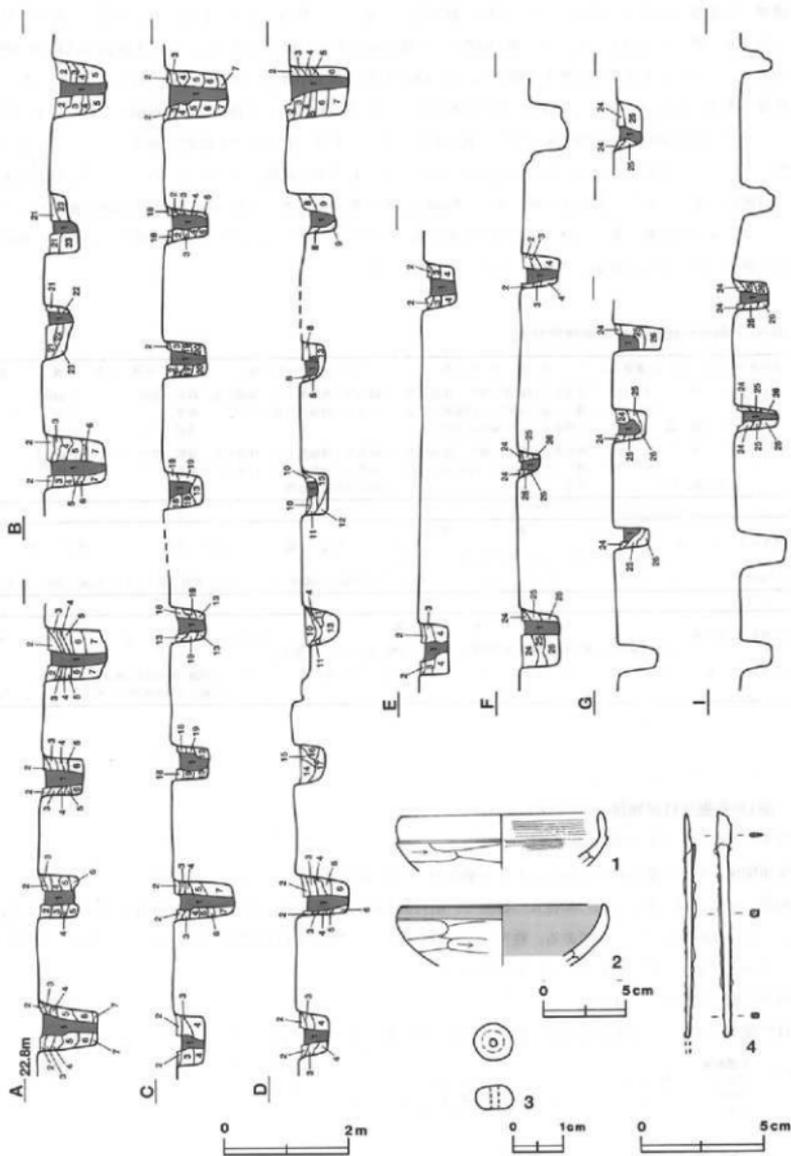
柱穴覆土 土層断面図中、第1層は柱の抜き取り痕、他は埋土と考えられる。柱抜き取り痕は、粘性・締まりが弱い。埋土はロームブロックを含む暗褐色土・褐色土を基調にしており、ローム粒子の多い層と少ない層が版築状に突き固められている。特に第2～8・13・19・20・23～26層は、強く突き固められている。

P1～33土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、粘土粒中量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック・粘土粒少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 10 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 14 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒少量
- 15 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒少量
- 16 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 17 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒少量
- 18 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 19 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 20 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 21 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 22 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 23 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 24 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 25 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック中量
- 26 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック少量



第335图 第57号掘立柱建物跡実測图



第336图 第57号掘立柱建物跡・出土物実測図

遺物 土師器片186点、土製品1点(小玉)、鉄器1点(鐵)が、P14~P18・P24・P25を除く各柱穴の柱抜き取り痕や埋土から出土している。第336図1の土師器杯はP6の埋土上層から、2の土師器杯はP30の埋土中層から、3の小玉はP15の埋土上層から、4の鐵はP30の埋土中層から横位でそれぞれ出土している。

所見 本跡の南部に、身舎とは別に、柱穴を検出した。P19・P20は、東側桁行と西側桁行の延長線上に位置しており、切妻屋根から南側に張り出した庇が想定される。P21~P32は中心建物の南部に「L」の字状に位置している。庇を想定するには柱筋が合わないが、それぞれが中心建物に平行していることから、付属の施設の可能性が考えられる。P33は不明である。時期は、6世紀後半と考えられる第1163号住居跡を掘り込んでいること、8世紀前葉と考えられる第1164号住居に掘り込まれていること、出土土器の特徴などから、7世紀後半に建てられ、8世紀前葉には廃絶されたものと考えられる。

第57号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第336図1	杯	A [123] B (3.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に襷をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面焼ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラ磨き。	砂粒・雲母 褐色 普通	P40623 5%
	土師器	A [124] B (3.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面焼ナデ。体部外面ヘラ削り。内面焼ナデ。内面及び口縁部外面黒色処理。	砂粒・雲母・石英 褐色 普通	P40624 5%

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第336図3	土玉	0.8	0.5	0.2	0.31	やや扁平の球状。ナデ。	砂粒・雲母、黒色	D P40508, 100%, P L240

図版番号	器種	計測値								材質	特徴	備考	
		全長(cm)	胴身径(cm)	胴身高(cm)	腹径部径(cm)	腹径部高(cm)	底径(cm)	底高(cm)	厚さ(cm)				重量(g)
第336図4	鐵	(146)	(27)	0.9	9.3	0.7	(3.8)	0.4	0.2~0.4	(12.5)	鉄	長径鐵。片刃雲状。胴身部が錆により寛敏部に付着。	M40506

第130号掘立柱建物跡(第337図)

位置 調査4区の中央部、K10b9区。

重複関係 P2が第1042号住居に、P7が第786号土坑に掘り込まれている。

規模 桁行2間、梁行2間の側柱式の建物で、桁行長3.93m、梁行長3.85mである。柱間寸法は、桁行1.75~2.12m、梁行1.63~2.15mである。柱穴は、平面形が径63~75cmのほぼ円形である。深さは、P5~P7が23~28cmで、P1~P4・P8が44~64cmである。

桁行方向 N-6°-W

柱穴覆土 各柱穴とも第1層が柱の抜き取り痕、他の層は突き固められていることから埋土と考えられる。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
 4 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量

P 3 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

P 4 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

P 5 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

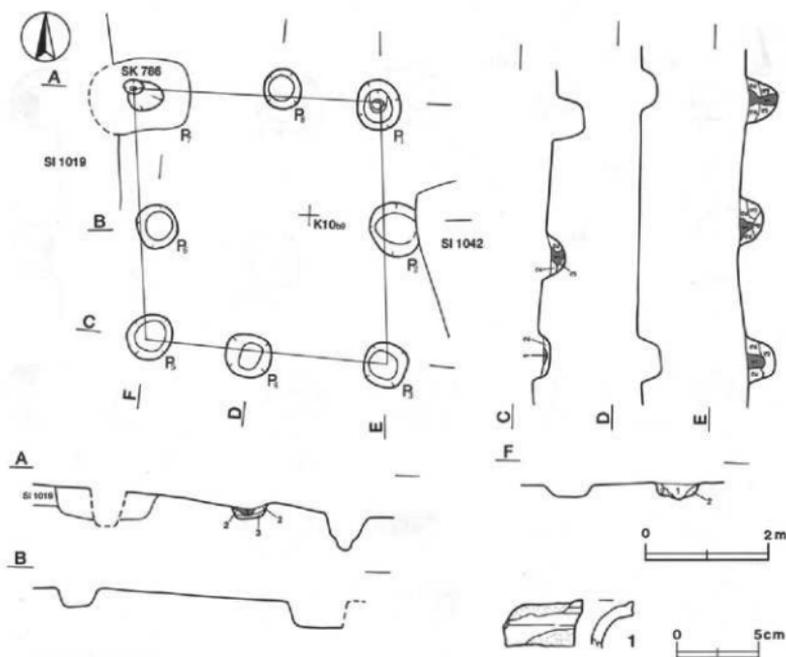
P 6 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量

P 8 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片89点が、P 1～P 6・P 8の各柱穴の柱の抜き取り痕及び埋土から出土している。その内訳は、



第337図 第130号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

P 1から土師器片 8点, P 2から土師器片 8点, P 3から土師器片 14点, P 4から土師器片 32点, P 5から土師器片 17点, P 6から土師器片 3点, P 8から土師器片が 7点それぞれ出土している。第337図 1の土師器壺片は, P 6の埋土から出土している。

所見 本跡の時期は, 8世紀前半と考えられる第1042号住居跡に掘り込まれていることと, 出土土器の傾向から古墳時代後期でも 7世紀後半以前と考えられる。

第 130 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

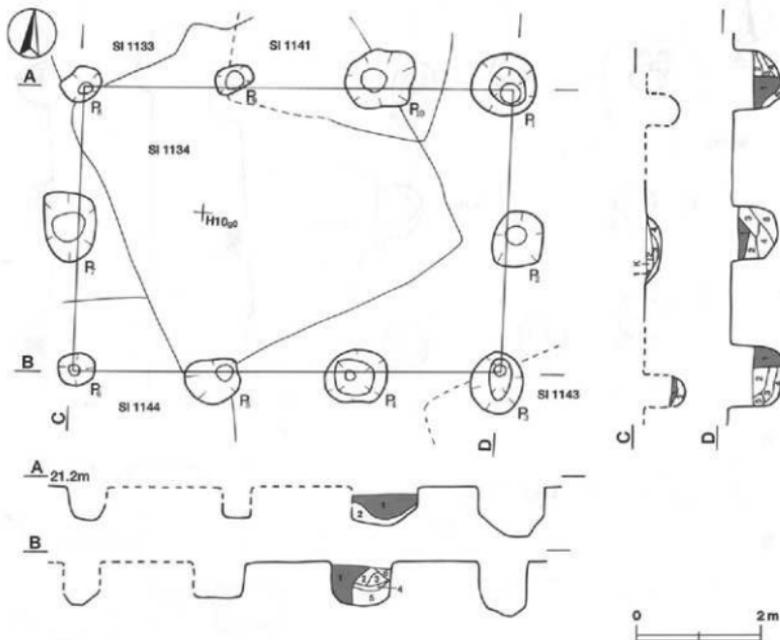
図録番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第337図 1	壺 土師器	A [140] B (32)	口縁部の破片。口縁部は外反し、 肩部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 にぶい橙色、普通	P 1146 5% 外面摩滅

② 奈良・平安時代

第58号掘立柱建物跡 (第338・339図)

位置 調査4区の北部, H10g0区。

重複関係 P 5・P 6が第1144号住居跡を, P 8が第1133号住居跡を, P 9・P 10が第1134号住居跡を掘り込んでいる。P 3を第1143号住居に, P 9・P 10を第1141号住居に掘り込まれている。



第338図 第58号掘立柱建物跡実測図

規模 桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長7.04m、梁行長4.62mである。柱間寸法は、桁行2.10～2.50m、梁行2.10～2.40mである。柱穴の平面形は、P1・P6がそれぞれ径107cmと69cmの円形、P3が長径101cm、短径87cmの楕円形、P2・P4・P5・P7・P10は長軸96～118cm、短軸83～93cmの隅丸長方形、P8・P9はそれぞれ長軸63cmと65cm、短軸44cmと41cmの小形の隅丸長方形である。深さは、P7だけが28cm、それ以外の柱穴は52～88cmで、断面形はいずれもU字形である。

桁行方向 N-87°-E

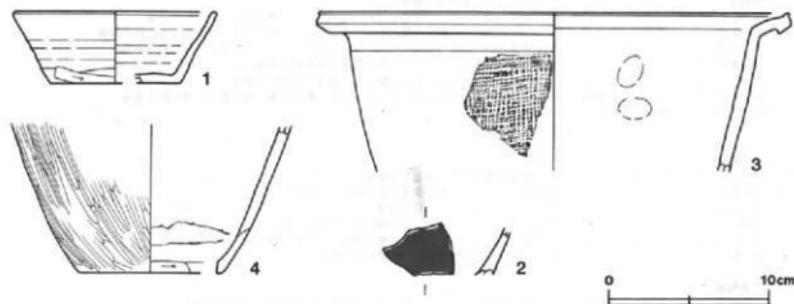
柱穴覆土 柱抜き取り痕は、土層断面図中の第1層が相当し、締まりが弱い。第2～6層は埋土である。埋土は、ロームブロックを含んだ暗褐色土・褐色土であり、互層になっている。突き固められた痕跡は、確認されなかった。

P1～P10土層解説 (各柱穴共通)

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量・ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量・ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量・ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 P4から土師器片4点、P5から土師器片9点、P10から土師器片17点、須恵器片3点が出土している。第339図1の須恵器坏片は、P10の埋土から出土している。2の須恵器坏片、3の須恵器鉢片、4の土師器坏片は、いずれもP10の柱抜き取り痕から出土している。

所見 時期は、重複関係及び出土土器から、9世紀前葉と考えられる。



第339図 第58号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第58号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第339図 1	坏	A [12.4] B 4.3	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部不定向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石・石英、灰褐色、普通	P40245 20%
	須恵器	C [8.0]				
2	坏	B (28)	体部の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英、黄灰色、普通	P40246、5% 体部内面漆付着
3	鉢	A [28.9]	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。端部を面取りして角丸らせている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行叩き後、縦位の平行叩き、内面指面肌を残すナデ。	砂粒・雲母・長石・石英、灰褐色、普通	P40248 45%
	須恵器	B (9.7)				
4	土師器	B (9.0) C [8.8]	底部から体部にかけての破片。無底式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き、内面ヘラナデ、下端横位のヘラ削り。	砂粒・石英・赤色粒子、褐色、普通	P40250 5%

第59号据立柱建物跡 (第340区)

位置 調査4区の西部, J10区。

重複関係 P1が第1074・1078号住居跡と第60号据立柱建物跡のP1を, P7~P10が第1064号住居跡を掘り込み, P3・P4が第1073号住居に掘り込まれている。

規模 桁行3間, 梁行2間の側柱式の建物跡で, 桁行長7.06m, 梁行長4.81mである。柱間寸法は, 桁行2.00~2.70m, 梁行2.20~2.60mである。P1~P4・P6~P9は平面形が, 長軸(径)94~122cm, 短軸(径)65~92cmの隅丸長方形または槽円形である。深さは, P3・P4・P8が44~62cmで, P1・P2・P6・P7・P9が85~103cmである。P5・P10は平面形が, それぞれ径94cmと99cmのほぼ円形で, 深さ86cmと65cmである。

桁行方向 N-0°

柱穴覆土 各柱穴とも第1層が柱の抜き取り痕, 他の層はロームブロックを多く含み, 突き固められていることから埋土と考えられる。

P1土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量, 炭化粒少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子少量, ローム大ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒少量
- 5 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒中量, 焼土粒少量
- 6 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒少量, 焼土粒・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒少量, ローム大ブロック・焼土粒・炭化材・炭化粒少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・焼土粒・炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・焼土粒・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム大ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム大ブロック少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒少量, 焼土粒・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

P3土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量, 焼土粒・炭化粒微量
- 2 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒少量, 焼土粒・炭化粒微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム大ブロック・焼土粒・炭化材・炭化粒微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量, ローム中ブロック・焼土粒微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒・焼土粒・炭化粒微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量, ローム中ブロック・炭化粒微量

P4土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒少量, ローム大ブロック・焼土粒・炭化材・炭化粒微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量, ローム中ブロック・焼土粒・炭化粒微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒・炭化粒微量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック少量, ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム小ブロック中量, 炭化粒少量
- 6 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック・炭化粒微量

P5土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒少量, 焼土粒・炭化粒微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒・炭化材・炭化粒微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・焼土粒・炭化粒微量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒・炭化粒微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒少量, 焼土粒・炭化粒微量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・焼土粒・炭化粒微量
- 7 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒中量, 炭化粒微量
- 8 暗褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック少量, 焼土粒微量
- 9 暗褐色 ローム粒少量, ローム大ブロック・ローム小ブロック中量, 炭化粒少量

P 6土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム小ブロック中量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

P 7土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム中ブロック多量、ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量

P 8土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム大ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック中量、炭化粒子微量

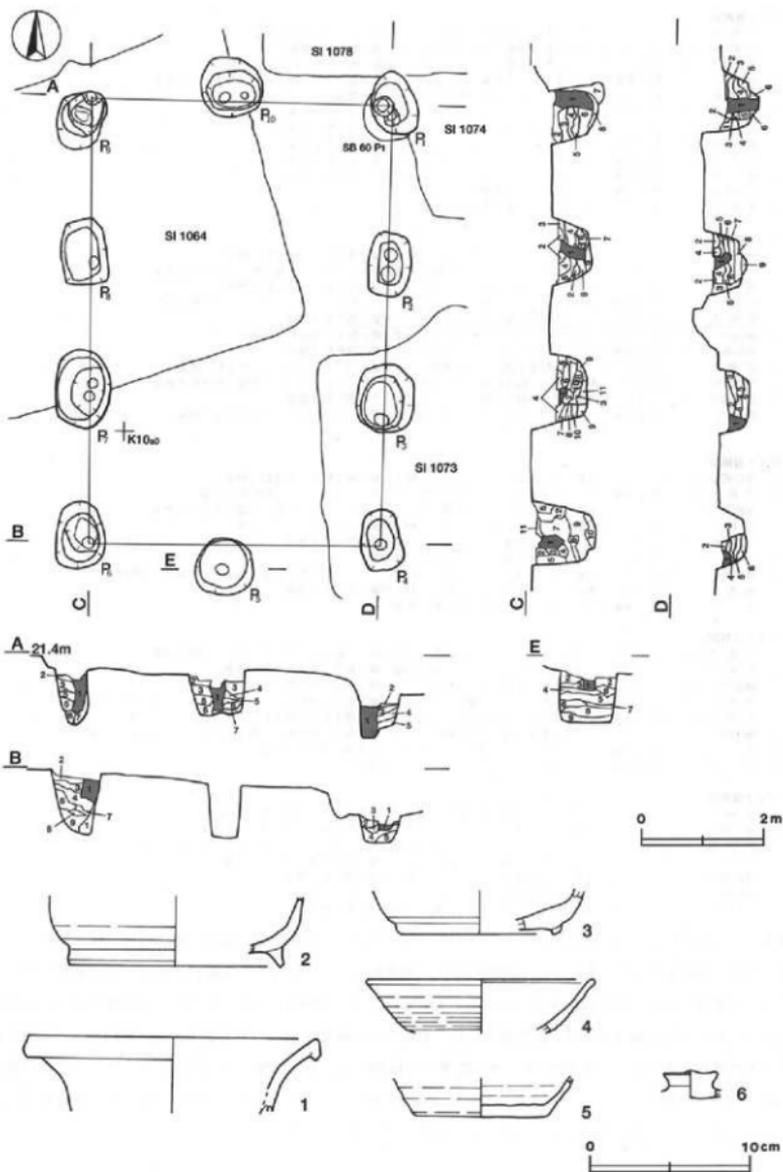
P 9土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム小ブロック中量

P10土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片127点、須恵器片39点が出土している。内訳は、重複のない本跡の確認面上で検出された土師器片34点・須恵器片8点、P1から土師器片23点・須恵器片5点、P3から土師器片6点・須恵器片3点、P5から土師器片10点・須恵器片4点、P6から土師器片9点・須恵器片2点、P7から土師器片8点・須恵器片2点、P8から土師器片8点・須恵器片11点、P9から土師器片16点・須恵器片1点、P10から土師器片13点・須恵器片3点である。第340図1の須恵器甕の口縁部片は、P6の埋土から出土している。2と3の高台付坏は、P7の埋土から出土している。4と5の須恵器坏片は、それぞれP8の埋土と柱の抜き取り痕から出土している。6の須恵器蓋片はP9の埋土から出土している。



第340图 第59号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

所見 本跡は、調査7・8区で検出されている8世紀から9世紀代にかけての側柱式の掘立柱建物跡と規模・形状・桁行方向が類似しており、ほぼ同時期の遺構と考えられる。時期は、出土土器と重複関係から8世紀後半と考えられる。

第59号掘立柱建物跡出土遺物観察表

区画番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第340区 1	壺	A [17.6], B (4.6)	口縁部の破片。口縁部は外反し、 頸部は下方に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒・炭粒 黄灰色 普通	P41416 5% 外面摩滅
	須恵器					
2	高台付 坏	B (4.3) D [13.4]	高台部から体部下位にかけての破片。 高台は「ハ」の字状に窪く。 体部下位は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下位ロクロナデ。底部面 転へら削り後、高台削り付け、ナ デ。	砂粒・炭粒・長石 靑灰色 普通	P41417 10% 外面摩滅
	須恵器	E 1.2				
3	高台付 坏	B (2.7) D [10.3]	高台部から体部下位にかけての破片。 高台は「ハ」の字状に窪く。 体部下位は内彎気味に立ち上がる。	体部外面下位ロクロナデ。底部面 転へら削り後、高台削り付け、ナ デ。	砂粒・炭粒 黄灰色 普通	P41418 10%
	須恵器	E 0.7				
4	坏	A [13.8] B (3.2)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、頸部 は丸く取められている。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・炭粒 灰白色 普通	P41419 10%
	須恵器					
5	坏	B (2.5) C 8.1	底部から体部下位にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部面 転へら削り後、ナデ。	砂粒・炭粒・長石 灰黄色 普通	P41420 25% P.L.240
	須恵器					
6	壺	B 1.7 F 3.2	つまみの破片。つまみは鑿室形状。	つまみ外面ナデ。つまみは削り付 け。	砂粒・長石 灰色、普通	P41421 5% 外面摩滅
	須恵器	G 0.9				

第60号掘立柱建物跡 (第341区)

位置 調査4区の中央部、J10i0区。

重複関係 2か所の柱穴が、第1078号住居跡を掘り込んでいると推定されるが確認されなかった。P3が第1064号住居跡を、P5が第1063号住居跡を掘り込み、P1は一部を残し第59号掘立柱建物のP1に掘り込まれている。

規模 南西コーナー部に位置するP3を基準として、桁行2間、梁行2間の側柱式の建物跡と推定され、桁行長は3.93m、梁行長は3.91mである。柱間寸法は、桁行1.80~2.10m、梁行1.70~2.30mである。柱穴は8か所と推定されるが、検出されたのは6か所(P1~P6)である。平面形はP1・P6がそれぞれ長径69cmと76cm、短径60cmと63cmの楕円形で、深さ34cmと24cmである。P2~P5は径60~65cmのほぼ円形で、深さ25~49cmである。

桁行方向 N-10° -W

柱穴覆土 P2~P4・P6の単積状況が確認できた。各柱穴とも第1層が柱の抜き取り痕、他の層は突き固められていることから埋土と考えられる。

P2土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

P3土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量

- 5 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 6 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

P4土層解説

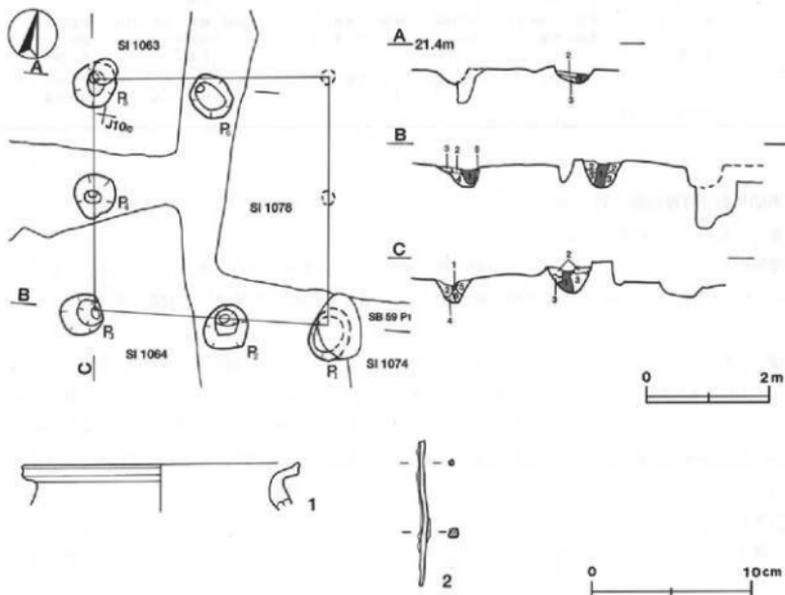
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
 2 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 明るい褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

P6土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 3 明褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量

遺物 土師器片20点、須恵器片1点、不明鉄製品1点が出土している。内訳は、P1から土師器片1点、P2から土師器片6点・不明鉄製品1点、P3から土師器片2点・須恵器片1点、P4から土師器片7点、P8から土師器片3点である。第341図1の土師器甕の口縁部片は、P4の埋土から出土している。2の不明鉄製品はP2の埋土から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器と重複関係から8世紀前半と考えられる。



第341図 第60号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第60号掘立柱建物跡出土遺物観察表

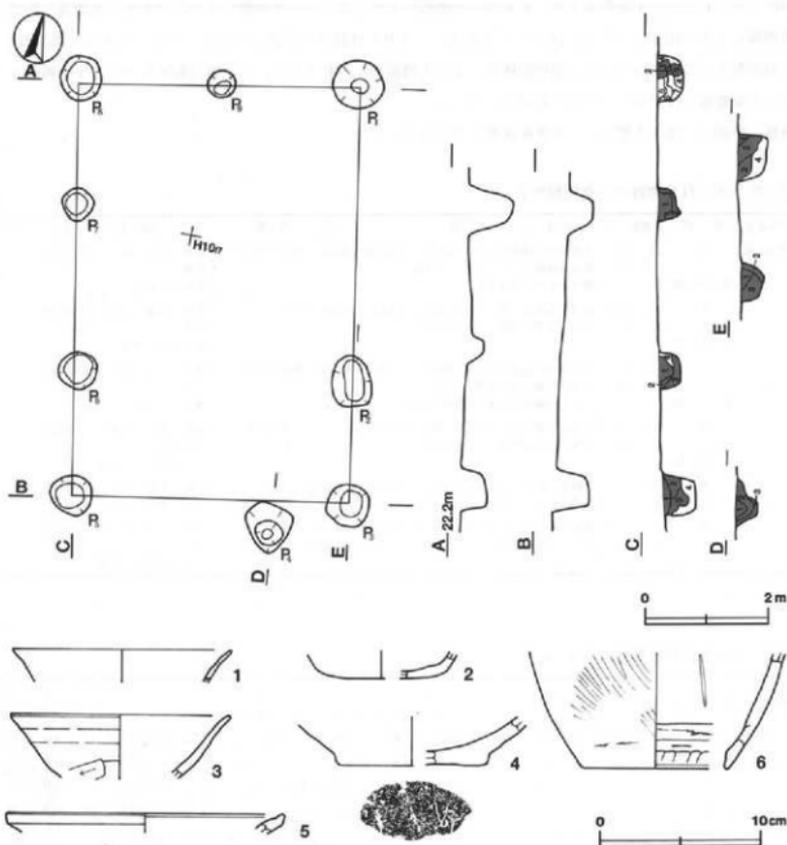
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第341図	甕	A [170] B (28)	頸部から口縁部にかけての破片。 頸部は屈曲し、口縁部は外反する。 頸部は上方へつまみ上げられている。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・長石 に多い褐色 普通	P4125 5%
	土師器					

図版番号	器種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第341図2	不 明	(8.9)	0.3~0.6	0.3~0.5	(6.4)	鉄	棒状。断面は方形。釘又は紡錘の軸の一部か。	M41056

第129号掘立柱建物跡 (第342図)

位置 調査4区の北部、H107区。

規模 桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行長6.76m、梁行長4.58mである。桁行の柱間寸法は、P1とP2の間だけが4.64mで、それ以外は2.02~2.66mである。P1とP2の間に柱穴が存在することを想定して精査したが、柱穴は確認されなかった。梁行の柱間寸法は、2.28~2.36mである。柱穴の平面形は、P2だけが長径82cm、短径66cmの楕円形、それ以外の柱穴は径45~83cmの円形で、深さは24~68cmである。



第342図 第129号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

桁行方向 N-9°-W

柱穴覆土 柱抜き取り痕は、上層断面図中の第1～3層が相当し、締まりが弱い。第4～7層は埋土である。埋土は、ロームブロックを含んだ暗褐色土・褐色土であり、互層になっている。突き固められた痕跡は、確認されなかった。

土層解説 (各柱穴共通)

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒少量、焼土粒少量・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物 P1から七師器片1点、P2から土師器片6点、P3から七師器片6点、P4から土師器片21点、須恵器片3点、P5から土師器片1点、P6から土師器片1点、P7から土師器片3点、P8から土師器片10点、須恵器片1点が出土している。図示した土器は、いずれも柱抜き取り痕から出土したものである。第342図1の須恵器坏片はP1から、2の須恵器坏片と4の土師器甕片はP3から、3の須恵器坏片と5の土師器甕片と6の土師器甕片はP4からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から、9世紀後葉と考えられる。

第129号独立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第342図 1	坏	A [13.4] B (2.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P40278 5%
	須恵器	B (1.6) C [8.2]	底部から体部下端にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 暗灰黄色、普通	P40279 5%
3	坏	A [13.4] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内寄気味に外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色、普通	P40281 5%
	須恵器	B (3.0) C [8.6]	底部から体部下端にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部下縁ヘラ削り。底部木炭痕。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい黄褐色、普通	P40280 5%
4	土師器	A [17.0] B (1.2)	口縁部の破片。口縁部は外傾し、端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 にぶい黄褐色、普通	P40282 5%
	土師器	B (7.1) C [9.0]	底部から体部にかけての破片。基座式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き、内面ヘラナデ。下縁横位のヘラ削り。	砂粒・石英・赤色粒子 にぶい黄褐色、普通	P40283 5%

表4 4区独立柱建物跡一覧表

独立柱建物跡番号	位置	桁行方向	桁×梁(間)	規模(m)	面積(㎡)	桁行柱間(m)	梁行柱間(m)	柱穴 (cm)				出土遺物	備考		
								壁礎	柱穴	扉	扉				
53	J9g1	N-21°-W	1×1	2.68×2.68	7.20	2.68	2.68	不明	3	円形	80-84	84-109	土師器片(坏・甕)	本跡→SD54	
54	J8j0	N-9°-W	2×2	3.97×3.96	15.88	1.80-2.10	1.80-2.10	柱礎	9	円形	37-51	44-103	土師器片(坏・甕)	本跡→SD59-960-965-SD64	
55	J9g6	N-15°-W	5×2	12.20×6.20	75.84	2.50-2.80	2.30-3.65	柱礎	18	正方形・八角形・不定形	35-165	50-100	53-90	土師器片(坏・甕)	本跡→SD61-50-587-51-753
56	J9i6	N-1°-E	2×2	6.20×5.10	31.82	2.50-3.70	2.40-2.80	柱礎	9	円形・楕円形	40-110	28-100	70-123	土師器片(坏・甕)	本跡→SD69-51-527-52
57	I10i5	N-2°-W	6×3	13.16×6.15	80.93	2.10-2.30	2.30-2.80	柱礎	23	正方形・円形・長方形・楕円形	60-200	50-70	38-100	土師器片(6号小土器・甕)	SD60→SD61-51166-5165-5166
58	H20g0	N-8°-E	3×2	7.04×4.67	32.92	2.10-2.50	2.10-2.40	柱礎	10	円形・楕円形・長方形	63-118	41-93	28-88	土師器片(甕・坏)	SD62-120-1144-1145-1146

遺立柱 発物 番号	位置	方位	桁×幅 (m)	裏 横 (m)	両 壁 (m)	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱 穴 (cm)					出土遺物	備 考	
								種類	柱穴	平 面 形	長径(横)	短径(縦)			間 隔
59	J1010	N-0°	3×2	7.06×4.81	33.06	2.00~2.70	2.20~2.60	圓柱	10	円形・楕円形・ 隅丸長方形	94~122	65~94	64~200	土器破片(甕・ 石臼)・灰層破片	SC99-001・002・03 04-486-001002
60	J1010	N-10°-E	2×2	3.93×3.91	15.29	1.80~2.10	1.70~2.30	圓柱	6	円形・楕円形	60~76	60~63	24~49	土器破片(甕)・灰層 破片・不明焼土	SD083-006・107 08-528-5289
129	H1027	N-0°-E	3×2	6.76×4.58	30.06	2.00~2.64	2.28~2.36	圓柱	9	円形・楕円形	65~83	66	24~68	1層破片(甕)・灰1 灰層破片(5%)	
130	K1009	N-0°-E	2×2	3.93×3.85	15.13	1.75~2.12	1.63~2.15	圓柱	8	円形	62~78		23~64	土器破片(甕)	本館-N11042・ SIC786

(3) 鍛冶工房跡

当遺跡からは調査4区の西部で、1棟の鍛冶工房跡が検出されている。

第1号鍛冶工房跡(第343・344図)

位置 調査4区の西部, I9d8区。

規模と平面形 北部が攪乱を受けているため、全容は不明である。東西軸は2.70mで、南北軸は3.10mだけが確認できた。南東・南西コーナーが直角であることから、長方形と推定される。

主軸方向 N-11°-E

壁 壁高は10~23cmで、外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。全体に軟質で、踏み固められた部分は見られなかった。

鍛冶炉 中央部からやや北西寄りに位置し、長径47cm、短径35cmの楕円形で、床面を10cm掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。炉の南側にP3を検出した。P3から鍛冶炉へは長さ27cm、幅10~12cm、幅3~6cm、深さ約4cmの溝がつながっている。緩やかに炉側に向かって傾斜しており、鞆羽口装着の可能性が考えられる。

炉土層解説

- 1 におい赤褐色 ローム粒子中量、灰少量、黄土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 炭化粒子・灰中量、ローム粒子・黄土粒子少量、炭化材微量
- 3 赤、褐色 黄土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土大ブロック微量
- 4 暗 褐色 ローム粒子中量、黄土粒子・炭化粒子・灰少量
- 5 暗 褐色 ローム粒子中量、黄土粒子・炭化粒子少量

ピット 12か所(P1~P12)。P1は中央部から東壁寄りに位置し、長径102cm、短径88cmの楕円形で、深さ46cmである。底面は、踏み固められて硬化している。覆土下層から上層にかけて鉄滓が出土している。また、覆土下層から炭化材が出土している。P1の北部には径18cmのほぼ円形で、深さがP1の底面から34cmの掘り込みが確認された。P2はP1の南側に位置し、長径75cm、短径55cmの不整楕円形で、深さ25cmである。P2の南部からは、径25cmのほぼ円形で、深さがP2の底面から20cmの掘り込みが確認された。P3は中央部に位置し、長径102cm、短径78cmの楕円形で、深さ15cmである。P3の北部からは、さらに深く掘り込まれた部分が2か所確認され、それぞれ長径25cm・35cm、短径17cm・20cmの楕円形で、深さはP3の底面から33cm・44cmである。P4はP3の南側に位置し、長径68cm、短径52cmの楕円形で、深さ60cmである。P5~P8はP1の北東部に位置し、長径18~63cm、短径13~45cmの楕円形で、深さ27~74cmである。これらのピットは、位置や形態から、作業に関わるものと考えられる。P9・P10は、南東・南西コーナー部に位置し、それぞれ長径25cm・23cm、短径18cm・17cmの楕円形で、深さ27cm・23cmである。位置と規模から、柱穴の可能性が考えられる。P11は南壁中央部の壁際に位置している。二段掘り込みになっており、上段は長径48cm、短径33cmの楕円形、深さ12cmで、下段は径19cmの円形、深さ24cmで、床面から下段底面までの深さは40cmである。位置や形態から、

出入口施設に伴うピットの可能性が考えられる。P12は南壁際の西寄りに位置し、長径56cm、短径48cmの楕円形で、深さ16cmである。性格は不明である。

P1土層解説

- | | | |
|---|-----|----------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化材・炭化粒子少量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 黒褐色 | 炭化材中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック・炭化材微量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化材・炭化粒子中量、ローム粒子少量 |
| 7 | 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化材・焼土粒子微量 |
| 8 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化材微量 |

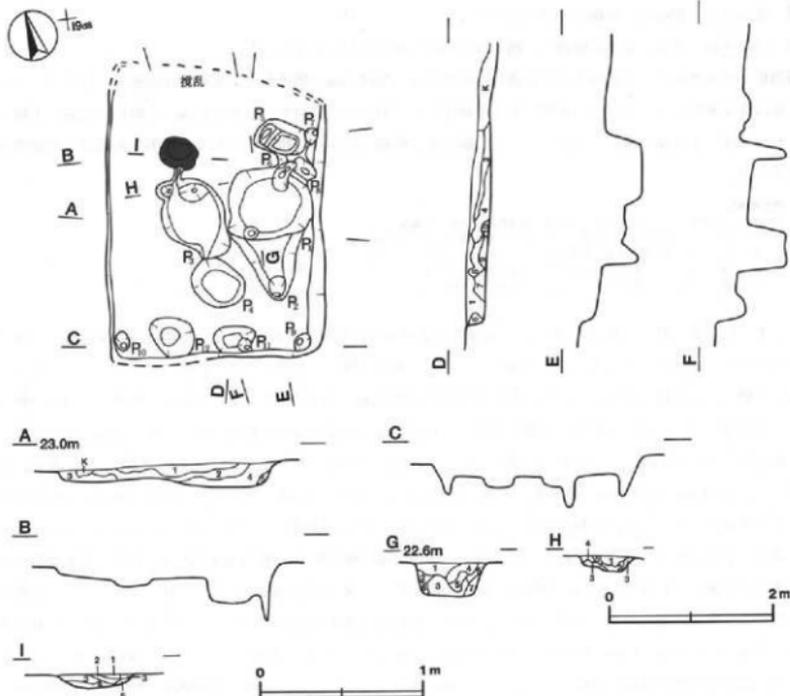
P3土層解説

- | | | |
|---|--------|---------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

覆土 10層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

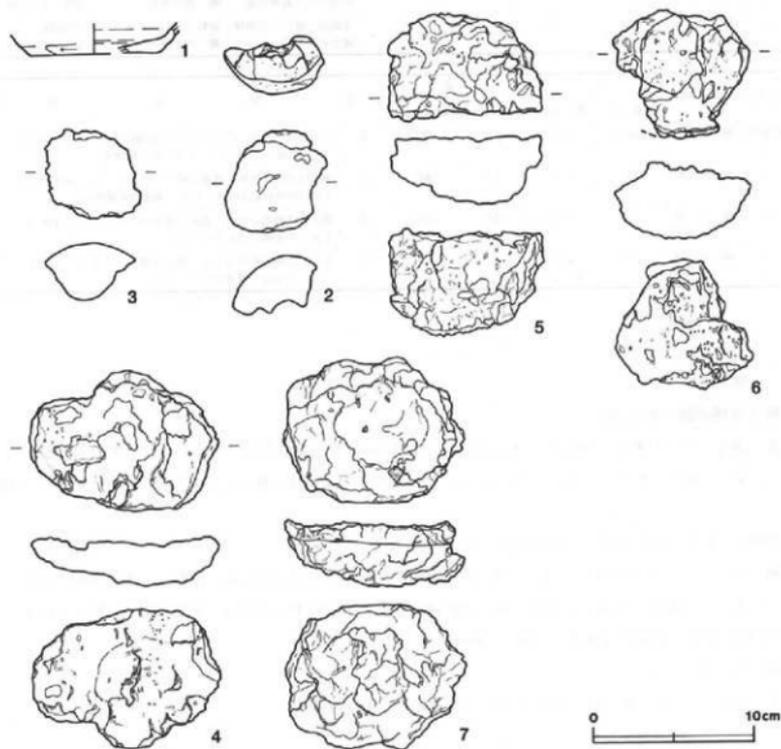
- | | | |
|---|-----|---------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |



第343図 第1号鍛冶工房跡実測図

- | | | |
|----|-----|------------------------------|
| 3 | 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量 |
| 4 | 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 | 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量 |
| 8 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 9 | 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 10 | 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 |

遺物 土師器片66点、須恵器片18点、礮羽口片13点、鉄滓7436g（椀形滓・鉄滓・鍛造剥片・粒状滓を含む）が出土している。第344図1の須恵器杯は、南西部の覆土中から出土している。2の礮羽口片は南東部の覆土下層から、3の礮羽口片はP1の覆土下層から出土している。4～7は椀形滓である。4は中央部やや東寄りの覆土中層から、5は中央部やや西寄りの覆土中層から、6は南西部の覆土中層から、7はP1の覆土中層からそれぞれ出土している。鉄滓類はP1付近に集中しており、特にP1の覆土中からは、炭化材209g、鉄滓1708g、鍛造剥片494g、粒状滓61gが出土している。鍛造剥片と粒状滓を大きさで大別すると、鍛造剥片の長さが7.1mm以上が28.5g、2.1～7mmが144.2g、2mm以下が321.6g検出された。粒状滓は直径が5.1mm以上が14.2g、4.1～5mmが17.5g、2.1～4mmが20.8g、2mm以下が8.7g検出された。



第344図 第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、出土土器が細片のため時期を特定することは困難であるが、出土した須恵器の形状から9世紀と考えられる。本跡からは鍛造測片や粒状滓、碗形滓、鉄滓等が出土し、鑄羽口片も出土していることから鍛冶工房跡と考えられる。また、P1の底部の硬化面は、このピット内で作業が行われた際に踏み固められたものと考えられる。出土した鍛造測片は長さが2mm以下のものが多く、粒状滓は比較的粒の大きいものが出土している。また、大形の碗形滓も出土していることから、精錬鍛冶から鍛錬鍛冶段階の作業工程を行っていたことが想定される。

第1号鍛冶工房跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第344図 J	坏 須恵器	B〔1.9〕 C〔8.0〕	底部から体部下端にかけての破片。 体部は外観して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下 端手持ちへつ削り。底部へつ削り。	砂粒・雲母 灰色、普通	P40504 5%

図版番号	器種	計測値				特徴	胎土・色調	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第344図 2	鑄羽口	[6.8]	(6.2)	[1.8]	(77.5)	先端部の破片。先端部 灰色ガラス質滓付着。	砂粒・長石・石英・小 礫 明赤褐色	DP40501 10%、P.L.236
3	鑄羽口	[8.0]	(5.3)	—	(63.5)	先端部の破片。内面摩 滅で孔径不明。	砂粒・長石・石英・小 礫 明赤褐色	DP40502 10%、P.L.236

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第344図 4	碗形滓	8.6	11.6	3.0	287	鉄	平面形は不整な台形を呈する。底面は縦やかにカーブし、上面はややくぼむ。表面に灰化物付着。	M40514
5	碗形滓	(6.5)	9.5	4.1	(308)	鉄	断面は全面破断面。裏面は縦やかにカーブし、上面は中央部付近がややくぼむ。側面で重量感有。	M40515
6	碗形滓	(7.8)	(8.3)	(4.7)	(224)	鉄	側面に破断面2か所。底面は縦やかにカーブし、上面は中央部付近がややくぼむ。	M40516
7	碗形滓	9.9	11.0	4.2	479	鉄	平面形は楕円形を呈する。底面は縦やかにカーブし、上面は中央部がややくぼむ。	M40517

(4) 楕円列

第3号楕円列跡(第345図)

位置 調査4区の中央部、J10i6区。地形的には、本跡から東側は緩い斜面になっており、黒色土が広がっている。第4号楕円列がわずかに方向がずれるものの、本跡から4.40mほど離れた北東方向のほぼ延長線上に位置している。

重複関係 P2～P4が第1048号住居跡を掘り込んでいる。

規模 直線上に、4か所の柱穴(P1～P4)が検出された。P1は、径71cmの円形で、深さ54cmである。P2～P4は、長径64～81cm、短径54～64cmの楕円形である。深さはP1が77cm、P2が42cm、P3が24cm、P4が52cmである。柱間の寸法は、2.08～2.30mである。

方向 N-28°-E

覆土 各柱穴とも第1層が柱の抜き取り痕、他の層は突き固められていることから埋土と考えられる。

P 1 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 6 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

P 2 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量

P 3 土層解説

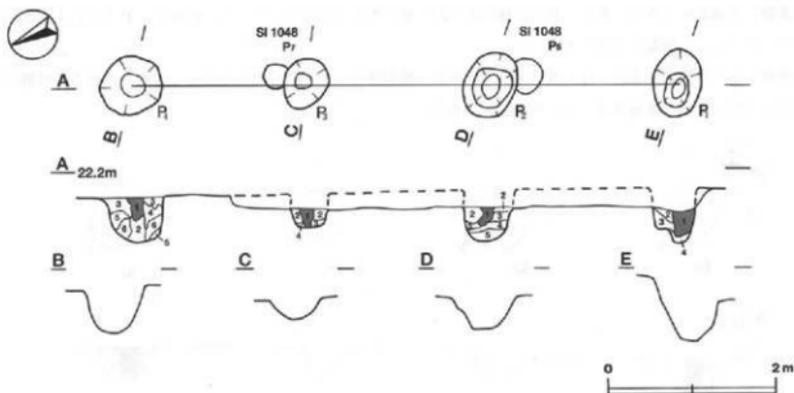
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

P 4 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片 7点、須恵器片 3点が、P 1・P 3・P 4の抜き取り痕や埋土から出土している。内訳は、P 1から土師器片 2点・須恵器片 3点、P 3から土師器片 4点、P 4から土師器片 1点である。いずれも壺の体部細片である。

所見 第4号柵列と方向・柱穴数・掘り方の形状が類似することから、対になるものと考えられる。時期は、出土土師の傾向と重複関係から7世紀以降と考えられる。



第345図 第3号柵列跡実測図

第4号櫓列跡 (第346図)

位置 調査4区の中央部, J10f9区。第3号櫓列がわずかに方向がずれるものの, 本跡から4.40mほど離れた南西方向のはば延長線上に位置している。

重複関係 P1が第1049号住居跡の南西壁を掘り込んでいる。

規模 直線上に, 4か所の柱穴(P1~P4)が検出された。P1は, 径64cmの円形で, 深さ51cmである。P2~P4は長径58~83cm, 短径47~66cmの楕円形で, 深さ38~45cmである。柱間の寸法は, 2.18~2.38mである。

方向 N-23° - E

覆土 P1・P4では, 第1層が柱の抜き取り痕と考えられる。P2・P3では, 柱の抜き取り痕が確認されなかった。他の層は突き固められていることから, 埋土と考えられる。

P1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

P2土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

P3土層解説

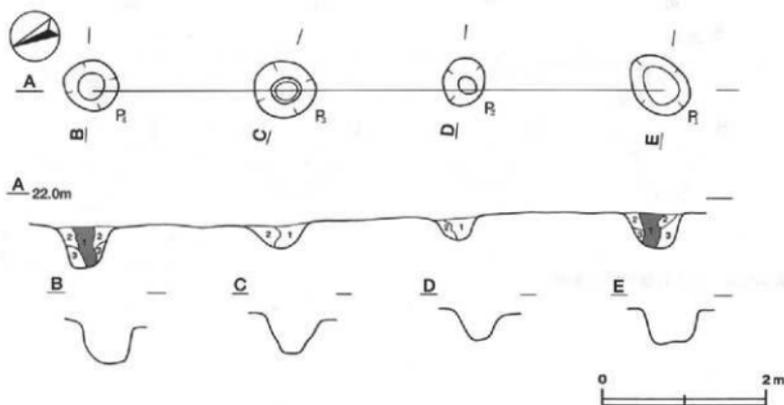
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

P4土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片6点が, P1・P2の柱の抜き取り痕や埋土から出土している。内訳は, P1から土師器片5点, P2から土師器片1点である。

所見 第3号櫓列と方向・柱穴数・掘り方の形状が類似することから, 対になるものと考えられる。時期は, 出土土器の傾向と重複関係から7世紀以降と考えられる。



第346図 第4号櫓列跡実測図

第5号横列跡 (第347図, 付図)

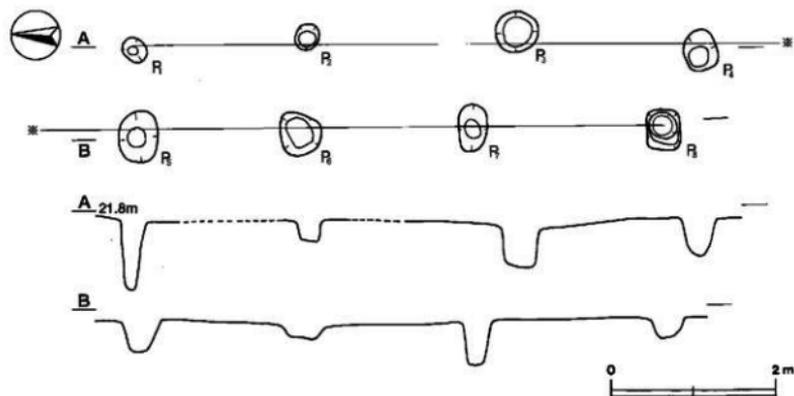
位置 調査4区の中央部, I10b8~I10b8区。本跡は第12号溝の約2m西側に, 南北に直線上に位置している。
規模 直線上に, 8か所の柱穴(P1~P8)が検出された。P1~P8間の長さは15.5m, 柱間の寸法は2.00~2.50mである。P1~P4・P6は径32~54cmのほぼ円形で, 深さ16~58cmである。P5・P7は長径62cmと49cm, 短径47cmと34cmの楕円形で, 深さ39cmと58cmである。P8は長軸51cm, 短軸41cmの隅丸長方形で, 深さ26cmである。P2・P6は深さが16cm・26cmであり, P1・P3~P5・P7・P8は深さが50~57cmである。

方向 N-4°-W

覆土 いずれもローム小ブロック・ローム粒子混じりの黒褐色土・暗褐色土・褐色土である。

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は, 出土物がなく不明である。本跡の東側に平行して第12号溝が位置しており, ほぼ等間隔に配列していることから, 溝に関わる遺構の可能性が考えられる。



第347図 第5号横列跡実測図

(5) 溝

調査4区では17条の溝を検出した。特徴的な遺構について記載し, それ以外の遺構や遺物については, 土層断面図と一覧表で掲載する。溝の平面図は付図に示す。

第12号溝 (第348図, 付図1)

位置 調査4区の中央部, J11b3区~J10b9区, J10b9区~I10a9区。基壇の可能性のある土坑群の南側と西側を囲むようにL字状に延びている。平成7年度の調査区と平成10年度の調査区にまたがって位置している。そのため, 調査もI10区を平成7年度に, J10・J11区を平成10年度にと, 両年度にわたった。

重複関係 第1176号住居跡を掘り込んでいる。また, 第822・920・923・925・926・932・933・940・942号土坑, 第63号溝に掘り込まれている。

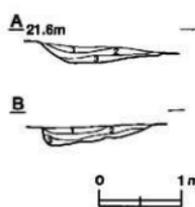
規模と形状 上幅100～180cm，下幅30～90cmで，確認面からの深さは22～38cmである。断面は浅いU字形を呈し，壁は西側と南側は外傾して立ち上がり，東側と北側は緩やかに傾斜して立ち上がる。調査区域内ではL字状に確認され，確認できる長さは南北23.0m，東西16.6mで，北側で平成7年度の調査の第12号溝につながり，東側で調査区域外に延びている。方向や形状から，北側の延長線上に位置する第60号溝とつながると考えられる。

方向 J11b3区から西方向（N-5°-W）に直線的に延び，J10b9区で北方向（N-88°-W）にほぼ直角に屈曲し，直線的に延びてI10a9区に至る。

覆土 3層からなり，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 空路褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 緑褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量



第348図 第12号溝土層断面図

遺物 土師器片284点，須恵器片43点が出土している。いずれも細片で，混入したものと考えられる。

所見 本跡の北部は平成7年度に調査が終了しており，その部分については，『茨城県教育財団文化財調査報告書』第120集を参照されたい。時期は，判断できる遺物が出土していないため不明であるが，墓域の可能性が考えられる土抗群を取り囲むように西側と南側に位置するため，墓域に係る溝の可能性が考えられる。

第35A号溝（第349・350図，付図1）

位置 本跡の調査は，平成7・9・10・11年の4年間にわたっている。平成7年度には，第11号溝として調査4区の北西部（I9b0～I9d0区）で調査されており，平成9年度には，第35号溝として調査11区の東端から西端（F12j4～G10i2区）で調査されている。平成10年度には，平成7年度と平成9年度の調査区の間である4区の北西部の一部（H10b2～H10h2区）と，4区の西部～南部（I9e0～K9j8区）の調査がなされ，第11号溝と第35号溝は連続する同一の溝であることが判明し，第35号溝として調査している。平成11年度には，平成10年度の調査4区に残った北西部の一部（H10h2～I9b0区）を第35号溝として調査した。調査の結果，第35号溝は調査4区と調査8区をほぼ南北に連続する溝と考えられていたが，調査4区と調査8区の境を東西に横断する第5号道路状遺構の部分で別の溝であることが判明した。そのため，第35号溝は，調査4区より北側の部分を第35A号溝，調査8区から南側を第35B号溝と区分した。

ここでは，平成10・11年度の調査4区内の北西部の一部（H10b2～I9b0区）と，調査4区の西部から南部（H10h2～K9j8区）について第35A号溝として報告する。

重複関係 第991・1003・1017・1018・1034号住居跡を掘り込み，第56・59・63号溝及び第770号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 調査4区の西寄り北端から南端まで，南北に直線状に延びている。調査4区北西部（H10b2～I9b0区）では，上幅223～332cm，下幅32～80cmで，確認面からの深さは85～104cmである。長さ26.4mで，直線的に南北に延びる。断面の形状は箱葉研搦状である。調査4区西部から南部（H10h2～K9j8区）では，上幅109～309cm，下幅35～66cmで，確認面からの深さは65.5～141cmである。長さは，97.4mで直線的に南北に

延びる。断面の形状は箱笥状であるが、南部に入って南へ下るほど幅が狭くなり、深さも浅くなっている。これは、下幅が調査4区北西部とあまり変わらないこと、調査4区の西部から南部にかけて地表面が傾斜していること、南部で検出された住居跡の覆土が薄いこと等から、地表面が長年の耕作によって削平されてしまっていると考えられ、本跡が付設された機能していた時期は、同じ形状をしていたものと考えられる。溝の底面の標高は、調査4区北西部では21.06~21.31mで、調査4区西部から南部にかけては21.45~21.66mである。調査区の北端と南端の底面の高低差は0.60mで、南から北に向かってわずかであるが緩やかに傾斜している。

方向 N-5°-E

覆土 レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

A-A' 土層解説

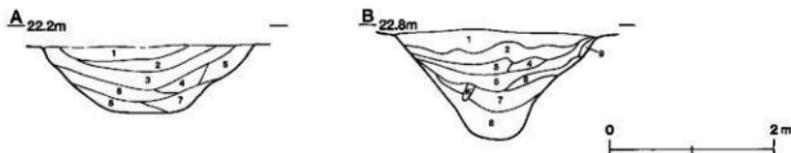
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・黄土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、赤土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、黄土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・黄土粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、黄土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・黄土粒子・炭化粒子微量

B-B' 土層解説

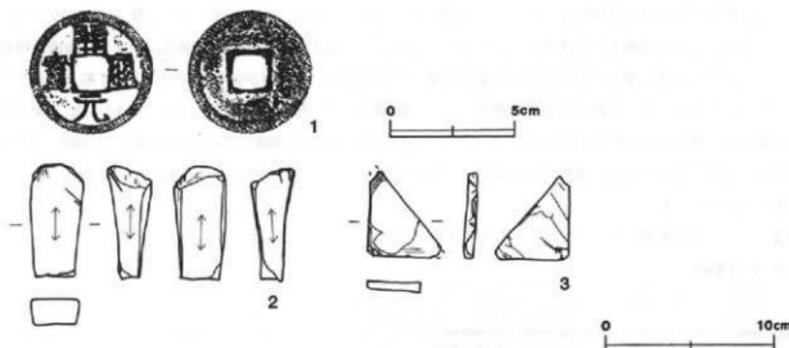
- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量、赤土小ブロック・黄土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・黄土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・黄土粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、黄土粒少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・黄土小ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・黄土粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック・粘土粒少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、黄土粒子・炭化粒子・粘土粒微量

遺物 土師器片724点、須恵器片59点、鉄滓1点、占鏡1点、砥石2点、馬骨片・馬歯、陶器片1点、磁器片1点が出土している。第350図1の占鏡は、I9g0区の覆土上層から出土している。2の砥石は、K9e9区の覆土中層から出土している。3の砥石は、覆土中から出土している。図示した遺物を含めて出土している土器片と鉄滓は、細片であり、多くは流れ込みによって混入したものと考えられる。特に、土師器片・須恵器片の多くは、掘り込んでいる古墳時代後期(第991・1018・1034号)と8世紀前葉(第1003・1017号)の住居跡から混入した遺物とも考えられる。馬骨片・馬歯は、2か所の地点の覆土下層から出土している。陶器・磁器片は、攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡は、調査11区で東西に延び、東端と西端で直角に屈曲し、南へと延びる、堀ともいえる大溝である。断面の形状や高低差、8世紀から9世紀代にかけての掘立住建物跡等との配置から考えても、ある特定の場所を区画する溝であると推定できる。本跡のこれまでの調査結果の詳細については、『茨城県教育財団文化財報告書』第120・166集を参照されたい。時期は、これまでの調査の報告から、8世紀中葉に位置づけられている。今回の調査では、8世紀前葉の住居跡を掘り込んでいることから、8世紀前葉以降であることがあらためて確認されたが、廃絶された時期については不明である。



第349図 第35A号溝土層断面図



第350図 第35A号溝出土遺物実測図

第35A号溝出土遺物観察表

図版番号	鑄名	計 測 値			鑄造年	鑄造国名	備 考
		径 (cm)	孔 (cm)	重さ (g)			
第350図1	開元通宝	2.5	0.7×0.7	3.22	初鑄621年のものか	唐(中国)	M41057 100% P L240

図版番号	器 種	計 測 値				材質	特 徴	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)			
第350図2	紙 石	(6.8)	3.1	1.7	(64.6)	凝灰岩	紙面4面, 断面長方形	Q41037 50% P L240
3	紙 石	(4.4)	(5.2)	0.7	(13.8)	泥岩	紙面2面, 端部欠損	Q41038 50%

第60号溝 (第351図, 付図1)

位置 調査4区の北部, I10a9区~H10d9区, H10d9区~H11a7区。H10j9区で第22号地下式墳の, H10i9区で第23号地下式墳の, H11c4区で第24号地下式墳のそれぞれ上層を通過している。墓域と考えられる土坑群の西側と北側を囲むようにL字状に延びている。第12号溝の北側の延長線上に位置している。

重複関係 第129・130・1055・1103・1126・1127・1130・1142・1144・1155・1156号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 上幅107~207cm, 下幅15~150cmで, 確認面からの深さは20~35cmである。断面はU字形を呈し, 壁は外傾して立ち上がる。溝の底面からビットが20か所検出された。長径25~105cm, 短径28~65cmの円形または楕円形で, 深さ19~77cmである。性格は不明である。確認できる長さは南北32.5mで, 北端ではほぼ直角に曲がり東に30.7m延びる。東端と南端は掘り込みが浅くなり確認できなかった。方向や形状から, 南側の延長線上に位置する第12号溝とつながると考えられる。

方向 I10a9区から北方向 (N-5°-W) に直線的に延び, H10d9区で東方向 (N-82°-E) にはほぼ直角に屈曲し, 調査区域外に延びている。

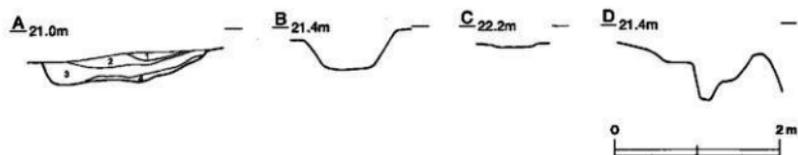
覆土 4層からなり, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック少量 | 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 明褐色 ローム粒子多量 |

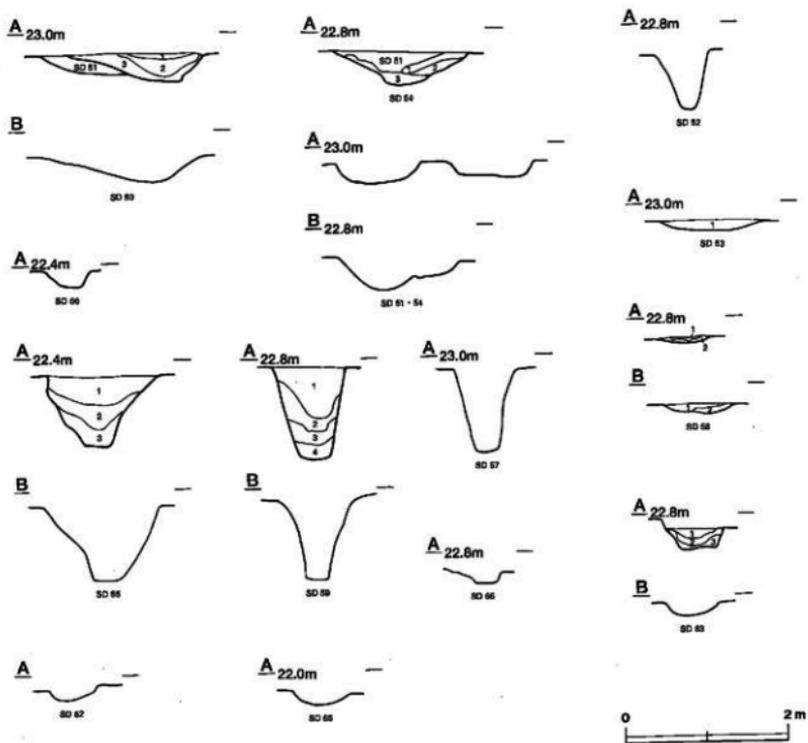
遺物 土師器片269点, 須恵器片82点が出土している。いずれも細片で, 混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 判断できる遺物が出土していないため不明であるが, 溝に沿って地下式竈が掘り込まれていることや, 本跡と第12号溝とで「コ」の字状に取り囲まれている中に, 墓域や墓域の可能性が考えられる土抗群, 火葬施設, 地下式竈が検出されていることなどから, 墓域を区画した溝の可能性が考えられる。



第351図 第60号溝断面図

その他の溝 (第352図)



第352図 その他の溝断面図

第30号黄土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 深褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第33号黄土層解説

- 1 暗褐色 コーム粒子中量, ローム小ブロック少量

第34号黄土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, コーム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第35号黄土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 コーム粒子少量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック微量

第38号黄土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・粘土粒子微量

第39号黄土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 コーム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 コーム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, コーム小ブロック微量

第63号黄土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

表5 4区溝一覽表

溝番号	位置	走行方向	形状	規模 (m)				壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 新旧関係 (古→新)
				幅	上幅	下幅	深さ (cm)					
12	I109~J11b3	北→東	L字状	(36.6)	1.00~1.80	0.30~0.90	22~38	外傾	自然	-	SD176→本跡→SK822-923-924-925-926-927-928-929-940-941-SD161	
35A	E1012~K98	北→南	直線状	(123.8)	1.09~3.32	0.32~0.82	65.5~141	外傾	自然	土師器片・須恵器片, 陶器片, 磁器片, 古銭, 瓦片, 銅貨, 魚	SI901-1008-1017-1018-1034→本跡→SD56-59-63→SK770	
50	I949~J9g1	北東→南西	直線状	(90.8)	1.02~1.88	0.14~0.79	30~40	傾斜	U	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SD84-90→本跡→SD55-59
51	I916~K8a9	北→南西	L字状	(72.7)	0.42~0.90	0.28~0.68	16~38	外傾	U	自然	土師器片, 須恵器片	SD340-349-351-353-355→本跡
52	J916~K9d6	北→東	L字状	27.0	0.50~0.76	0.12~0.20	58~70	外傾	V	自然	土師器片, 須恵器片	SI968→本跡→SK751
53	J9a6~J9c3	北→東	L字状	(23.0)	0.46~0.68	0.32~0.46	13~	外傾	U	自然	土師器片, 須恵器片	SD364-365-366-368-369→本跡
54	I918~K8a9	東→南西	L字状	(57.7)	0.55~1.28	0.18~0.50	18~40	外傾	U	自然	土師器片, 須恵器片	SD340-349-351-353-355→本跡
55	K9d5~K5g6	北→南	直線状	(107.4)	0.28~1.47	0.24~0.35	78~90	外傾	U	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SI900-SD35A→本跡
56	K9d7~K10f1	北西→南東	直線状	(19.3)	0.32~0.65	0.1~0.36	14~20	外傾	U	自然	-	SD35A→本跡→SK762
57	K10g2~L10a1	北→南	直線状	(17.32)	0.64~1.04	0.22~0.38	85~102	外傾	U	自然	土師器片	SI1007→本跡→SK767
58	I9e9~I9j8	北→南	蛇行状	(23.9)	0.38~0.93	0.12~0.32	5~12	傾斜	U	自然	土師器片, 鉄滓	本跡→SK754
59	J916~J10j2	東→西	直線状	(26.9)	0.56~1.02	0.17~0.38	97~114	外傾	U	自然	陶器片	SD35A-52-62→本跡
60	H11b7~I10a9	東→西	L字状	(63.2)	0.54~2.07	0.15~1.50	20~47	外傾	U	自然	-	SD28-130-105-108-128-127-130-142-144-155-156→本跡
62	J9b3~J916	東→西	直線状	(11.2)	0.48~0.81	0.04~0.32	4~19	傾斜	U	自然	-	SI970-978-SD59→本跡
63	I9b6~I10b9	東→西	直線状	(38.8)	0.42~0.80	0.20~0.40	15~28	外傾	U	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 磁器片	SI1163-1165-1166-SD35A→本跡→SD64-SK825
65	I1018~J10b8	北→南	直線状	(127.5)	0.42~0.72	0.13~0.30	14~16	傾斜	U	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 磁器片	SI1168-1173→本跡
66	J10a1~10b8	北→西	L字状	(27.4)	0.34~0.56	0.08~0.38	5~22	外傾	U	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SI905-926-940-941-4群→SD21

(6) 井戸跡

第28号井戸跡〔SK-947〕(第353・354図)

位置 調査4区の中央部, J10i8区。

重複関係 第1063・1065号住居跡を掘り込んでいる。

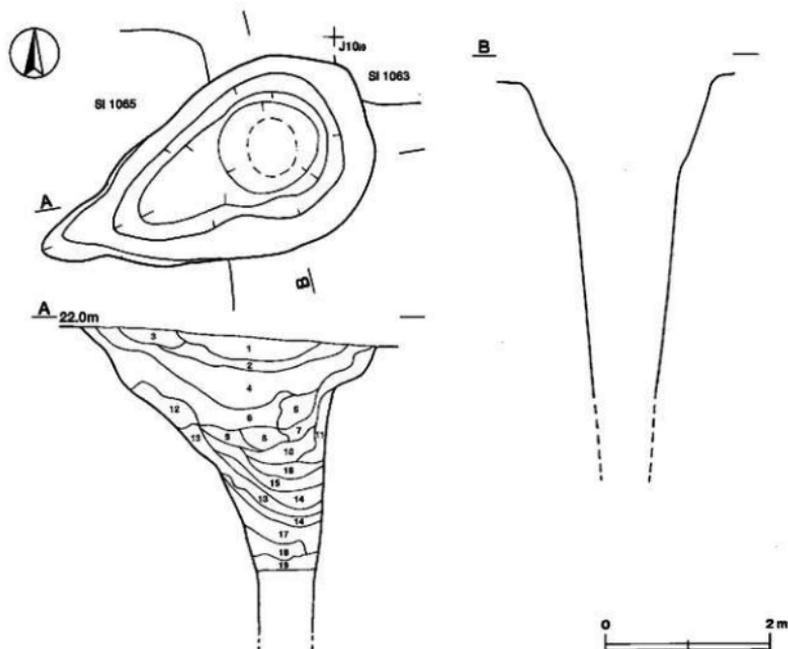
規模と形状 掘り方が確認されただけである。掘り方は漏斗状を呈している。上部の平面形は、長径4.22m、短径2.31mの卵形で、確認面から1.10mの深さまでは緩やかな傾斜ですぼまっていき、下部は径1.22mのほぼ円筒形に掘り込まれている。確認面下、4.95mまで掘り込み調査し、底面は確認できなかった。底面付近の平面形は、長径68cm、短径59cmの楕円形である。本跡は、ローム層と常総粘土層を掘り込み、さらに砂質粘土層まで掘り込んでいる。主に水の滲出が見られるのは、常総粘土層の上部である。

長径方向 N-118°-W

覆土 19層まで確認されている。全体的にはレンズ状の堆積状況を呈しているものの、含有物の特徴と土層中の上層〜下層から同時期に比定される須恵器大甕の破片が出土していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・炭化粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化材・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子・炭化物・炭化粒子・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 炭化材中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

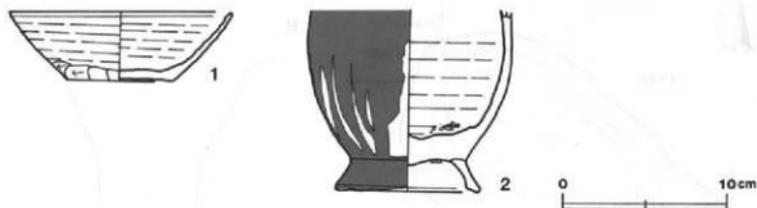


第353図 第28号井戸跡実測図

- 5 黒褐色 ローム粒子中量、粘土小ブロック少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子微量
 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化材・炭化粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 8 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
 9 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化材・炭化粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
 10 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 11 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
 12 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子微量
 13 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 14 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子微量
 15 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化材少量、ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
 16 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 17 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック微量
 18 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック・粘土中ブロック微量
 19 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・粘土中ブロック微量

遺物 土師器片129点、須恵器片13点、灰釉陶器片1点が出土している。第354図1の須恵器杯と2の灰釉陶器水瓶片は、ともに覆土下層から出土している。須恵器片のうち大甕片は11点で、そのうち3点が本跡の10mほど西側に位置する第999号住居跡の大甕片と接合している。

所見 本跡の覆土中には、本跡が掘り込んでいる焼失住居、第1065号住居跡のものと考えられる、炭化材・炭化粒子・焼土粒子が多く含まれ、また、本跡から出土している大甕片と同時期と思われる大甕片も、第1065号住居跡から1点ではあるが出土している。さらに、本跡から出土した遺物は、第1065号住居跡の遺物と時期的にも一致するものであり、本跡を廃棄したときに第1065号住居跡に属した土器が混入したと考えられる。本跡の時期は、9世紀後半と考えられる第1065号住居跡を掘り込んでいることから、9世紀後半以降と考えられる。



第354図 第28号井戸跡出土遺物実測図

第28号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第354図 1	杯	A 13.4 B 4.3 C 6.4	口縁部一部欠損。平底。体部は外輪して立ち上がり、口縁部に至る。胴部は丸く収めている。	口縁部、体部内・外面ロクナデ。体部下縁手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り痕を残す。不定方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 にふいぶき色 普通	P41433 99% P L 240 二次焼成
	須恵器					
	水 瓶	B (11.0) D 8.7 E 1.9	高台部から体部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内壁して立ち上がる。	体部内・外面ロクナデ。高台貼り付け後、ナデ。輪は裏し削げ。	緻密 胎土 灰白色 釉 緑がかったオリーブ ア 灰色。良好	P41434 40% P L 240 黒曜石90号式

(7) 地下式墳

第21号地下式墳 (第355図)

位置 調査4区の中央部、I10h9区。墓塚と考えられる土坑群の西側に位置している。

重複関係 堅坑が第1176号住居跡を掘り込み、第823・942号土坑に掘り込まれている。

竪坑 平面形は、長軸1.23m、短軸0.82mの、長軸が主軸に直交する隅丸長方形である。壁は外傾して立ち上る。壁高は第823号土坑に掘り込まれているため、確認できたのは141cmである。底面は、主室と同じ高さではほぼ平坦である。

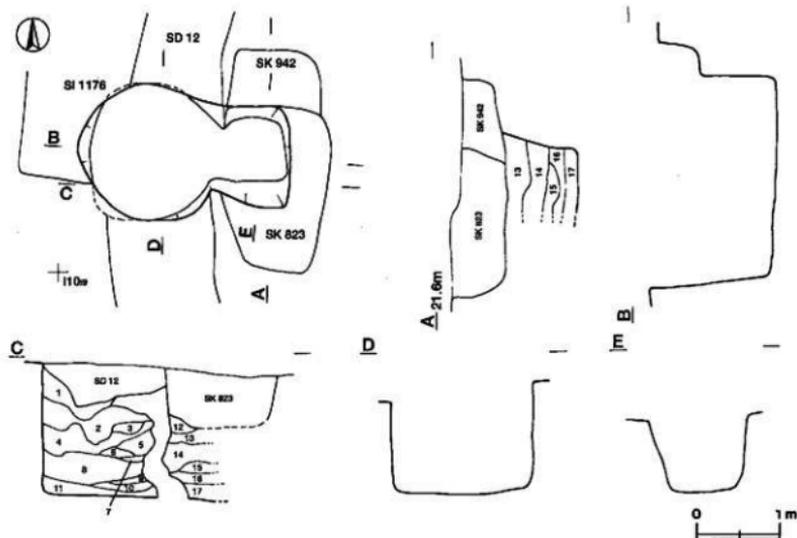
主室 平面形は、径1.65mの円形で、壁はほぼ直立し、壁高は110cmである。底面は平坦である。天井部は崩落し、遺存していない。

主軸方向 N-81°-W

覆土 17層からなる。第1～11層は、主室の堆積土層である。土層断面図中、第8層がロームブロックを多量に含むことから、天井部の崩落土層と考えられる。第8層の下部から検出された第9～11層は、天井部の崩落前に竪坑から流れ込んだ層で、第8層の上部から検出された第1～7層は、天井部の崩落後に周囲から流れ込んだ層と考えられる。竪坑内から検出された第12～17層は、竪坑から流れ込んだ層と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子・粘土粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 7 灰褐色 粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック少量
- 9 暗褐色 粘土粒子少量、ローム粒子少量
- 10 灰褐色 粘土粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、ローム大ブロック少量
- 12 暗褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 13 灰褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 14 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子少量
- 15 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 16 褐色 粘土粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子少量
- 17 灰褐色 粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量



第355図 第21号地下式横実測図

遺物 土師器片82点, 須恵器片21点が覆土中から出土している。いずれも混入したものと思われる。

所見 本跡の時期は, 出土遺物からは判断できないが, 遺構の形態から中世と考えられる。性格については, 東部に墓塚の可能性があると考えられる土坑群が確認されているため, 墓塚との関連が考えられる。

第22号地下式塼 (第356図)

位置 調査4区の北部, H109区。本跡及び以下に記載する第23~25号地下式塼は, 墓塚と考えられる土坑群を囲むように位置している。本跡は, 第23号地下式塼から南へ5.5m, 第25号地下式塼から西へ19mの距離に位置する。

重複関係 東部で第1151号住居跡を掘り込んでいる。

堅坑 平面形は, 長軸1.33m, 短軸1.07mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。壁は外傾して立ち上がり, 壁高は1.24~1.38mである。底面は主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室 平面形は, 長軸1.53m, 短軸1.08mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。天井部はドーム状を呈しており, 底面から天井部までの高さは0.79~1.07mである。壁は直立し, 壁高は0.79mである。底面は平坦である。

主軸方向 N-108° - W

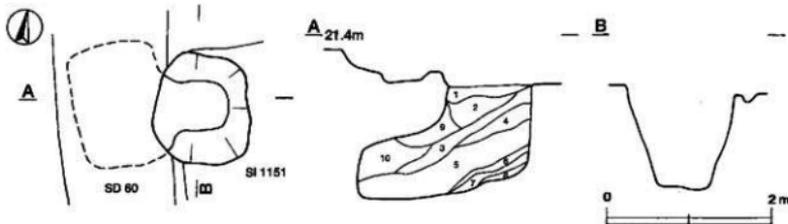
覆土 10層からなる。土層断面図中, 第5層がローム土の純層に近いことから, 天井部や壁の一部が剥落したものと考えられる。第5層の下部から検出された第6~8層は, 堅坑から主室に向かって傾斜して堆積していることから, 天井部や壁の一部が崩落する前に堅坑から流れ込んだ層と考えられる。第5層の上部から検出された第1~4・9・10層は, 崩落後に自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・純土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・純土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量・ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・純土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 10 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量

遺物 混入した土師器片17点, 須恵器片4点が出土している。時期を判断できる遺物は, 出土していない。

所見 本跡及び以下に記載する第23~25号地下式塼は墓塚と考えられる土坑群を囲むように位置していることから, 中世の埋葬施設との関連が考えられる。詳細な時期は, 判断できる遺物が出土していないことから, 不明である。



第356図 第22号地下式塼実測図

第23号地下式墳 (第357図)

位置 調査4区の北部, H1019区。第22号地下式墳から北へ5.5m, 第24号地下式墳から南西へ28mの距離に位置する。

重複関係 北部で第1142号住居跡を, 南部で第1155号住居跡を掘り込んでいる。

竪坑 平面形は, 長軸1.10m, 短軸0.94mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。壁は急な傾斜で立ち上がり, 壁高は0.87~1.18mである。底面は, 主室と同じ高さで, 平坦である。

主室 平面形は, 長軸1.48m, 短軸1.03mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。西壁際にドーム状と推定される天井部の一部が残存している。底面から天井部までの高さは0.88~1.02mである。壁は直立し, 壁高は0.88mである。底面は平坦である。

主軸方向 N-88°-W

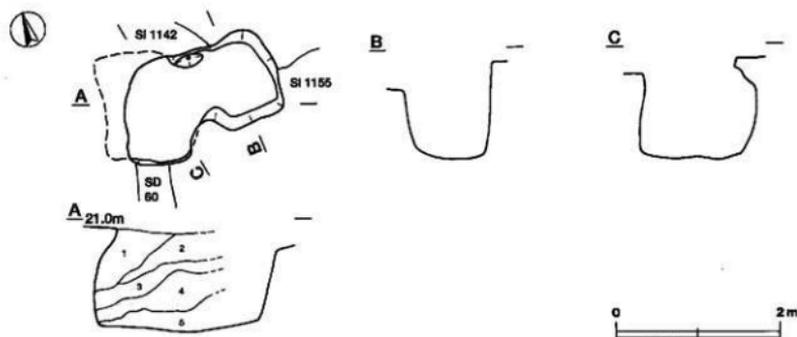
覆土 5層からなる。上層断面図中, 第4層がローム土の純層に近いことから, 天井部の崩落上と考えられる。第4層の下部から検出された第5層は天井部の崩落以前に, 第4層の上部から検出された第1~3層は崩落後に自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- | | |
|-------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 緑褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒少量 |

遺物 混入した土師器片8点が出土している。

所見 時期は, 判断できる遺物が出土していないことから, 不明である。



第357図 第23号地下式墳実測図

第24号地下式墳 (第358図)

位置 調査4区の北東部, H11c4区。第23号地下式墳から北東へ28m, 第26号地下式墳から北へ18mの距離に位置する。

竪坑 平面形は, 径0.65mのはほぼ円形である。壁は直立しており, 壁高は1.40~1.65mである。底面は, 主室に向かって緩やかに下降している。竪坑と主室をつなぐ部分の天井部の一部が遺存しており, 底面からの高さ

は1.25mである。天井部は、主室に向かって緩やかに下降している。

主室 平面形は、長軸1.74m、短軸1.30mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。天井部は遺存していない。壁高は1.61～1.81mで、北壁は外傾して立ち上がり、それ以外の壁はほぼ直立する。底面は平坦である。

主軸方向 N-7°-E

覆土 7層からなる。最下層である第7層はローム土の純層に近いことから、天井部の崩落土と考えられる。

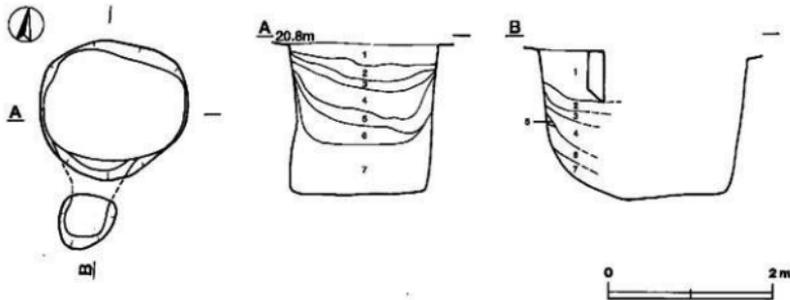
その他の土層は、レンズ状に堆積していることから、天井部が崩落した後、自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 産卵褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 7 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、粘土粒子少量

遺物 混入した土器器片7点が出土している。

所見 時期は、判断できる遺物が出土していないことから、不明である。



第358図 第24号地下式墳実測図

第25号地下式墳 (第359図)

位置 調査4区の北東部、H11a4区。第22号地下式墳から東へ19m、第26号地下式墳から南へ12mの距離に位置する。

壁坑 平面形は、長軸1.02m、短軸0.76mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。壁はほぼ直立し、壁高は0.73mである。底面は、主室と同じ高さで、平坦である。

主室 平面形は、長軸1.69m、短軸1.42mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、壁高は0.76mである。底面は、平坦である。

主軸方向 N-92°-W

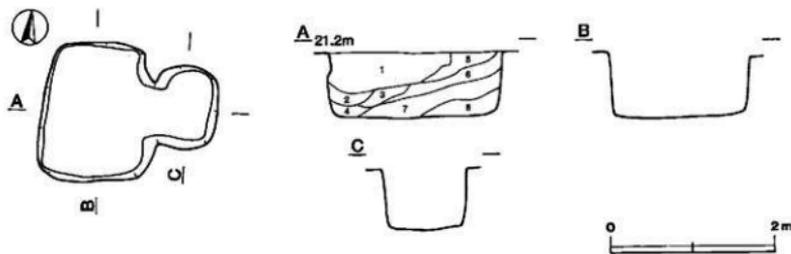
覆土 8層からなる。土層断面図中、第5～8層がローム粒子を多量に含む褐色土であることから、天井部の崩落土と考えられる。その上部から検出された第1～4層はレンズ状に堆積していることから、天井部の崩落後自然堆積したものと考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック微量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 時期は、判断できる遺物が出土していないことから、不明である。



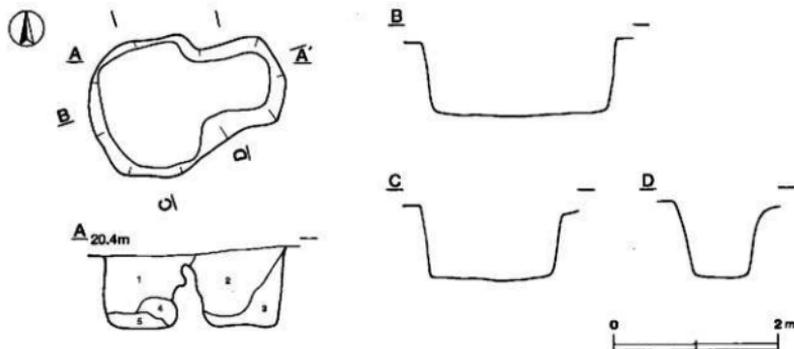
第359図 第25号地下式横実測図

第26号地下式横 (第360図)

位置 調査4区の北東部、H11h4区。第24号地下式横から南へ18m、第25号地下式横から北へ12mの距離に位置する。

壁坑 平面形は、長軸1.12m、短軸1.07mの隅丸方形である。壁はほぼ直立し、壁高は83~92cmである。底面は、主室と同じ高さで、平坦である。

主室 平面形は、長軸1.49m、短軸1.07mの隅丸長方形である。長軸は主軸と直交する。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、壁高は0.76~0.90mである。底面は、平坦である。



第360図 第26号地下式横実測図

主軸方向 N-110° -W

覆土 5層からなる。第4・5層が天井部の崩落土と考えられる。その他の土層は、天井部の崩落後、自然堆積したと考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック中量
 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 5 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量

遺物 混入した土師器片10点、須直器片2点が出土している。

所見 時期は、判断できる遺物が出土していないことから、不明である。

表6 4区地下式塼・一覧表

番号	位置	方向	塼				覆土	出土遺物	資料関係 (古→新)		
			壁		蓋						
			長さ(北)×幅(南) (m)	厚さ (m)	平面形	長さ(北)×幅(南) (m)				厚さ (m)	平面形
21	H10h9	N-87°W	1.23×0.82	1.41	隅丸長方形	1.65	1.10	円形	自然	土師器片、須直器片	本館→S K823-942
22	H10j9	N-106°W	1.33×1.07	1.24~1.38	隅丸長方形	1.63×1.08	0.79~1.07	隅丸長方形	人為	土師器片、須直器片	S I 1151→本館
23	H10j9	N-88°W	1.10×0.94	0.87~1.18	隅丸長方形	1.48×1.03	0.88~1.02	隅丸長方形	人為	土師器片	S I 1349-1155→本館
24	H11c4	N-7°E	0.65	1.08	円形	1.74×1.30	1.61~1.81	隅丸長方形	自然	土師器片	
25	H11a4	N-92°W	1.02×0.78	0.73	隅丸長方形	1.69×1.42	0.76	隅丸長方形	人為		
26	H11b4	N-110°W	1.12×1.07	83.00~92.00	隅丸長方形	1.69×1.07	0.76~0.90	隅丸長方形	自然	土師器片、須直器片	

(8) 方形竪穴状遺構

方形竪穴状遺構が、調査4区で11基検出されている。平成7年度の調査では2基から骨粉や人の歯等が出土している。平成10年度の調査では、8基が検出されており、火葬施設や墓塚の可能性があると考えられる土坑群に隣接している。墓塚に関わる遺構の可能性が考えられる。以下にその特徴等を記載する。

第9号方形竪穴状遺構 (第361図)

位置 調査4区の中央部、J10d0区。

重複関係 第1049号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.00m、短軸2.40mの長方形である。

長軸方向 N-76° -W

壁 壁高は26~30cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦であり、中央部から出入り口にかけて特に踏み固められている。中央部やや東寄りの長軸70cm、短軸40cmの不定形の範囲に炭化物(薬カ)が薄く分布していた。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P4は径15~25cmの円形で、深さ38~60cmである。P1・P2は東西壁際の中央部に、P3は南壁際の中央部に、P4は南西コーナー部にそれぞれ位置しており、いずれもほぼ垂直に掘り込まれている。

出入り口 東壁中央部から北に寄った位置に、確認面から床面に至る緩斜面を持っている。上面が踏み固められたように硬いことから、出入り口と考えられる。規模は幅65cm、長さ60cm、傾斜約20°である。

出入り口土層解説

- 1 黒褐色 コーム粒子・炭化物・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量、餅まり強

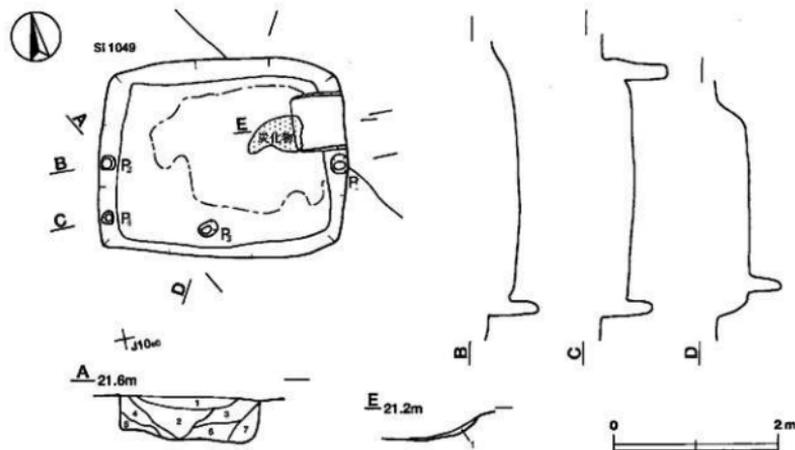
覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、黄土粒子・炭化粒子微量
- 3 斑状褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・黄土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 黄土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 斑状褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、黄土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量、黄土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片48点、須恵器片16点が出土しているが、混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は、判断する出土遺物がないため、不明である。



第361図 第9号方形竪穴状遺構実測図

第10号方形竪穴状遺構 (第362図)

位置 調査4区の中央部、J11d1区。

規模と平面形 長軸2.60m、短軸2.36mの長方形である。

長軸方向 N-1°-E

壁 壁高は40~48cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦である。

ピット 6か所 (P1~P6)。P1・P2は東壁際に位置し、それぞれ径43cm・58cmの円形で、深さ64cm・53cmである。P3はP2の隣りに、P4・P6は南東・南西コーナー部に、P5は南壁際にそれぞれ位置し、径20~30cmで、深さ43~66cmである。いずれも垂直に掘り込まれている。

出入口 東壁中央部から北に寄った位置に、確認面から床面に至る緩斜面を持っている。上面が踏み固められたように硬いことから、出入口と考えられる。規模は幅42~58cm、長さ112cm、傾斜約16°である。

出入口土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・黄土粒子少量、腐り強
- 2 斑状褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、黄土粒子・炭化粒子微量、腐り強

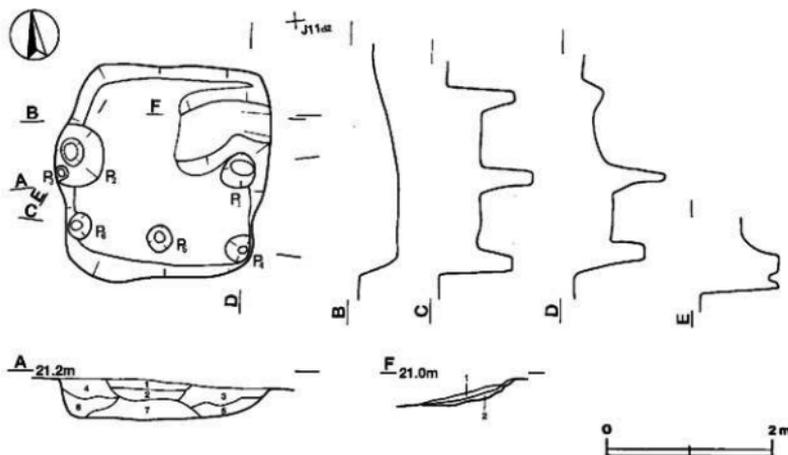
覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

遺物 土器器片50点、須恵器片10点が出土しているが、混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は、判断する出土遺物がないため、不明である。



第362図 第10号方形竪穴状遺構実測図

第11号方形竪穴状遺構 (第363図)

位置 調査4区の中央部、J11d2区。

重複関係 第1037号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.10m、短軸2.54mの長方形である。

長軸方向 N-16°-E

壁 壁高は28cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦であり、中央部から南側が特に踏み固められている。中央部の長軸75cm、短軸50cmの不定形の範囲に炭化物(藁カ)が、P1の北側の長軸70cm、短軸35cmの不定形の範囲に焼土がそれぞれ薄く分布していた。ピット 2か所(P1・P2)。P1・P2はそれぞれ東西壁際の中央部に位置しており、径38cm・31cmの円形で、深さ73cm・84cmである。いずれも垂直に掘り込まれている。

覆土 6層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

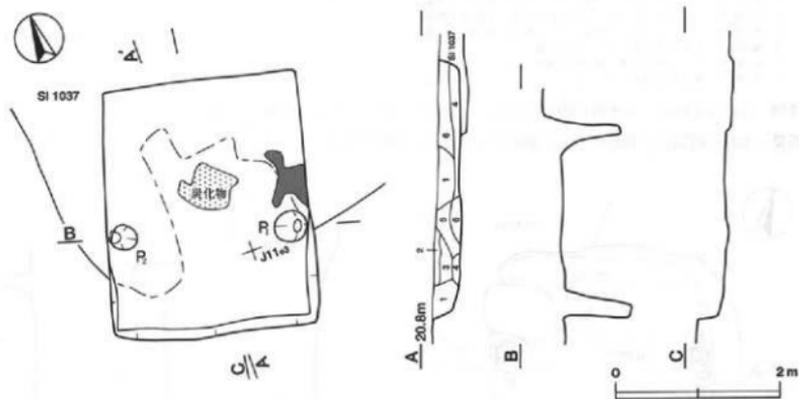
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量

- 3 黒暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量

遺物 土師器片31点, 須恵器片7点が出土しているが, 混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 判断する出土遺物がないため, 不明である。



第363図 第11号方形竪穴状遺構実測図

第12号方形竪穴状遺構 (第364図)

位置 調査4区の中央部, J10f0区。

重複関係 東部で第1059号住居跡を, 南東部で第1060号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸2.69m, 短軸2.58mの方形である。

長軸方向 N-73° -W

壁 壁高は28~68cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり, 中央部から出入り口にかけて踏み固められている。出入り口付近の長軸98cm, 短軸45cmの不定形の範囲に炭化物(葉カ)が薄く分布していた。

ピット 5か所(P1~P5)。P1・P2は東西壁際の中央部に位置しており, それぞれ径45cm・30cmの円形で, 深さ42cm・61cmである。P3はP2の隣に, P4・P5は南東・南西コーナー部にそれぞれ位置し, 径25~35cmの円形で, 深さ35~38cmである。いずれもほぼ垂直に掘り込まれている。

出入り口 東壁中央部から北に寄った位置に, 確認面から床面に至る緩斜面を持っている。上面が踏み固められたように硬いことから, 出入り口と考えられる。規模は幅49~61cm, 長さ91cm, 傾斜約18°である。

出入り口土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 餅まり強
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子・炭化粒子少量, 餅まり強
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

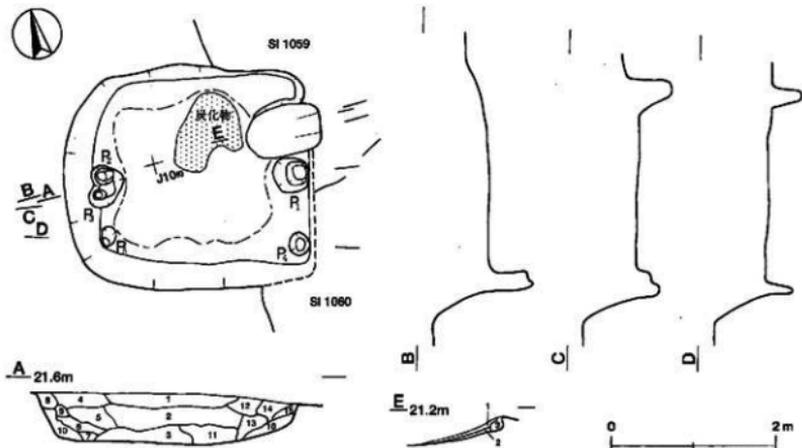
覆土 16層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 5 強暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 極暗褐色 ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック中量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 13 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量
- 14 強暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 15 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 16 黒褐色 粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片66点、須恵器片29点が出土しているが、混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は、判断する出土遺物がないため、不明である。



第364図 第12号方形竪穴状遺構実測図

第13号方形竪穴状遺構 (第365図)

位置 調査4区の中央部、J11e1区。

重複関係 南西部で第1061号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸2.72m、短軸2.66mの方形である。

長軸方向 N-86°-W

壁 壁高は17~26cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。出入口付近の長軸75cm、短軸35cmの不定形の範囲に炭化物(藁)が薄く分布していた。

ピット 3か所(P1~P3)。P1・P2はそれぞれ東西壁際の中央部に位置しており、P1は長軸58cm、短軸40cmの楕円形で、深さ62cmである。P2は径27cmの円形で、深さ48cmである。P3はP2に隣接しており、

長径30cm, 短径18cmの楕円形で、深さ29cmである。いずれもほぼ垂直に掘り込まれている。

出入口 東壁中央部から北に寄った位置に、礎礎面から床面に至る緩斜面を持っている。上面が踏み固められたように硬いことから、出入口と考えられる。規模は幅30~58cm, 長さ103cm, 傾斜約15°である。

出入口土層解説

- 1 暗褐色 コーム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量, 締まり強
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 締まり強
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 褐色 コーム粒子多量

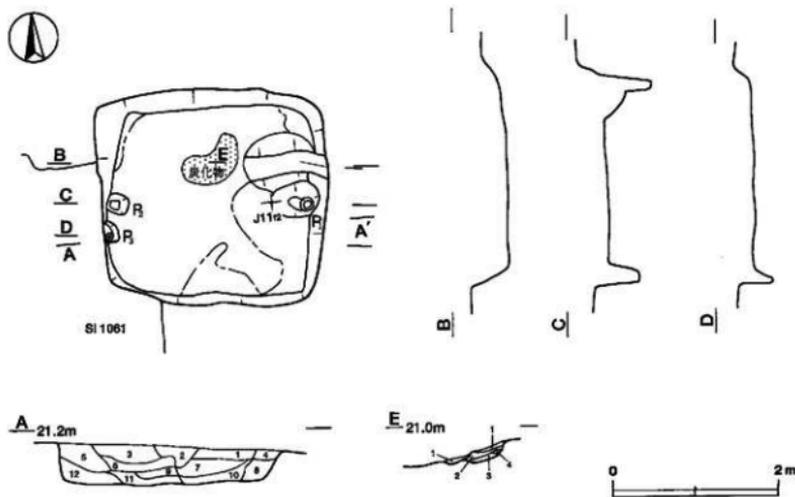
覆土 12層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化材少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化材少量
- 5 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 12 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土器器片59点, 須恵器片14点が出土しているが, 混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は, 判断する出土遺物がないため, 不明である。



第365図 第13号方形竪穴状遺構実測図

第14号方形竪穴状遺構 (第366図)

位置 調査4区の中央部, J11f3区。

規模と平面形 長軸3.00m, 短軸2.74mの方形である。

長軸方向 N-85° -W

壁 壁高は30~38cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、中央部から出入り口にかけて踏み固められている。

ピット 4か所(P1~P4)。P1・P2はそれぞれ東西壁際の中央部に位置しており、径26cm・43cmで、深さ22cm・45cmである。P3はP2の隣に、P4は南西コーナー部に位置し、それぞれ径35cm・20cmで、深さ40cm・38cmである。いずれもほぼ垂直に掘り込まれている。

出入り口 東壁中央部から北に寄った位置に、確認面から床面に至る緩斜面を持っている。上面が踏み固められたように硬いことから、出入り口と考えられる。規模は幅115cm、長さ93cm、傾斜約15°である。

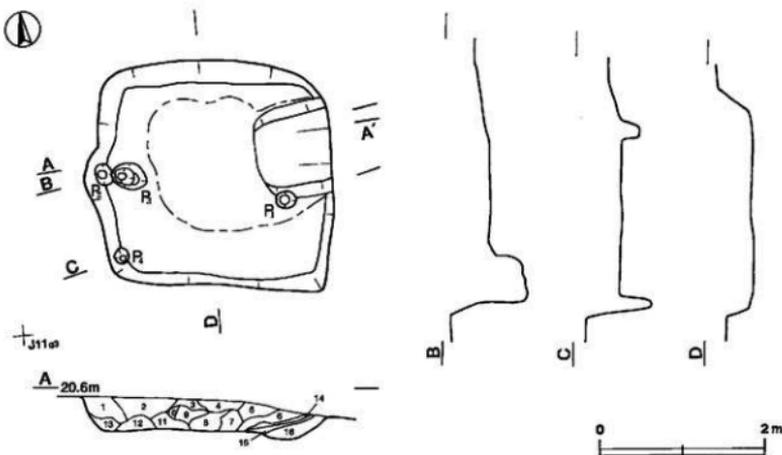
覆土 16層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。土層断面図中、第14~16層は出入り口の土層である。

土層解説

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 6 灰褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭土粒子微量 |
| 9 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 10 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭土粒子・炭化粒子微量 |
| 11 褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 12 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 13 褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量 |
| 14 灰褐色 | ローム粒子少量、締まり強 |
| 15 褐色 | ローム粒子中量、締まり強 |
| 16 褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |

遺物 土師器片22点、須恵器片4点が出土しているが、混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は、判断する出土遺物がないたため、不明である。



第366図 第14号方形竪穴状遺構実測図

第15号方形竪穴状遺構 (第367図)

位置 調査4区の中央部, I10j0区。

規模と平面形 長軸2.50m, 短軸2.46mの方形である。

長軸方向 N-7°-E

壁 壁高は10cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり, 中央部に特に踏み固められている。

ビット 1か所。P1は中央部に位置し, 径24cmの円形で, 深さ41cmであり, ほぼ垂直に掘り込まれている。

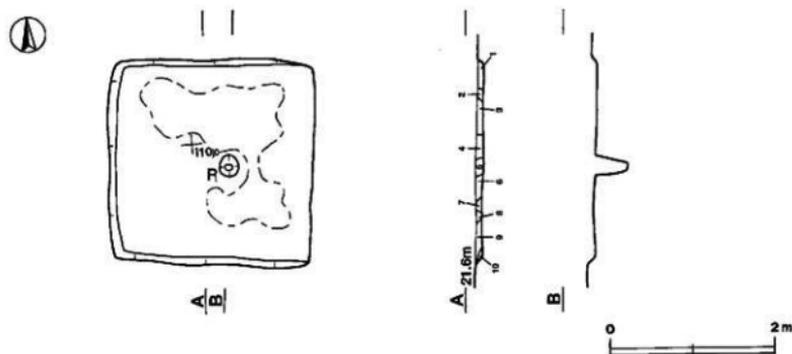
覆土 10層からなる。ブロック状の堆積状況から, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 赤褐色色 コーム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色色 ローム粒多量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色色 ローム小ブロック・ローム粒中量, 粘土粒子少量
- 6 暗褐色色 ローム粒子中量, 砂粒少量, 流土粒子・炭化粒子微量
- 7 灰褐色色 粘土小ブロック多量
- 8 褐色色 ローム粒多量, 炭化粒子少量
- 9 褐色色 ローム小ブロック中量
- 10 褐色色 ローム粒子多量

遺物 土師器片1点が出土している。

所見 本跡の時期は, 判断する出土遺物がないため, 不明である。



第367図 第15号方形竪穴状遺構実測図

第16号方形竪穴状遺構 (第368図)

位置 調査4区の北東部, H11d0区。

重複関係 北部を第721号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.06m, 短軸3.03mの方形である。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は20~39cmで, ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で, 踏み固められた部分は認められない。

ビット 2か所 (P1・P2)。P1は径34cmの円形, 深さ11cmで, 南西コーナー部に位置している。性格は,

不明である。P 2は径18cmの円形、深さ20cmで、南壁中央部の壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットの可能性がある。

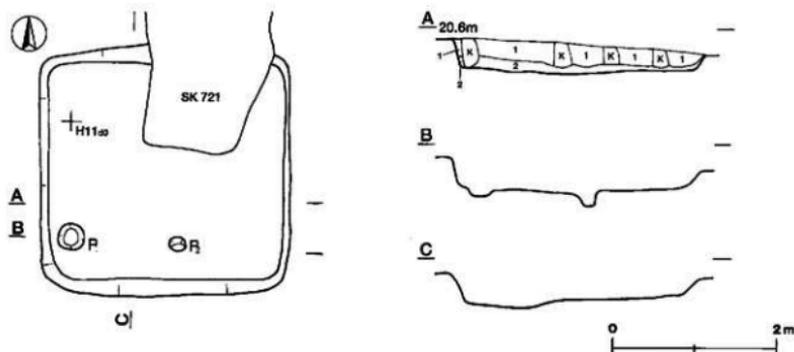
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黄褐色 ロームキブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

遺物 土師器細片27点、須恵器細片19点が出土している。時期を判断できる遺物は出土していない。

所見 本跡からは、竈や硬化面が検出されていないため、住居跡とは考えにくい。時期は、判断できる土器が出土していないため、不明である。



第368図 第16号方形竪穴状遺構実測図

第17号方形竪穴状遺構 (第369図)

位置 調査4区の北東部、H11g0区。

重複関係 南西部を第817号十坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.20m、短軸2.02mの方形である。

長軸方向 N-86°-E

壁 壁高は50~55cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、踏み固められた部分は認められない。

ピット 2か所 (P 1・P 2)。P 1は径34cmの円形、深さ46cmで、P 2は長径28cm、短径20cmの楕円形、深さ44cmで、それぞれ北壁中央部の壁際、南壁中央部の壁際に位置している。規模と位置から、柱穴の可能性はある。

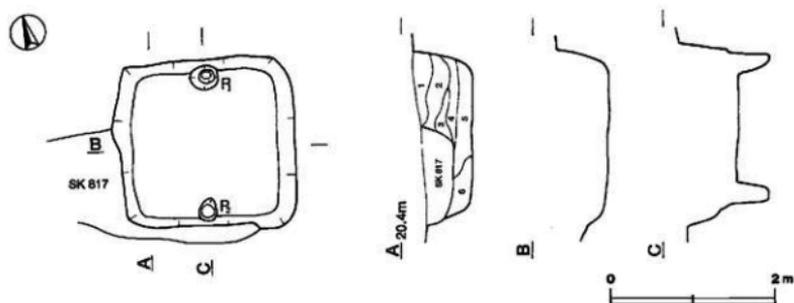
覆土 6層からなる。各層ともロームブロックを含み、東側から埋め戻されたように傾斜した堆積状況を呈していることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量、ロームキブロック・ローム小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ロームキブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・焼土粒子少量
- 6 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物 出土していない。

所見 時期は、判断できる土器が出土していないため、不明である。



第369図 第17号方形堅穴状遺構実測図

第18号方形堅穴状遺構（第370図）

位置 調査4区の北東部、H11g9区。

規模と平面形 長軸2.22m、短軸2.00mの長方形である。

長軸方向 N-6°-W

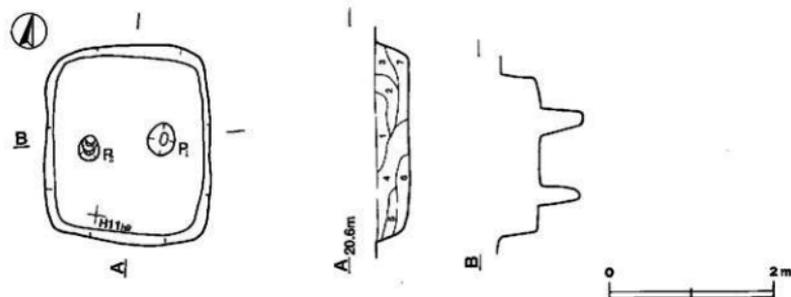
壁 壁高は35~50cmで、ほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で、踏み固められた部分は認められない。

ピット 2か所（P1・P2）。P1は径33cmの円形、深さ54cmで、P2は径26cmの円形、深さ50cmである。

それぞれ中央部東寄り、中央部西寄りに位置していることから、柱穴の可能性はある。

覆土 7層からなる。各層ともロームブロックを含み、ブロック状に堆積していることから、人為堆積と考えられる。



第370図 第18号方形堅穴状遺構実測図

土層解説

- 1 黒褐色 コーム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 強褐色 コーム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 コーム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 コーム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 コーム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子少量
- 6 暗褐色 コーム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 コーム中ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物 出土していない。

所見 時期は、判断できる土器が出土していないため、不明である。

第19号方形竪穴状遺構 (第371図)

位置 調査4区の北東部, H11h5区。

規模と平面形 長軸2.05m, 短軸1.63mの長方形である。

長軸方向 N-8°-W

壁 壁高は12~48cmで, 外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦で, 踏み固められた部分は認められない。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径50cm, 短径38cmの楕円形, 深さ16cmで, P2は長径35cm, 短径26cmの楕円形, 深さ6cmである。それぞれ東壁際の中央, 西壁際の中央やや南寄りに位置していることから, 柱穴の可能性はある。

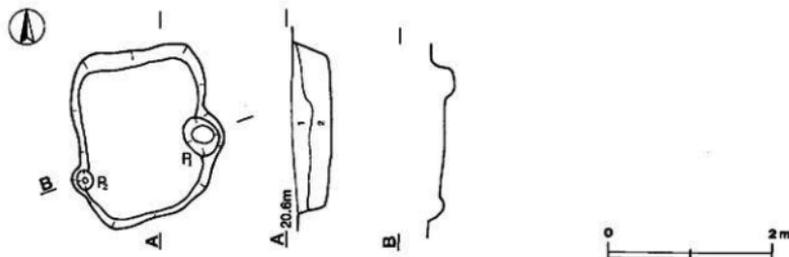
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 コーム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 コーム小ブロック少量, ローム粒子微量

遺物 出土していない。

所見 時期は、判断できる土器が出土していないため、不明である。



第371図 第19号方形竪穴状遺構実測図

表7 4区方形竪穴状遺構一覧表

番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備 考 遺 蹟 関 係 新 旧 関 係 (古→新)
				長径(南)×短径(北) (m)	深さ (cm)					
9	J10d0	N-76°W	長方形	3.00×2.40	26~30	直立	平坦	人為	炭化物, 土器碎片, 須恵器片	S I 1049→本跡
10	J11d1	N-1°E	長方形	2.60×2.36	40~48	直立	平坦	人為	土器碎片, 須恵器片	

番号	位置	長短方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 重複関係 新旧関係(古→新)
				長さ(軸)×短径(軸) (m)	深さ (cm)					
11	J11d2	N-16°-E	長方形	3.10×2.54	28	直立	平坦	人為	炭化物, 土師器片, 須恵器片	S I 1037 → 本跡
12	J10f0	N-73°-W	方形	2.69×2.58	28~68	外傾	平坦	人為	炭化物, 土師器片, 須恵器片	S I 1059・1060 → 本跡
13	J11e1	N-85°-W	方形	2.72×2.66	17~26	外傾	平坦	人為	炭化物, 土師器片, 須恵器片	S I 1061 → 本跡
14	J11f3	N-85°-W	方形	3.00×2.74	30~38	外傾	平坦	人為	炭化物, 土師器片, 須恵器片	
15	I10j0	N-ア-ド	方形	2.50×2.46	10	外傾	平坦	人為	炭化物, 土師器片	
16	I11d0	N-1°-W	方形	3.06×3.03	20~39	直立	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	本跡 → S K 721
17	H11g0	N-86°-E	方形	2.20×2.02	50~55	直立	平坦	人為		本跡 → S K 817
18	I11g9	N-6°-W	方形	2.22×2.00	35~50	直立	平坦	人為		
19	H11h5	N-8°-W	長方形	2.05×1.63	12~48	外傾	平坦	自然		

(9) ビット群

第4号ビット群 (付図1)

位置 調査4区の中央部, I10h0~I11j2区。

規模 東西9m, 南北8mの範囲に不規則に存在するビットを24か所検出した。ビットのうち, 3か所以上のビットが直線上に並ぶものは4か所あるものの, ビットの掘り方の形状及びビット間の間隔など統一性・規則性は見出せない。ビットの形状は, P1・P4・P6・P13・P15は, 長さ39~46cm, 短径28~42cmの楕円形で, 深さ40~73cmである。P12は長軸76cm, 短軸40cmの不定形で, 深さ54cmと55cmの2か所の小ビットを有している。P19は径73cmのほぼ円形で, 深さ46cmである。その他のビットは径22~42cmのほぼ円形で, 深さ16~68cmで, 不規則である。

覆土 いずれも, ローム小ブロック・ローム粒子混じりの暗褐色土または褐色土である。

遺物 P19の覆土中から土師器片2点, 須恵器片2点が出土している。いずれも細片で, 混入したものと考えられる。

所見 ビットの掘り方と配列が不規則であることから, 掘立柱建物跡とは考えにくい。墓塚の可能性が考えられる土坑群に隣接して集中的に確認されていることから, 墓塚に関わる遺構の可能性が考えられる。

第5号ビット群 (付図1)

位置 調査4区の中央部, I10g9~J11c3区。第12号溝の底面及び西側と南側に位置している。

規模 東西20mで幅12m, 南北26mで幅8mの範囲で, 第12号溝の底面に38か所, 同溝の西側と南側に22か所検出されている。第12号溝の底面に確認されたビットは, 溝調査後に検出されたものである。第12号溝の底面及び西側と南側に検出されたビットは, 形状・方向・ビット間の間隔等, 規則性を見出せない。P3・P5・P20・P21・P23・P26・P38・P39・P47は長さ30~74cm, 短径20~49cmの楕円形で, 深さ49~76cmである。P13・P14は, それぞれ長軸29cmと30cm, 短軸24cmと28cmの隅丸長方形で, 深さ75cmと57cmである。P2・P40・P43は長軸49~122cm, 短軸48~69cmの不定形で, 深さ65~81cmである。その他のビットは径20~56cmのほぼ円形で, 深さ26~88cmである。なかでも, P38とP42はビット内に2か所の小ビットを, P28とP43はビット内に3か所の小ビットを, それぞれ有している。

覆土 いずれも, ローム小ブロック・ローム粒子を中量から少量含む暗褐色土または黒褐色土である。

遺物 出土していない。

所見 第12号溝の底面及び周辺から検出されたビットは、形状及び配置が不規則なことから、掘立柱建物跡や柵列跡とは考えにくい。溝の周辺に集中していることから、一部は溝に関わる遺構の可能性が考えられる。時期は、不明である。

第6号ビット群 (第372図, 付図1)

位置 調査4区の中央部, J10e8~J10g9区。

規模 東西7m, 南北8mの範囲でビットが22か所確認されている。P12~P15の4か所のビットは、N-63°-Eの方向にはほぼ直線上に位置するものの、その他のビットは、形状・配列ともに規則性を見出せない。ビットの形状は、P1~P7・P11~P22は、径19~42cmのはば円形で、深さ14~52cmである。P8~P10は、長径38~55cm, 短径19~34cmの不定形で、深さ21~41cmである。

覆土 いずれも、ローム小ブロック・ローム粒子を中量から少量含む暗褐色土または黒褐色土である。



第372図 第6号ビット群出土遺物実測図

遺物 土師器片17点, 須恵器片1点が出土している。第372図1の土師器製の口縁部片は、P16の覆土中から出土している。出土している土器片は、図示した壺片を含めていずれも細片である。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器の傾向と重複関係から8世紀以降と考えられる。

第6号ビット群出土遺物観察表

図表番号	器種	許容値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・施成	備考
第372図 1	土師器	B (2.5)	口縁部の破片, 口縁部は屈曲し, 肩部は上方へつまみ上げられている。	口縁部内・外型横ナデ。	砂粒・長石・石英 褐色, 普通	P41441 3% 外面磨滅

④ 土坑

ここでは、性格や形状に特徴のあるものを次のように分類した。

①陥し穴 ②火葬施設 ③墓塚 ④墓塚の可能性のある土坑

以下、この分類に従って記載する。記載できなかった土坑については一覧表で紹介する。また、出土遺物については実測図と観察表でその一部を掲載する。

① 陥し穴

第812号土坑 (第373図)

位置 調査4区の北東部, H12i1区。

規模と平面形 長径2.37m, 短径1.57mの楕円形, 深さ1.40mである。

長径方向 N-40°-E

壁面 急な傾斜で立ち上がる。

底面 長径1.21m, 短径0.56mの楕円形で、ほぼ平坦である。

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

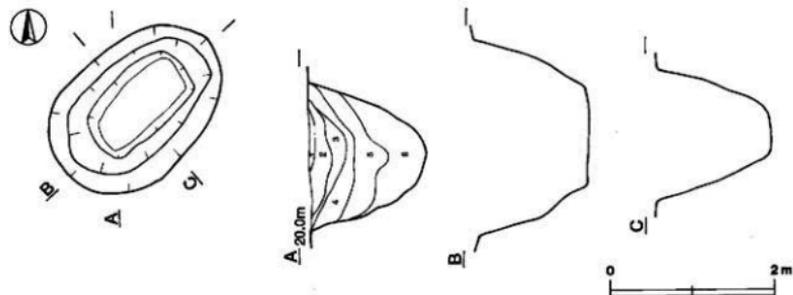
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黄土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・黄土粒・炭化粒少量

- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、形態から、縄文時代の陥し穴の可能性がある。詳細な時期は、判断できる遺物が出土していないことから、不明である。



第373図 第812号土坑実測図

② 火葬施設

第917号土坑 (第374図)

位置 調査4区の中央部, J10a0区。

規模と形状 楕円形を2つないだような不整形で、全長は1.62mである。西側の燃焼部は、長軸が主軸と直交する、長軸78cm、短軸50cmの楕円形で、深さ15cmである。壁面は外傾して立ち上がる。東側の開口部は、長軸が主軸と平行する、長軸112cm、短軸82cmの楕円形で、深さ10cmである。壁面は外傾して立ち上がる。通気溝は燃焼部と直交し、長さ65cm、上幅18~38cm、下幅11~15cmで、深さ26cmである。壁面は燃焼部側は外傾して立ち上がり、開口部側は緩やかに外傾して立ち上がる。

主軸方向 N-61°-W

底面 開口部から燃焼部へ緩やかに下がっている。燃焼部及び通気溝の底面は、一部火熱を受け変質している。

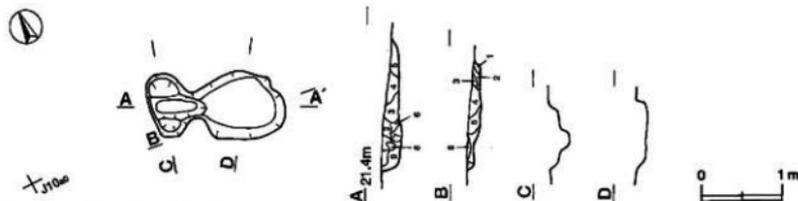
覆土 9層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。土層断面図中、第2・8・9層から火葬骨片が出土している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・火葬骨片少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化材・炭化物少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化物・炭化粒子・火葬骨粉少量
- 9 黒褐色 炭化粒子多量、焼土粒子・炭化物中量、ローム粒子・火葬骨粉少量

遺物 燃焼部から火葬骨片が出土している。開口部から土師器変細片1点が出土しているが混入したものと考えられる。

所見 本跡は、燃焼部及び通気溝の底面が一部火熱を受けて赤変しており、火葬骨片・炭化材等が出土していることから、火葬施設と考えられる。木跡の時期は、形状から中世と考えられる。



第374図 第917号土坑実測図

第918号土坑 (第375図)

位置 調査4区の中央部, J10a0区。

規模と形状 T字状を呈し、全長93cmである。開口部は確認されなかった。燃焼部は、長軸が主軸と直交する、長軸75cm、短軸55cmの楕円形で、深さ25cmである。壁面はほぼ直立する。通気溝は燃焼部と直交し、長さ93cm、上幅25~33cm、下幅13~19cmで、深さ39cmである。壁面は、燃焼部側はほぼ直立し、南側は外傾して立ち上がる。

主軸方向 N-21°-E

底面 燃焼部に向かってやや傾斜する。燃焼部及び通気溝の底面は、一部火熱を受け赤変している。

覆土 6層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。七層断面図中、第3・5・6層から火葬骨片が出土している。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 にぶい赤褐色 黄土粒子多量、ローム粒子・炭化物少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子・黄土粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子・火葬骨片少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 5 暗 褐色 黄土粒子中量、炭化物・灰・火葬骨片少量
- 6 暗 赤褐色 炭化物多量、黄土粒子中量、ローム粒子・火葬骨片少量

遺物 燃焼部から火葬骨片が出土している。また覆土下層から多量の炭化物が出土している。

所見 本跡は、燃焼部及び通気溝の底面が一部火熱を受けて赤変しており、火葬骨片・炭化物が出土していることから、火葬施設と考えられる。本跡の時期は、形状から中世と考えられる。



第375図 第918号土坑実測図

第919号土坑 (第376図)

位置 調査4区の中央部, J10a0区。

規模と形状 T字状を呈し、全長95cmである。開口部は確認されなかった。燃焼部は、長軸が主軸と直交する、

長軸80cm、短軸50cmの楕円形で、深さ22cmである。壁面はほぼ直立する。通気溝は燃焼部と直交し、長さ95cm、上幅23~35cm、下幅14~20cmで、深さ35cmである。壁面は、燃焼部側はほぼ直立し、南側は外傾して立ち上がる。

主軸方向 N-30° - E

底面 燃焼部に向かってやや傾斜する。燃焼部及び通気溝の底面は、一部火熱を受け赤変している。

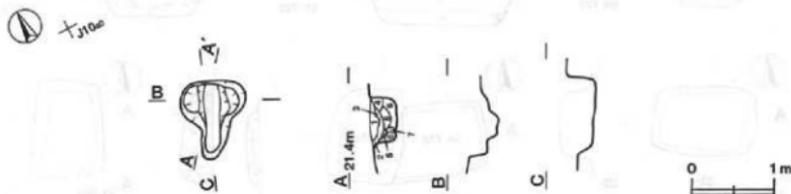
覆土 8層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。土層断面図中、第5・8層から火葬骨片が出土している。

土層解説

1	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子少量
2	暗赤褐色	ローム粒子中量
3	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
4	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
5	にぶい赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・火葬骨片少量
6	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物少量
7	灰褐色	灰多量、焼土粒子少量
8	灰褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子・火葬骨片少量

遺物 燃焼部から火葬骨片が出土している。また、覆土下層には炭化物が見られる。

所見 本跡は、燃焼部及び通気溝の底面が一部火熱を受けて赤変しており、火葬骨片・炭化物が出土していることから、火葬施設と考えられる。本跡の時期は、形状から中世と考えられる。



第376図 第919号土坑実測図

③ 墓塚

第736号土坑 (第377図)

位置 調査4区の北東部、H118区。

規模と平面形 長径1.05m、短径0.80mの隅丸長方形、深さ0.38~0.42mである。

長径方向 N-92° - W

壁面 ほぼ直立する。

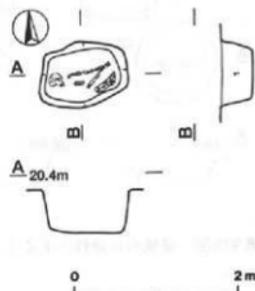
底面 ほぼ平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積の可能性が高い。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック少量
---	-----	--

遺物 骸を抱え込んだ人骨一体分が、頭を西にして南を向いた状態で底面から出土している。その他の遺物は出土していない。

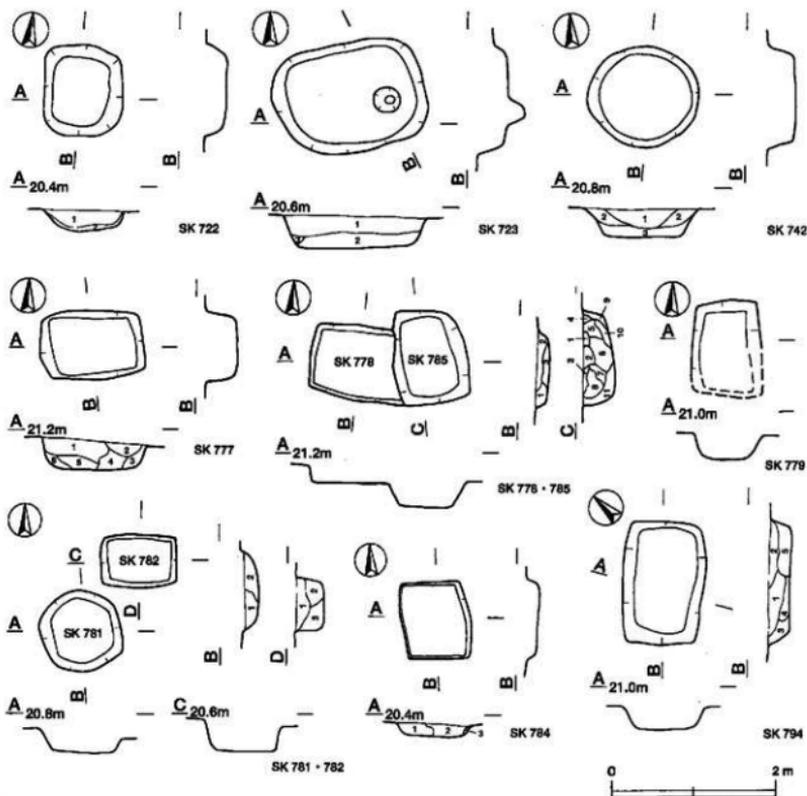


第377図 第736号土坑実測図

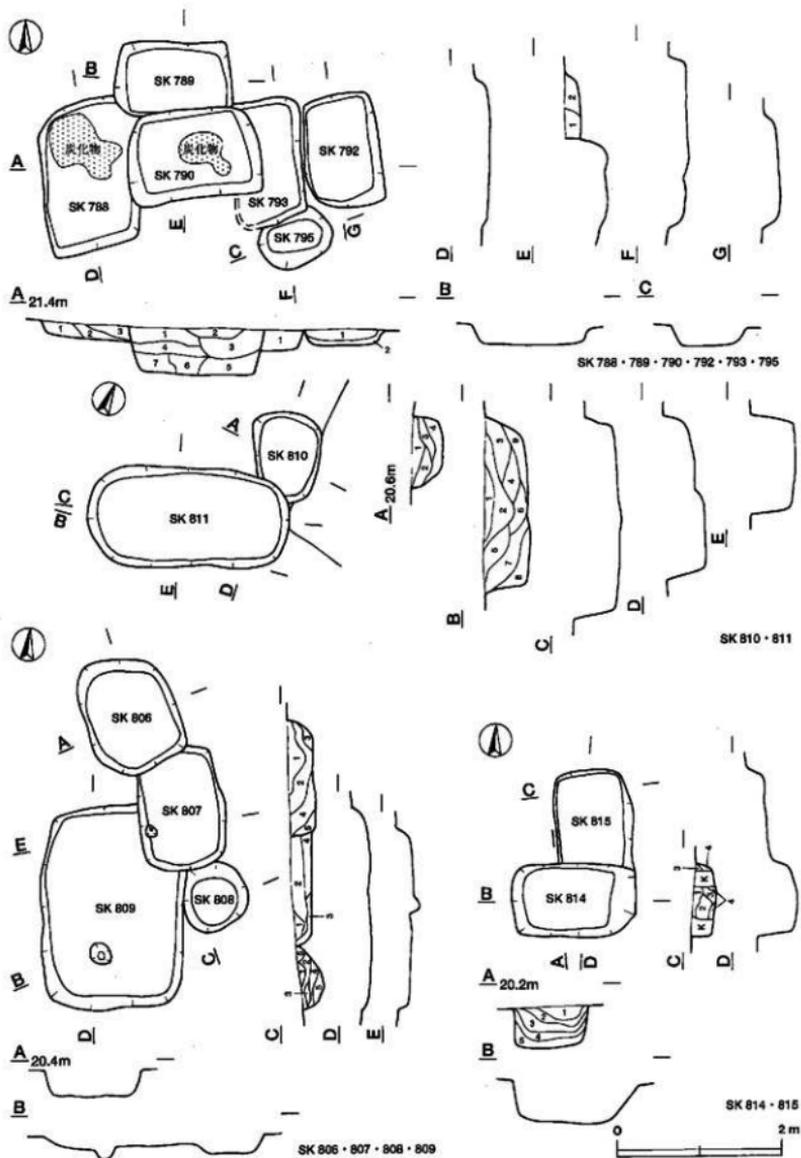
所見 人骨は、出土状況から、埋葬されたものと考えられる。時期は、判断できる遺物が出土していないことから、不明である。

④ 墓塚の可能性のある土坑

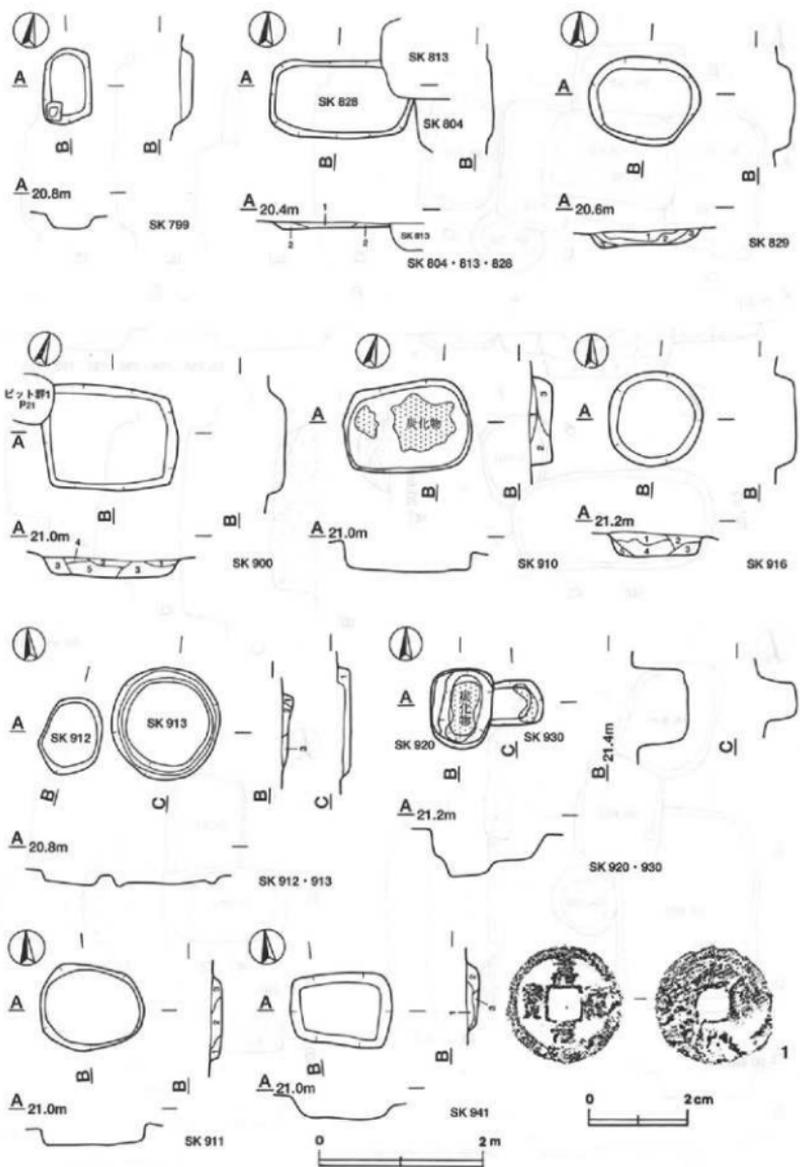
4区から検出された土坑は、遺物が少ないために、時期や性格の不明なものが多いが、調査区の中央部から北東にかけて位置する一群は、人為的に埋め戻された痕跡があり、形態的にも前述の墓塚に類似していることから、墓塚群の可能性が考えられる。以下、実測図と土層解説を記載する。



第378図 墓塚の可能性のある土坑実測図(1)



第379図 墓墳の可能性のある土坑実測図(2)



第380図 墓塚の可能性がある土坑・第794号土坑出土遺物実測図

第 794 号土坑出土遺物観察表

図原番号	坑名	計 画 値			特 徴	備 考
		径 (cm)	孔 (cm)	重さ (g)		
第380面1	赤口口竪	23	0.7×0.7	2.3	円体方孔。初終年不明。	M40507 P.L.240

第722号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

第723号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第742号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第777号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第778号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・炭化粒子少量

第781号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量

第782号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

第784号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第788号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第785号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 8 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量

第789号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第790号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第792号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒少量

第793号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量

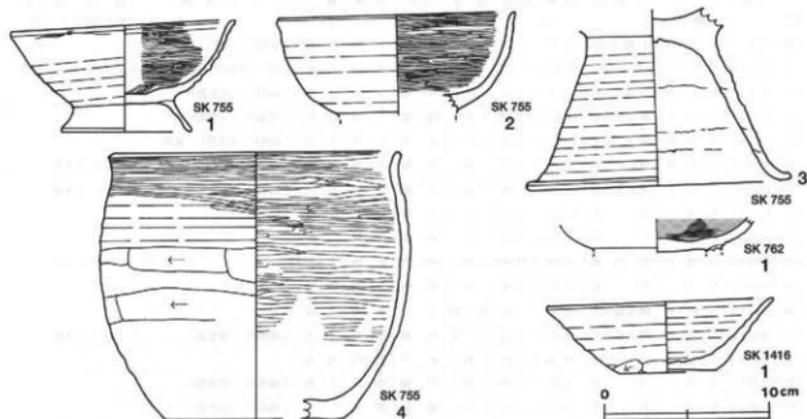
第794号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

第799号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

その他の性格が不明な土坑については一覧表で掲載し、出土した主な遺物のみを紹介する。



第381図 第755・762・1416号土坑出土遺物実測図

第755号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第381図 1	高台付 坏	A 13.7 B 6.8	高台部・体部から口縁部にかけて一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。肩部は丸く収めている。	口縁部・体部外面ロクロナデ。口縁部・体部内面横位のヘラ磨き。底部ヘラ切り痕を残すナデ。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒・雲母・長石にふい黄褐色 普通	P 41435 80% P L 240
	土 師 器	D [7.8] E 1.9				
	高台付 坏	A [14.6] B (6.1)	底部から口縁部にかけての破片。高台部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。肩部は丸く収めている。	口縁部・体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。口縁部・体部内面横位のヘラ磨き。	砂粒 明赤褐色 普通	P 41436 40% P L 240
	土 師 器	E (0.2)				
3	高台付 坏	B (10.8) D 16.0	高台部の破片。高台は足高でラッパ状に開き、裾部でわずかに外反する。	内・外面ロクロナデ。裾部設地面ナデ。	砂粒・雲母にふい殷色 普通	P 41437 40% P L 240
	土 師 器	E 9.3				
4	羹	A [17.2] B 16.3	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。肩部は角張る。	口縁部内・外面、体部内面横位のヘラ磨き。体部外面上位ロクロナデ。中位以下横位のヘラ削り。	砂粒・小礫 褐色 普通	P 41438 40% P L 240
	土 師 器	C [10.8]				

第762号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第381図 1	高台付 坏	B (2.1) E (0.4)	底部から体部下位にかけての破片。高台部欠損。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒・雲母にふい黄褐色 普通	P 41439 30%
	土 師 器					

第1416号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第381図 1	坏	A [13.7] B 4.3	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。肩部は丸く収めている。	口縁部、体部ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部1方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰褐色 普通	P 41440 40% P L 240
	須 恵 器	C 6.0				

表8 4区土坑一覽表

土坑 番号	位置 (長軸方向)	長短方向	平面形	規 模			立ち 上がり 面	底面	覆土	主 交 遺 物	考 査 復 旧 係 新 旧 開 閉 (古→新)
				長径(軸)→短径(軸) (m)	深さ (cm)	深さ (cm)					
120	H1115	N-22°-W	不整形	3.02 × 2.80	28	外傾	平坦	人為	土師器片, 鉄滓		
721	H11c0	N-12°-E	「長方形」	(3.60) × 1.23	110	直立	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 瓦葺土師片	S I 1105・1106→本跡	
722	H11i8	N-4°-W	隅丸方形	1.11 × 0.96	25	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片		
723	H11g5	N-79°-E	隅丸長方形	1.84 × 1.34	35	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片		
724	H11h5	N-40°-W	隅丸方形	1.20 × 1.16	73	直立	平坦	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄滓		
726	H10g6	N-44°-W	隅丸長方形	0.96 × 0.75	48	外傾	平坦	自然		S I 1136→本跡	
727	H11c3	N-85°-E	隅丸長方形	3.01 × 0.98	20	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	S I 1146→本跡	
732	H11f5	N-0°	円形	1.03 × 1.02	47	外傾	圓錐	自然	土師器片		
733	H11h3	N-0°	円形	0.78 × 0.65	24	外傾	圓錐	自然			
734	H11b3	N-34°-E	楕円形	1.10 × 0.90	49	直立	圓錐	人為			
735	H11e8	N-0°	円形	0.91 × 0.90	39	外傾	平坦	自然			
736	H11i8	N-92°-W	隅丸長方形	1.05 × 0.80	38~42	直立	平坦	人為	人骨		
737	H11e5	N-88°-E	隅丸長方形	1.72 × 0.92	10~60	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	S I 1115→本跡	
738	H11h4	N-0°	円形	0.60 × 0.60	40	直立	凹凸	人為			
742	H11e7	N-0°	円形	1.38 × 1.25	36	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片		
743	H10e9	N-0°	円形	0.56 × 0.56	18	傾斜	圓錐	-	土師器片, 須惠器片		
745	H10g0	N-55°-W	楕円形	[0.94] × 0.76	0~8	傾斜	平坦	-		S I 1142・1143・S B58→本跡	
747	H10h9	N-59°-W	楕円形	0.52 × 0.41	40~62	外傾	平坦	人為		S I 1144→本跡	
751	J9b7	N-11°-E	「楕円形」	[2.72] × 1.22	21	傾斜	平坦	人為		S D53→本跡→S B55	
752	I9j7	N-16°-E	長方形	1.85 × 0.74	41	直立	平坦	人為	土師器片, 須惠器片		
753	I9j7	N-71°-E	不整形円形	2.78 × 0.62	50	傾斜	平坦	-	土師器片	本跡→S B55	
754	I9j8	N-13°-E	長方形	2.31 × 1.06	53	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片		
755	K9a1	N-23°-E	隅丸長方形	0.70 × 0.51	13	傾斜	平坦	人為	土師器 (高台付杯, 鉢)	S I 975→本跡	
756	K9d6	N-19°-E	円形	0.80 × 0.73	43	直立	平坦	-		S I 984→本跡	
757	K9d6	N-27°-E	長方形	1.29 × 0.85	53	直立	平坦	人為		S I 984・990→本跡	
758	J9h6	N-9°-E	隅丸長方形	1.28 × 0.94	31	外傾	平坦	人為			
759	K9c6	N-31°-E	長方形	1.13 × 0.56	26	外傾	平坦	-		S K 984上重複	
760	K10c1	N-17°-E	不定形	1.92 × 1.36	91	直立	平坦	人為		S I 1000→本跡	
761	K10f1	N-29°-E	不整形円形	1.04 × 0.81	68	外傾	凸凹	人為			
762	K10f1	N-53°-E	不定形	1.58 × 0.89	77	外傾	平坦	人為	土師器片 (高台付杯)	本跡→S D56	
763	K10g1	N-52°-W	不整形円形	1.84 × 1.31	76	直立	平坦	人為			
764	K9e9	N-64°-W	隅丸長方形	1.03 × 0.76	35	直立	平坦	人為		S K 765上重複	
765	K9f0	N-19°-E	長方形	1.35 × 0.77	77	直立	平坦	人為		S K 766上重複	
766	K10g1	N-78°-W	不整形円形	1.44 × 0.85	63	直立	平坦	人為		S K 769上重複	
767	K10h1	N-56°-W	楕円形	0.90 × 0.61	23	直立	平坦	人為		S D57上重複	
768	K9h0	N-58°-W	不整形円形	1.33 × 1.10	45	外傾	平坦	人為			
769	K10h1	N-74°-W	不定形	1.31 × 0.99	43	外傾	平坦	人為		S K 766上重複	
770	K9g9	N-0°	「楕円形」	[1.15] × [0.90]	43	外傾	平坦	人為		本跡→S D35A	
771	K9i9	N-49°-W	楕円形	1.12 × 1.00	40	外傾	平坦	人為			
772	K9j0	N-13°-W	楕円形	1.04 × 0.95	40	外傾	傾斜	人為			
774	K9f7	N-0°	円形	1.38 × 1.32	40	外傾	平坦	人為			
775	I10i9	N-78°-E	楕円形	1.76 × 1.25	16	傾斜	平坦	人為	土師器片		
776	I10h0	N-83°-E	長方形	1.96 × 1.70	16	外傾	平坦	人為	土師器片, 須惠器片		
777	I10h0	N-85°-E	長方形	1.28 × 0.85	36	外傾	平坦	人為	土師器片, 土師品	本跡→S K 776	
778	I10i0	N-79°-W	「長方形」	(1.15) × 0.82	19	外傾	平坦	人為	不明鉄製品		

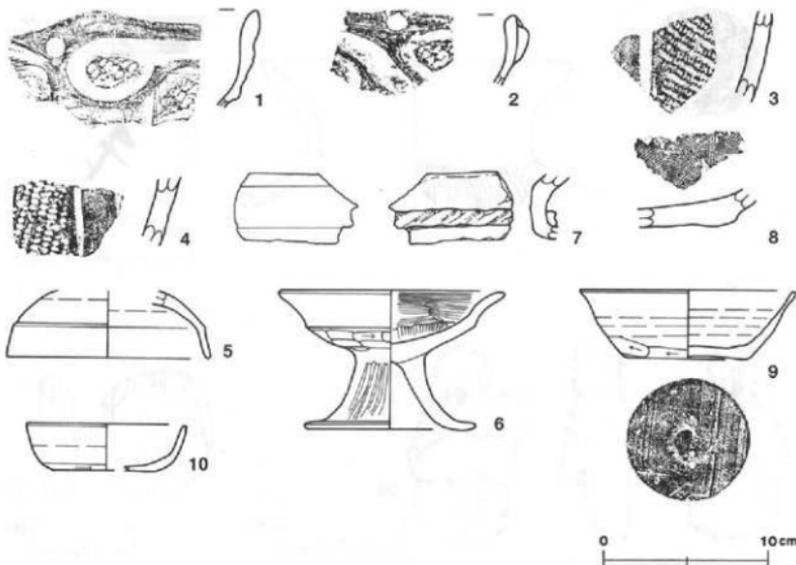
土坑 番号	位置 (長軸方向)	長短方向	平面形	規模		立ち 上がり 与面	断面	覆土	主な遺物	備 考 重 複 関 係 新 旧 関 係 (古→新)
				長径(南)×短径(北) (m)	幅 さ (cm)					
779	I10h0	N-4°-W	[長方形]	1.15×0.85	32	外傾	平垣	人為	土師器片, 須惠器片	
780	I11b2	N-87°-E	不定形	2.19×(0.92)	25	外傾	平垣	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄線	
781	I11i2	N-11°-W	円形	0.98×0.97	25	緩斜	平垣	人為		
782	I11i2	N-90°-?	長方形	0.92×0.64	35	外傾	平垣	人為		
783	I11b3	N-3°-W	不定形	1.37×1.14	53	外傾	平垣	人為		
784	I11b3	N-5°-W	長方形	0.93×0.80	17	外傾	平垣	人為		
785	I10i0	N-9°-W	長方形	1.14×0.92	31	外傾	平垣	人為		
786	K10a8	N-80°-E	隅丸長方形	1.58×1.12	85	直立	凹凸	人為		本跡→S I 1019
787	J11a2	N-1°-E	不整形	1.26×1.18	17	外傾	凹凸	人為	土師器片	
788	I10j0	N-4°-W	長方形	1.82×1.14	15	外傾	平垣	人為		本跡→S K 790
789	I10j0	N-88°-E	[長方形]	1.43×[0.94]	24	外傾	平垣	人為		本跡→S K 790
790	I10j0	N-83°-E	長方形	1.64×1.09	54	外傾	凹凸	人為	土師器片	S K 780・789・790・本跡
791	I10j0	N-12°-W	[長方形]	[1.55]×1.25	32	[外傾]	[平垣]	-		本跡→S K 790
792	I11j1	N-6°-W	長方形	1.39×0.94	21	緩斜	平垣	人為		
793	I11j1	N-5°-W	[長方形]	[1.55]×[0.88]	20	外傾	平垣	人為	須惠器片	本跡→S K 790
794	I11i1	N-44°-E	長方形	1.53×1.01	26	外傾	平垣	人為	土師器片, 須惠器片, 鐵	
795	I11j1	N-58°-E	[隅丸長方形]	0.87×[0.66]	24	緩斜	平垣	-		
796	I10i0	N-66°-W	円形	0.74×0.61	25	外傾	皿状	-	土師器片	
797	I10h0	N-1°-E	長方形	0.68×0.50	24	緩斜	皿状	-		
798	I11i1	N-24°-W	楕円形	0.76×0.55	17	外傾	皿状	-	土師器片	
799	I11i2	N-7°-W	楕円形	0.93×0.60	14	緩斜	平垣	人為		
804	H11h6	N-11°-W	[長方形]	[1.39]×1.06	45	外傾	平垣	人為	土師器片, 須惠器片	S I 1109→本跡→S K 813
806	H11i7	N-26°-W	隅丸長方形	1.50×1.10	33	外傾	平垣	自然	土師器片, 須惠器片, 鉄線, 礎	S K 809→小跡
807	H11i7	N-9°-W	不定形	1.46×0.96	19	外傾	平垣	人為	土師器片, 須惠器片	S K 809→本跡→S K 806
808	H11i7	N-17°-W	円形	0.87×0.75	18	外傾	平垣	人為	土師器片	本跡→S K 807
809	H11i7	N-1°-E	[長方形]	2.50×[1.73]	13	外傾	平垣	人為	土師器片, 須惠器片	本跡→S K 807・808
810	H11h6	N-22°-W	楕円形	1.11×0.82	36	外傾	平垣	人為	土師器片, 須惠器片	S I 1109→本跡→S K 811
811	H11h6	N-64°-E	楕円形	2.47×1.17	53	外傾	平垣	人為	土師器片, 須惠器片, 鉄線	S I 1109・S K 810→本跡
812	H12i1	N-40°-E	楕円形	2.37×1.57	140	外傾	平垣	自然		
813	H11h6	N-8°-W	円形	1.00×0.90	49	外傾	平垣	人為		S I 1109・S K 804→本跡
814	H11h0	N-88°-E	長方形	1.52×0.89	45	外傾	緩斜	人為	土師器片, 須惠器片	S I 1107・S K 815→小跡
815	H11h0	N-6°-W	[長方形]	[1.14]×[0.92]	22	外傾	平垣	人為	土師器片	S I 1107→本跡→S K 814
816	H11h9	N-42°-E	隅丸長方形	0.77×0.69	24	外傾	平垣	人為	土師器片, 須惠器片	S I 1107→本跡
817	H11g9	N-89°-W	[楕円形]	3.48×0.96	31~43	外傾	平垣	人為	土師器片, 須惠器片, 礎	番号17号汚泥穴状遺構→本跡
819	I10g3	N-40°-W	(円形)	0.77×(0.57)	19	外傾	平垣	-		
820	I10g2	N-49°-E	楕円形	1.98×0.77	30	外傾	平垣	人為	土師器片, 須惠器片	
821	J10b7	N-68°-E	楕円形	1.98×1.55	12	外傾	平垣	人為	土師器片, 磁石	
822	I10h9	N-1°-W	楕円形	1.12×0.55	20	外傾	平垣	人為		
823	I10h9	N-1°-W	[楕円形]	2.00×1.08	46	外傾	平垣	人為		
824	I10i8	N-73°-E	楕円形	0.52×0.35	34~44	外傾	凹凸	人為	土師器片	
825	I10i8	N-50°-E	[楕円形]	[0.87]×[0.55]	45	外傾	平垣	人為		
826	I10i8	N-67°-E	[楕円形]	[1.06]×0.68	13	外傾	平垣	人為	土師器片, 須惠器片	
827	I10i8	N-87°-W	楕円形	0.63×0.44	46~65	外傾	凹凸	-		
828	H11h6	N-85°-E	隅丸長方形	1.72×0.93	5	外傾	平垣	人為		本跡→S K 813
829	H10g6	N-90°-E	楕円形	1.36×0.84	18	外傾	皿状	人為	土師器片	
830	I10h5	N-79°-E	楕円形	0.70×0.42	32~42	外傾	凹凸	人為		

土壌 番号	位置 (基線方向)	長径方向 平面形	周 長		立ち 上がり 高	築 面	覆 土	主 な 遺 物	備 考 家 族 関 係 新 旧 関 係 (古 → 新)
			長径(北)×短径(南) (m)	深 さ (cm)					
831	I 10h5	N-89°-E	楕円形	0.63 × 0.50	90	外傾	凹凸	人為	
832	I 10h5	N-16°-W	[楕円形]	(1.50) × 0.60	0~16	外傾	平坦	人為	土師器片, 土製土片
833	I 10h4	N-18°-W	不整形円形	1.16 × 0.58	10	外傾	平坦	人為	土師器片
900	I 11j2	N-75°-E	長方形	1.62 × 1.28	22	緩斜	平坦	人為	土師器片
901	I 11h2	N-1°-E	円形	1.30 × 1.18	25	外傾	傾斜	人為	土師器片
902	I 11i2	N-16°-W	円形	0.51 × 0.49	17	外傾	平坦	-	
903	I 11h1	N-90°-E	楕円形	1.00 × [0.80]	24	外傾	傾斜	人為	2号ピット群 → 本跡
904	I 11j2	N-90°-E	長方形	0.68 × 0.58	15	外傾	傾斜	人為	土師器片
905	I 11d2	N-1°-E	円形	1.30 × 1.20	15	外傾	平坦	人為	土師器片, 鉄滓
906	I 11e3	N-90°-E	楕丸長方形	1.94 × 1.20	12	外傾	凹凸	人為	土師器片
907	I 11b1	N-2°-E	長方形	[1.67] × [0.86]	8	外傾	平坦	人為	本跡 → S K 908
908	I 11b1	N-6°-E	長方形	2.34 × [1.08]	8	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片
909	I 11b2	N-6°-E	円形	0.80 × 0.76	10	外傾	傾斜	人為	
910	I 11j2	N-69°-E	楕丸長方形	1.54 × 1.08	30	直立	平坦	人為	土師器片
911	I 11a2	N-79°-W	楕円形	1.28 × 1.10	20	外傾	平坦	人為	土師器片
912	I 11a2	N-17°-E	楕円形	0.96 × 0.72	12	外傾	傾斜	人為	土師器片
913	I 11a2	N-0°	円形	1.38 × 1.32	12	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄滓
914	I 11j2	N-1°-W	不整形円形	0.92 × 0.55	8	緩斜	傾斜	-	S I 1027 → 本跡
916	I 11a1	N-5°-E	円形	1.14 × 1.12	26	外傾	平坦	人為	土師器片
917	I 10a0	N-61°-W	不整形	1.62 × 0.82	26	外傾	傾斜	人為	土師器片, 骨片
918	I 10a0	N-21°-E	不定形	0.93 × 0.55	37	外傾	傾斜	人為	骨片, 炭化物
919	I 10a0	N-30°-E	不整形	0.95 × 0.50	35	外傾	傾斜	人為	骨片, 炭化物
920	I 10a9	N-1°-E	楕丸長方形	1.00 × 0.76	62	直立	皿状	人為	炭化物
921	I 10e9	N-78°-W	楕円形	1.34 × 1.02	10	緩斜	皿状	人為	土師器片, 須恵器片, 礫
922	I 10b0	N-75°-W	不定形	1.31 × 0.70	26	外傾	皿状	人為	土師器片
923	I 11b1	N-60°-W	不定形	1.26 × 0.60	40	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片
924	I 11a1	N-45°-E	楕円形	1.04 × 0.80	70	外傾	凹凸	人為	
925	I 10b0	N-90°-W	不定形	[1.02] × 0.76	48	直立	傾斜	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄滓, 礫
926	I 10b0	N-10°-E	楕円形	[1.74] × 1.34	46	緩斜	皿状	自然	土師器片, 須恵器片
927	H 11e7	N-30°-W	[楕円形]	[0.88] × 0.66	66	外傾	凹凸	自然	土師器片, 須恵器片
928	H 11e3	N-22°-E	[楕円形]	[0.98] × 0.82	70	緩斜	傾斜	人為	土師器片, 須恵器片
929	H 11f4	N-50°-W	楕円形	[1.80] × [1.26]	50	緩斜	皿状	人為	土師器片, 不明鉄製品片
930	H 10a9	N-90°-W	[楕円形]	[0.62] × 0.56	40	外傾	皿状	人為	本跡 → S K 920
931	H 11b5	N-88°-E	楕円形	[1.92] × [1.24]	30	外傾	平坦	人為	土師器片
932	I 11b1	N-50°-E	楕円形	1.38 × 1.00	68	外傾	皿状	人為	土師器片, 礫
933	I 11b2	N-10°-E	長方形	1.24 × [0.70]	60	外傾	皿状	人為	土師器片, 須恵器片
934	I 11d3	N-87°-W	楕円形	2.30 × 1.46	18~37	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片
935	I 10b3	N-22°-E	楕円形	1.40 × [1.06]	113	外傾	傾斜	自然	S D 66 → 本跡
936	I 14c9	N-0°	円形	0.96 × 0.96	26	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片
937	I 10c9	N-29°-E	不整形円形	1.42 × 0.36	39~74	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片
939	I 10c9	N-18°-E	楕円形	0.91 × 0.80	48	直立	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片
940	I 10a9	N-10°-W	楕丸長方形	0.80 × 0.52	33	外傾	平坦	人為	S D 64 → 本跡
941	I 10j9	N-78°-W	長方形	1.25 × 0.90	25	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片
942	I 10h9	N-1°-E	[長方形]	[1.96] × 1.15	44	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片
944	I 10b5	N-4°-E	楕丸長方形	1.80 × 0.71	50	直立	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 礫
945	I 11d1	N-84°-W	楕円形	1.27 × 1.04	9	外傾	平坦	人為	土師器片, 礫

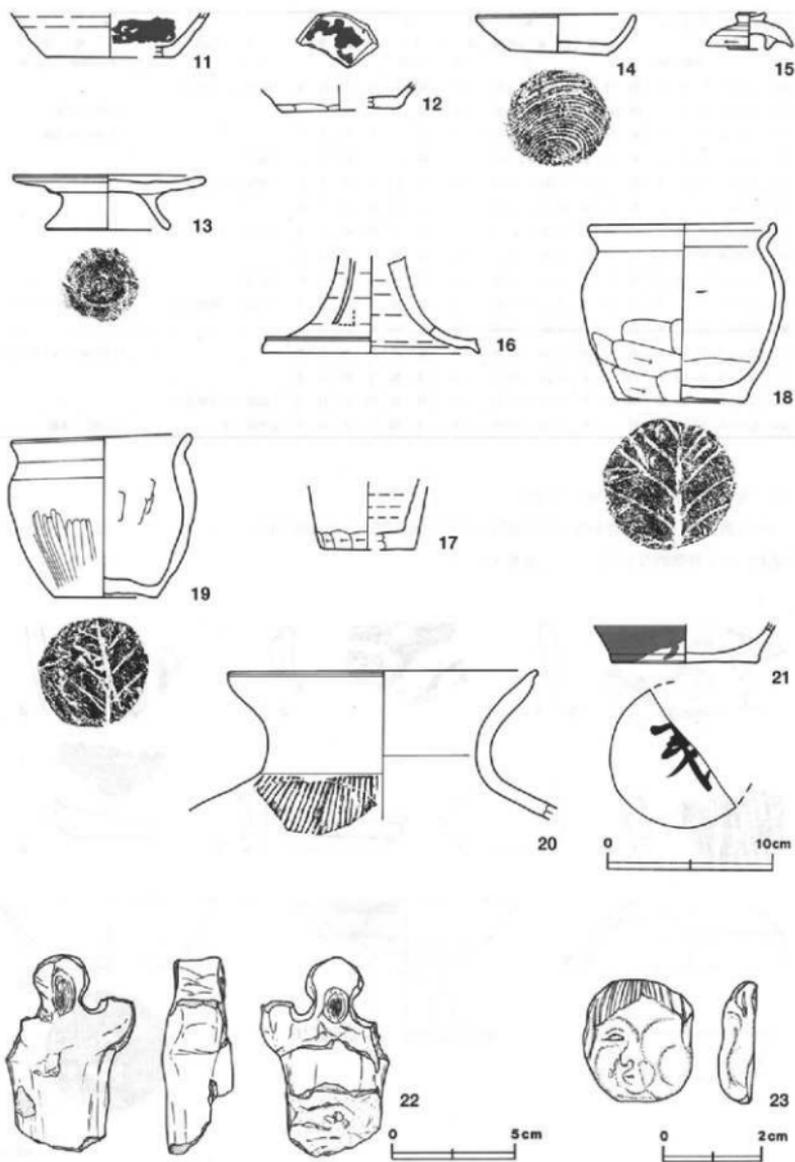
土坑 番号	位置 (長軸方向)	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		立ち 上がり 面	底面	覆土	主な遺物	編年考 重視関係 新旧関係(古→新)
				長径(南×短径(北)) (m)	深さ (cm)					
946	J11d1	N-88°-E	楕円形	1.10 × 0.94	12	緩斜	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片	
948	J10b5	N-83°-E	隅丸長方形	[1.15] × 1.00	18	緩斜	平坦	-		S D66→本跡
949	J10c6	N-62°-E	楕円形	0.98 × 0.82	82	直立	平坦	人為		S I 1045→本跡
952	H10f5	N-67°-E	楕円形	0.94 × 0.84	25	緩斜	平坦	人為	土師器片	
953	H10e5	N-28°-W	楕円形	0.93 × 0.83	38	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
961	H10e7	N-13°-E	楕円形	0.60 × 0.48	18	外傾	皿状	人為		
962	H10d8	N-6°-E	長方形	1.38 × 0.72	45	直立	傾斜	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片	
963	H10e8	N-81°-E	円形	0.93 × 0.87	22	緩斜	皿状	人為		
964	H10e8	N-73°-E	楕円形	0.86 × 0.50	33	外傾	傾斜	人為	土師器片	
965	J10e0	N-57°-W	楕円形	0.75 × 0.61	33	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S I 1039→本跡→S I 1061
966	H10h7	N-15°-W	円形	0.62 × 0.60	44	外傾	皿状	人為		
967	J10h0	N-61°-E	楕円形	[1.00] × [0.90]	30	緩斜	凹凸	人為		S I 1051-1052-1053→4跡
977	J10g8	N-15°-E	円形	0.73 × 0.70	34	外傾	平坦	人為		
1415	H10j8	N-60°-W	楕円形	1.55 × 0.78	15	外傾	凹凸	自然	土師器片, 須恵器片	
1416	K10b6	N-15°-W	円形	1.05 × 0.97	40	外傾	皿状	自然	須恵器(坏)	S I 042→本跡

① 遺構外出土遺物(第382~385図)

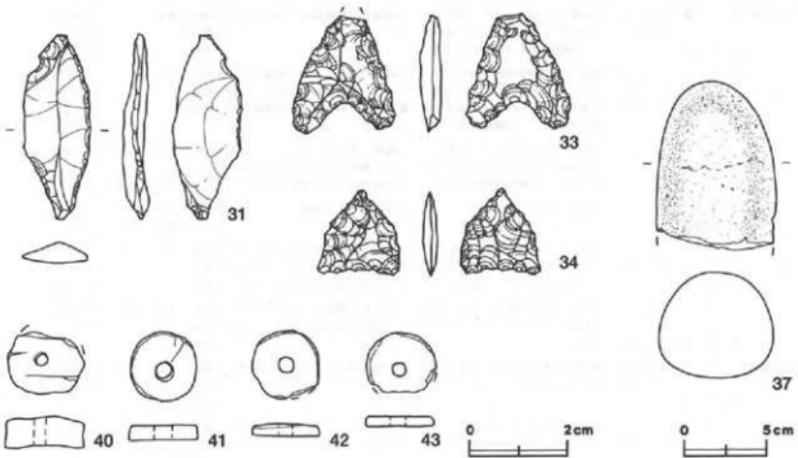
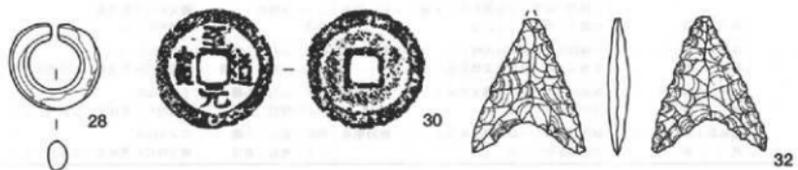
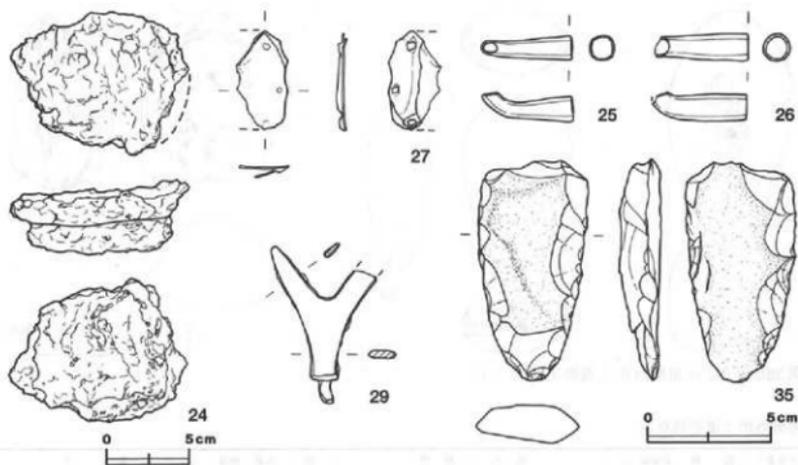
今回の調査で、遺構に伴わない旧石器時代から中世にかけての遺物が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。



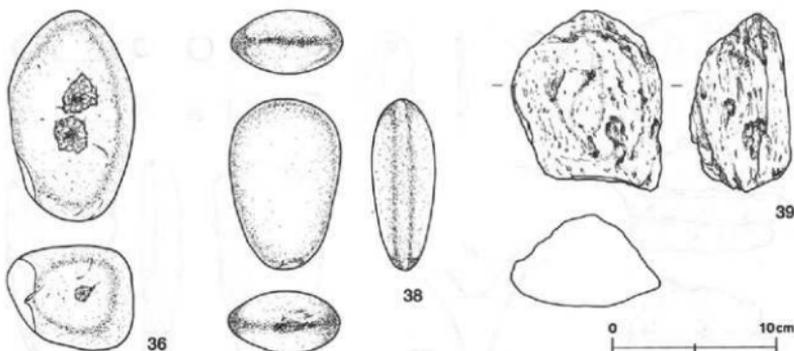
第382図 4区遺構外出土遺物実測図(1)



第383图 4区遺構外出土遺物実測図(2)



第384图 4区遺構外出土物実測図(3)



第385図 4区遺構外出土遺物実測図(4)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第382図 1	深鉢形土器	B (6.0)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部に隆帯による渦巻文を施し、R.Lの卑部縄文を地文としている。	砂粒・長石・小礫にふい赤褐色。普通	T P 40511 P L 241 縄文時代中期後葉 加曾利EⅡ式
	縄文土器				
2	深鉢形土器	B (4.5)	口縁部片。口縁部は内彎する。R.Lの卑部縄文を地文とし、隆帯で文様を描写している。	砂粒・長石・小礫にふい赤褐色。普通	T P 40510 P L 241 縄文時代中期後葉、加曾利EⅡ式
	縄文土器				
3	深鉢形土器	B (5.4)	胴部片。R.Lの卑部縄文を地文とし、磨消懸垂文が描かれている。	砂粒・長石・小礫にふい褐色。普通	T P 40508 縄文時代中期後葉、加曾利EⅡ式
	縄文土器				
4	深鉢形土器	B (4.3)	胴部片。R.Lの卑部縄文を地文とし、磨消懸垂文が描かれている。	砂粒・長石・小礫にふい褐色。普通	T P 40509 縄文時代中期後葉、加曾利EⅡ式
	縄文土器				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第382図 5	甕	A [12.2]	外周部から口縁部の破片。外周部は丸味を帯び、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外傾して圓く。	口縁部及び外周部内・外面口ロナデ。	砂粒・長石 黄灰色 普通	P 40633 10% P L 240
	須恵器					
6	高 甕	A 13.6	脚部から口縁部の破片。脚部はクワノ状に開き、頸部に至る。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。内面横位のヘラ磨き。体部外面ヘラ磨り。内面縦位のヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラ磨き。	砂粒・雲母 灰色 普通	P 40628 60% P L 240
	B 8.5					
	D 10.6					
7	甕	B (4.2)	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は強く屈曲し、直立して口縁部に至る。口縁部は外反する。	口縁部、頸部内・外面ナデ。頸部下位に鋸歯状工具による刺突文が施された紐状の隆帯貼り付け。	砂粒・石英・赤色粒子 普通	P 40261 5%
	土師器					
8	甕	B [1.7]	底部片。平底。	底部内面ハケ目調整。	砂粒・雲母 にふい褐色。普通	T P 40607 5%
	土師器	C [5.9]				
9	甕	A 13.1	底部から口縁部の破片。平底。体部は外傾して立ち上がり口縁部に至る。底部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端手持ちヘラ磨り。底部回転ヘラ磨り後、1方角のヘラ磨り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 40631 60% P L 240
	B 4.3					
	C 7.4					
10	甕	A [9.6]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端回転ヘラ磨り。底部ヘラ磨り。	砂粒・雲母・長石 灰色 普通	P 40638 10%
	B 2.9					
	C 6.4					
第383図 11	甕	B (2.7)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 黄灰色。普通	P 40263 10% 内面磨付着
	須恵器	C [7.8]				
12	甕	B (1.6)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。体部下端手持ちヘラ磨り。底部ヘラナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰黄褐色。普通	P 40264 10% 内面磨付着
	須恵器	C [7.0]				

図版番号	器種	計測値 (cm)				器形の特徴	手法の特徴	胎土・色質・成成	備考
		口径	高さ	底径	底厚				
第383図	土器 甕	A	11.7			高台部一部欠損。高台は高く、ハの字状に開く。体部は外方向に開き、立ち上がりず、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部長方形突起後、ナデ。	砂粒・長石 褐色 普通	P 40627 90% P L 240
		B	3.3						
		D	7.5						
		E	2.4						
14	土器 甕	A	9.6			体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒・雲母・石英 褐色 普通	P 40626 70% P L 240
		B	2.6						
		C	6.0						
15	須恵器 壺	A	5.4			口縁部一部欠損。天井部は丸みを帯び、中央部をくぼませたボタン状のつまみが付く。口縁部内面には大きなかえりが付く。	天井部から口縁部にかけて外面ヘラ削り後、つまみ取り付け。内面ナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 40634 80% P L 240
		B	2.2						
		F	1.8						
		G	0.5						
16	高坏 須恵器	B	6.0			真部片。真部はラッパ状に削ぎ、裾部は扇形して下方へ垂下する。中位に長方形の透かし孔を穿つ。	真部内・外面ロクロナデ。透かし孔はヘラ削り。	砂粒・長石 灰白色 普通	P 40632 20% P L 240
		D	13.2						
17	壺 須恵器	B	4.2			底部から体部にかけての破片。平底。体部は若干外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下側半持ちヘラ削り。底部ヘラナデ。	砂粒・長石・石英 黄灰色、普通	P 40295 5% 澄G類
		C	5.8						
18	上器 壺	A	11.2			口縁部一部欠損。小形。平底。体部は球形を呈し、頸部で曲曲する。口縁部は内外気味に開く。頸部はつまみ上げている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位頸位のヘラ削り。内面輪転み肌を残すヘラナデ。底部木葉肌。	砂粒・雲母・長石・石英 褐色 普通	P 40629 90% P L 240
		B	11.0						
		C	8.0						
19	上器 壺	A	11.0			体部・口縁部一部欠損。体部は外傾して立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部でくびれ、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削ぎ。内面ヘラナデ。底部木葉肌。	砂粒・雲母・長石・石英 にぶい褐色 普通	P 40630 90% P L 240
		B	10.0						
20	壺 須恵器	A	18.8			体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内傾・内彎して立ち上がり、頸部で曲曲し口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部頸位の平行削ぎ。内面ナデ。	砂粒・雲母・長石・石英 灰色、普通	P 40635 20% P L 240
		B	9.6						
21	甕 陶器	B	2.4			底部から体部下端の破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部下端内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	軟質 釉：灰白色 胎土：にぶい黄褐色 普通	P 40636 10% P L 241 底部外面磨き[或#]
		C	9.0						

図版番号	器種	計測値				特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第383図	土器 甕	(8.1)	(3.0)	5.2	(79.7)	胴部・頸部の一部及び体部下半欠損。胴は円形を呈し、中央が深くくぼむ。目・鼻・口の表裏はない。腹面・背面ともに基文で、ていねいに磨かれている。	D P 40014 50% P L 241
		2.6	2.2	0.8	3.6		
23	泥山子	2.6	2.2	0.8	3.6	図形。おかも。褐色。	D P 40509 P L 241

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第384図	焼形 洋	(8.8)	(10.9)	(4.7)	(337)	鉄	側面に横面1か所。底面は横やかにカーブし上面は中央部付近がややくぼむ。	M 40508
		2.6	2.2	0.8	3.6			
25	煙管	(3.7)	0.9	1.0	(2.7)	銅	雁首。火田部欠損。	M 40509
26	煙管	(3.8)	1.1	1.1	(7.7)	銅	雁首。火田部欠損。	M 40510
27	錠 尾	4.0	(2.1)	0.5	(3.8)	銅	一端を欠損。端部3か所に表裏貫通する径約2mmの錠が接合されている。	M 40511 P L 241
28	耳環	1.8	1.8	0.6	4.4	青銅	環状。前部に鍍銀を施し、開口部を設けている。	M 40512 P L 241

図版番号	器種	計測値						材質	特徴	備考	
		全長 (cm)	鎌身長 (cm)	鎌身幅 (cm)	茎長 (cm)	茎幅 (cm)	厚さ (cm)				重量 (g)
第384図	鎌	(6.4)	5.4	(4.0)	(1.0)	0.5	0.2-0.3	(11.6)	鉄	厚板鎌。刃部のV字状のえぐり・開きともにやや浅い。	M 40513 P L 241

図取番号	鉄名	計測値			特徴	備考
		径 (cm)	孔 (cm)	重さ (g)		
第384図30	至道元寶	2.4	0.6×0.6	2.3	円体方孔。初鋳995年。	M40028 P L241

図取番号	器種	計測値				石材	特徴	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第384図31	ナイフ形石器	3.8	1.4	0.5	2.12	瑪瑙カ	両縁調整。	Q40511 P L241
32	鎌	(2.8)	2.3	0.4	(1.72)	チャート	凹基無形式石鎌。えぐりが比較的深い。	Q40512 P L241
33	鎌	(2.4)	2.1	0.4	(1.78)	黒曜石	凹基無形式石鎌。脚部が丸くハート形。	Q40513 P L241
34	鎌	1.8	1.6	0.3	0.64	黒曜石	平基無形式石鎌。先端が小さくくびれ、脚部が直線状。	Q40514 P L241
35	石斧	(8.9)	(4.5)	(1.7)	(76.0)	安山岩	両縁部押圧調整。	Q40508 P L241
第385図36	磨石	12.8	7.7	6.5	903.0	チャート	中央部に径約1cm平歯円形の凹部2ヶ所有り。	Q40509 P L241
第384図37	磨石	(10.3)	7.3	6.5	(643.0)	安山岩	下半部欠損。先端部に磨痕有り。	Q40501 P L241
第385図38	磨石	10.4	6.8	3.8	366.5	安山岩	両端部に使用痕有り。	Q40011 P L241
39	浮子	11.0	9.1	6.0	68.7	軽石	表面全体が摩耗している。	Q40010

図取番号	器種	計測値				材質	色調	特徴	備考
		全長 (cm)	背幅 (cm)	刃幅 (cm)	重さ (g)				
第384図40	臼玉	1.6	0.6	0.25	1.56	滑石	灰色	片面に2本の刻線有り。全体的に粗い調整。	Q40515 P L241
41	臼玉	1.4	0.3	0.4	0.86	滑石	灰色	中央部に穿たれてる円孔に附けて1本の刻線有り。	Q40516 P L241
42	臼玉	1.4	0.2	0.3	0.53	滑石	灰色	片面が平滑に研磨されている。	Q40517 P L241
43	臼玉	1.4	0.2	0.3	0.47	滑石	灰色	片面が平滑に研磨されている。	Q40518 P L241



3 5区の遺構と遺物

(1) 竪穴住居跡

① 古墳時代

第748号住居跡 (第386・387図)

位置 調査5区の北東部、H132区。平成9年度と平成11年度の調査区にまたがって位置しており、そのため、調査も北部は平成9年度、南部は平成11年度と、両年度にわたった。

重複関係 南東部で第1459号住居跡を掘り込み、南部を第1408・1409号土坑に、東部から中央部を第91号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 北部は平成9年度に調査され、『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集に記載されている。全体的な規模は、長軸6.60m、短軸6.30mで、平面形は方形である。

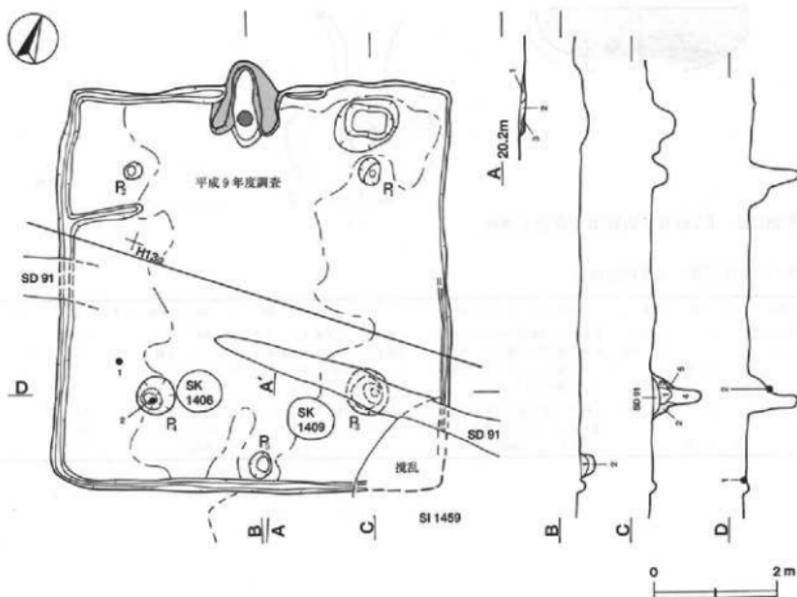
主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は6~8cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北東部以外は壁下を巡っている。規模は上幅13~22cm、下幅3~10cm、深さ4~8cmで、断面形はU字形をしている。

床 はほぼ平坦で、中央部から南部にかけてよく踏み固められている。

ピット 3か所 (P3~P5)。P1・P2は平成9年度の調査で検出されており、平成11年度の調査ではP3~P5が検出されている。南東・南西コーナーからやや中央部寄りに位置するP3・P4は上端径68cm、62



第386図 第748号住居跡実測図

cmのほぼ円形、下端径約34cm、24cmのほぼ円形で、深さはそれぞれ80cm、78cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は上端径36cm、下端径20cmのほぼ円形で深さ25cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P3土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

P5土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

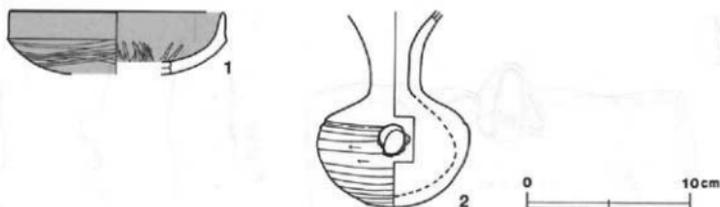
覆土 3層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片28点、須恵器片3点、陶器片1点が出土している。第387図1の土師器坏は、西南部P4からやや北西寄りの床面から出土している。2の須恵器甕は、P4の柱抜き取り痕底面から斜位で出土している。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から『茨城県教育財団文化財調査報告』第166集に記載されているとおり、6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第387図 第748号住居跡出土遺物実測図

第748号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第387図 1	坏 土師器	A [130] B (39)	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に明瞭な段をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き。体部外面ヘラ磨き。底部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒にふい黄褐色 普通	P5301 15%
2	甕 須恵器	B (120)	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、体部上位に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面回転ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色 普通	P5302 95% P.L.242

第1451号住居跡 (第388・389図)

位置 調査5区の北東部, H133区。

重複関係 北西部で第1459号住居跡を掘り込んでいる。南部を第1402号土坑に、東部を第1403号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 東西両壁が攪乱を受けているため、壁の立ち上がりは確認できず、規模と平面形は、床質から南北軸5.50m、東西軸5.30mの方形と推定された。

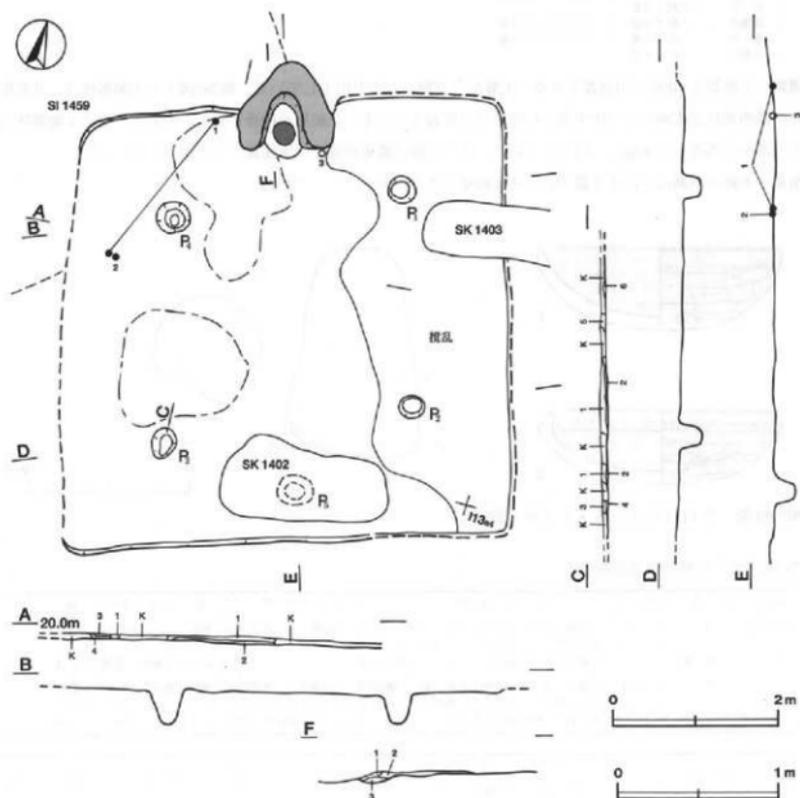
主軸方向 南北軸を主軸とみなし $N-18^{\circ}-W$ と推定した。

壁 確認できた壁高は4~8cmで外傾して立ち上がる。

壁溝 壁溝は確認できなかった。

床 はほぼ平坦である。竈・袖部付近とP3の北部が踏み固められている。

竈 北壁中央を壁外に35cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで115cm、



第388図 第1451号住居跡実測図

両袖部幅約115cmである。火床部は床面よりわずかに高く、焼土小ブロック・焼土粒子が約8cm堆積している。煙道は外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土中ブロック・焼土粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 3 極暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、粘土粒子少量

ピット 5か所（P1～P5）。各コーナー部からやや中央部寄りに位置するP1～P4は上端径30～40cm、下端径約10～25cmのはぼ円形で、深さ26～44cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は上端径47cmで、下端径24cmのはぼ円形で深さ24cmである。位置的に入入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片148点、須恵器片6点、土製品（支脚）1点が出土している。第389図1の土師器杯は、北部壁際の竈西袖付近床面および中央部から西寄りの床面から出土した破片が接合したものである。2の土師器杯は中央部から西寄りの床面から出土している。3の支脚は竈東袖部際の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第389図 第1451号住居跡出土遺物実測図

第1451号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第389図 1	杯	A 14.8 B 5.0	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内傾して立ち上がり、不明瞭な稜を持ち、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ、外面へツ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい赤褐色、普通	P.5303 90% P.L.242
	土師器					
2	杯	A 13.4 B 4.5	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内傾して立ち上がり、明瞭な稜を持ち、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上半部横ナデ、下半部へツナデ、外面へツ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子 にぶい褐色、普通	P.5304 90% P.L.242
	土師器					

図版番号	種別	計測値			特徴	胎土・色調	備考
		長さ (cm)	径 (cm)	重量 (g)			
第389図3	土製支脚	(12.8)	4.5～8.0	(528.0)	下位に指頭押圧による調整。	砂粒・長石・石英、明褐色	D.P.5301

第1453号住居跡 (第390～393区)

位置 調査5区の北東部, I12b9区。

重複関係 東部で第1458号住居跡を掘り込み、北東部を第1455号住居に、竈袖部付近から南部にかけて第1454号住居に、北西部の壁際を第1404号土坑に掘り込まれている。第1454号住居の掘り込みは、床面まで達していない。また、南部の壁際を第128号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸6.80m, 短軸6.60mの方形である。

主軸方向 N-18° -W

壁 壁高は6～20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 第1404号土坑に掘り込まれている北西部以外は巡っている。規模は上幅6～24cm, 下幅2～7cm, 深さ6～16cmで、断面形はJ字形をしている。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央を壁外に35cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、竈口部から煙道部まで130cm, 両袖部幅約100cmである。袖部内面は、火熱を受けて赤変硬化している。天井部は崩落しており、砂粒を多量、粘土粒子を中量含む第4層が崩落上と考えられる。火床部は床面から8cmほど掘りくぼめられ、焼土ブロックや焼土粒子、灰が約7cmの厚さで堆積している。煙道は火床面からほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・砂粒中量, 焼土大ブロック・焼土小ブロック少量, 粘土粒微量
- 2 暗褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・砂粒・粘土粒少量
- 3 におい赤褐色 焼土粒子多量, 砂粒中量, 焼土大ブロック・焼土中ブロック・粘土粒少量
- 4 褐色 砂粒多量, 粘土粒中量, 焼土粒少量
- 5 におい赤褐色 砂粒多量, 焼土中ブロック・焼土粒子・灰中量, 粘土粒少量
- 6 におい黄褐色 灰多量, 焼土粒子・砂粒中量, 粘土粒少量
- 7 におい赤褐色 焼土粒子・砂粒中量, 焼土小ブロック・粘土粒少量
- 8 暗赤褐色 砂粒中量, 焼土粒子・粘土粒少量, 炭化粒少量
- 9 褐色 砂粒多量, 粘土粒・粘土粒少量
- 10 におい赤褐色 砂粒多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒少量
- 11 暗赤褐色 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒・灰少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量
- 13 灰褐色 焼土大ブロック・砂粒中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック少量・焼土粒子微量
- 14 におい褐色 砂粒多量, 焼土粒中量, 粘土粒少量, 炭化粒微量
- 15 暗褐色 砂粒中量, 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒・粘土粒微量
- 16 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒多量, 粘土粒少量, 炭化粒微量
- 17 暗赤褐色 焼土粒子多量, 砂粒中量, ローム小ブロック微量
- 18 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒多量, 粘土粒少量, 炭化粒微量

ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P4は各コーナー部からやや中央寄りに位置している。P1・P3の上端はそれぞれ径55cm, 57cm, 下端は径14cm, 17cmのはほぼ円形で、深さ79cm, 82cmである。P2・P4の上端は長径それぞれ65cm, 68cm, 短径は51cm, 53cmの楕円形で、下端は径19cm, 10cmの円形である。深さは90cm, 79cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は、上端径42cm, 下端径15cmのはほぼ円形で、深さ46cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

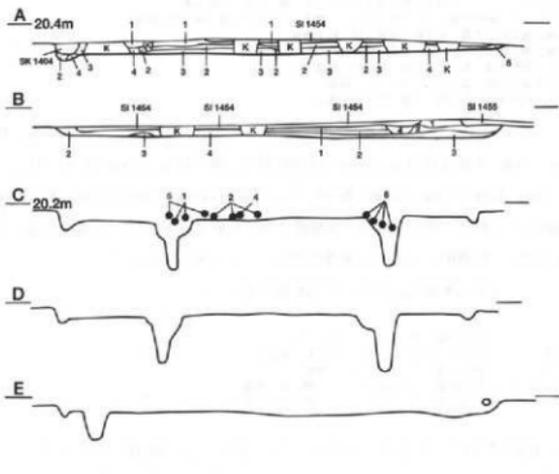
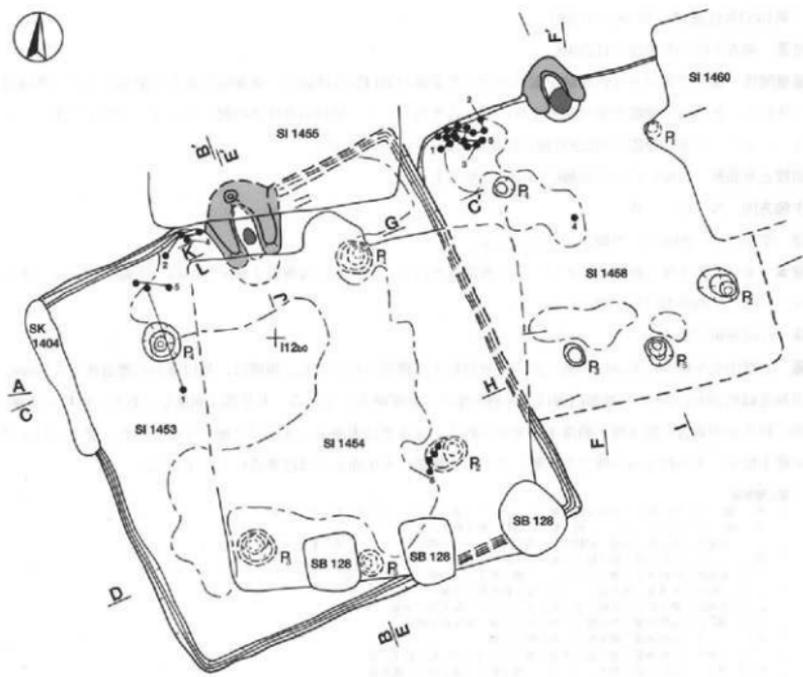
土層解説

- 1 暗褐色 コーム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒・炭化粒微量
- 3 暗褐色 コーム小ブロック・ローム粒中量, ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 コーム小ブロック・ローム粒少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 コーム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒・炭化粒微量

遺物 土師器片389点, 須恵器片15点, 土製品(支脚片)5点, 鉄滓1点, 陶器片3点が出土している。第392

図1の土師器杯は、中央部からやや西寄りの床面と北部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。

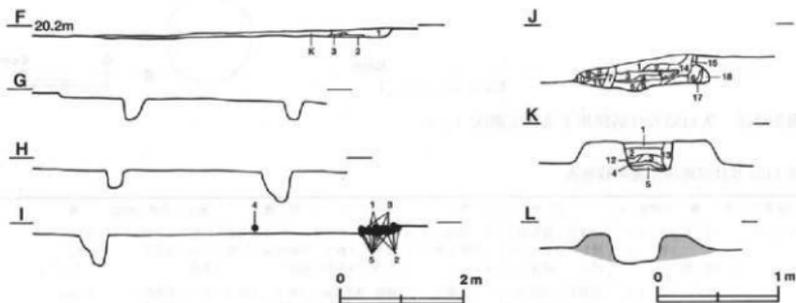
2の土師器杯は、北壁際の竈西袖寄りの床面および覆土下層から出土した破片が接合したものである。3の上



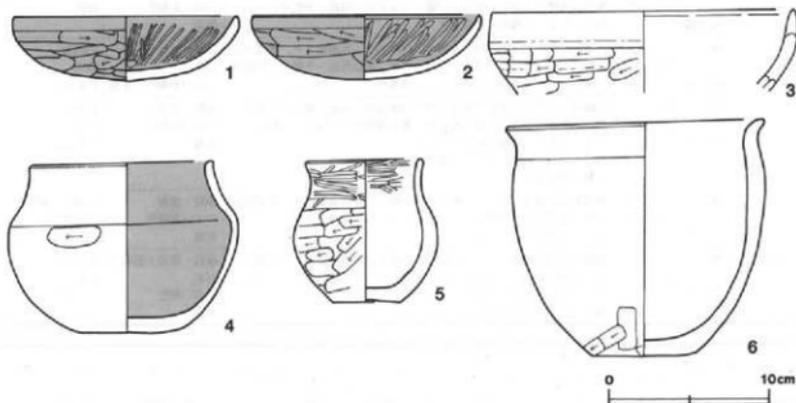
第390图 第1453·1458号住居跡实测图(1)

師器坏は北部の覆土中から出土している。4の土師器鉢は、北部の覆土中層および下層と南部の覆土中から出土した破片が接合したものである。5の土師器甕は、北壁際の竈西袖部寄りの覆土下層から出土している。6の土師器甕は、南部の床面および覆土中から出土した破片が接合したものである。第393図7の土師器甕は、南東部の覆土中層および下層、南部の覆土中やP2の覆土上層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。8の支脚片は、竈内から横位で出土している。鉄滓と陶器片は、攪乱により混入したものと考えられる。

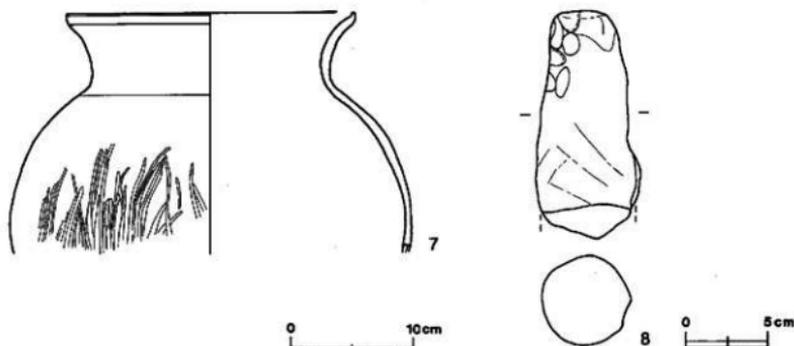
所見 本跡の時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる。



第391図 第1453・1458号住居跡実測図(2)



第392図 第1453号住居跡出土遺物実測図(1)



第393図 第1453号住居跡出土遺物実測図(2)

第1453号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第392図 1	土師器	A 13.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 脣して立ち上がり、不規則な稜を 持ち、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 丁寧なヘラ磨き。体部外面へラ削 り。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 95% 黄褐色 普通	P5306 95% P.L.242	
		B 3.9					
2	土師器	A [13.8]	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内脣して立ち上がり、 口縁部にいたる。	口縁部、体部内面へラ磨き。体部内 面下位横ナデ。口縁部外面横ナデ。 外面へラ削り。内・外面黒色処理。	砂粒・赤色粒子 85% 黄褐色 普通	P5307 85% P.L.242	
		R 4.0					
3	土師器	A [18.4]	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内脣して立ち上がり、口縁 部にいたる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ヘラナデ。外型へラ削り。	砂粒・雲母・長石・ にぶい赤褐色 普通	P5312 15%	
		B (5.0)					
4	土師器	A 11.2	口縁部・体部一部欠損。平底。体部は 内脣して立ち上がり、口縁部との境 に稜をもつ。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ナデ。体部外面へラ削り。内面黒 色処理。	砂粒・雲母・長石・ 石英 にぶい赤褐色、普通	P5309 85% P.L.242	
		B 10.5					
		C 6.0					
5	土師器	A 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内 脣して立ち上がり、中位に最大径 をもつ。体部との境に稜をもち、 胴部はゆるやかにくびれ、口縁部 は軽く外反する。	口縁部内・外面丁寧なヘラ磨き。 体部内面ナデ。外面へラ削り。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P5308 95% P.L.242	
		B 8.8					
		C 4.2					
6	土師器	A [15.4]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部はやや内脣して立ち上 がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面 ナデ、外面下端へラ削り。	砂粒・雲母 にぶい黄褐色 普通	P5311 40% P.L.242 二次焼成	
		B 14.5					
第393図 7	土師器	A [23.0] B (19.1)	体部上端から口縁部にかけての破片。 体部は卵形を呈し、胴部はゆるやか にくびれ、口縁部は外反する。胴 部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。体部外面中位へラ磨き。	砂粒・雲母・長石・ 石英 にぶい黄褐色 普通	P5310 10% P.L.242	
図版番号	種別	計 測 値			特 徴	胎 土 ・ 色 調	備 考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)			
第393図8	土製支脚	(13.9)	4.2~6.4	(468.0)	上位に指痕押圧による調整。	砂粒・長石・石英、明褐色	D P5302

第1454号住居跡 (第394図)

位置 調査5区の北東部, I12b0区。

重複関係 北西部で第1453号住居跡を, 北東部で第1458号住居跡を掘り込み, 南部壁際で第128号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.35m, 短軸5.00mの方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 北部の一部および南部で確認できた。壁高は5cmで, 外傾して立ち上がる。

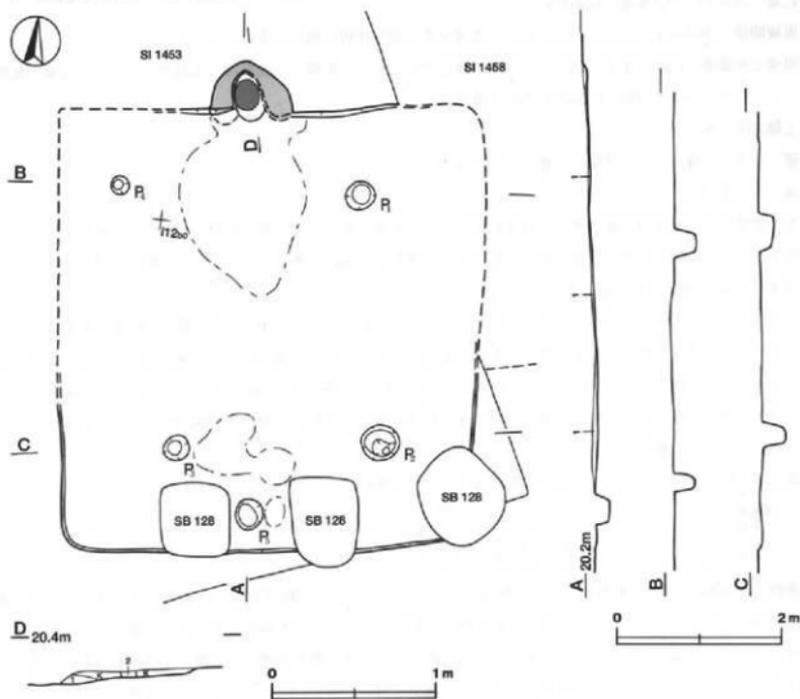
壁溝 確認できなかった。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央を壁外に60cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。覆土が薄いことや耕作による攪乱のため遺存状態は良くない。規模は, 狭口部から煙道部までは残っている部分で75cm, 両袖部幅95cmである。火床部は床面とはほぼ同じ高さである。覆土の第1層は, 焼土粒子を多量に含み下部が赤変していることから, 下部が火床面の一部と考えられる。

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 明赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック微量



第394図 第1454号住居跡実測図

ピット 5か所（P1～P5）。各コーナー部からやや中央寄りに位置するP1～P4は、上端径20～45cm、下端径11～36cmのほぼ円形で、深さ12～29cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は上端が径32cmのほぼ円形、下端が長径30cm、短径20cmの楕円形である。深さは15cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 単一層である。覆土が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片83点、須恵器片3点、陶器片1点が出土している。覆土中から出土した土師器片は、大部分が堯の体部細片である。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡は、覆土が薄いことや重複のために時期を判断できる土器が出土していないが、6世紀後葉に位置づけられる第1458号住居跡や6世紀後葉から7世紀前葉に位置づけられる第1453号住居跡を掘り込み、9世紀後半と考えられる第128号掘立柱建物に掘り込まれていることから、7世紀前葉以降から9世紀後半以前の住居跡と考えられる。

第1458号住居跡（第390・391・395図）

位置 調査5区の北東部、I13a1区。

重複関係 西部を第1453・1454号住居に、東部を第1460号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 南部は床面が露出した状態で確認されたため、規模と平面形は、床質及びピットの規模と配置から、長軸5.30m、短軸4.65mの長方形と推定された。

主軸方向 N-23° -W

壁 わずかに確認できた北壁は、壁高4cmである。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央で袖部最下部と考えられる砂質粘土と火床部と考えられる長径42cm、短径33cmの楕円形に広がる焼土ブロックと焼土粒子が確認できた。北壁中央を壁外に45cmほど掘り込んでおり、規模は、焚口部から煙道部まで108cm、両袖部幅90cmと推定される。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は各コーナー部からやや中央寄りに位置し、規模と配置からいずれも主柱穴と考えられる。P1・P3・P4の上端は径25～33cm、下端は径17～21cmのほぼ円形で、深さは28～37cmである。P2の上端は長径64cm、短径50cmの楕円形で、下端は径18cmの円形である。深さは50cmである。南壁際中央に位置するP5は、上端が長径47cm、短径39cmの楕円形、下端は径13cmの円形で深さ52cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化殻少量

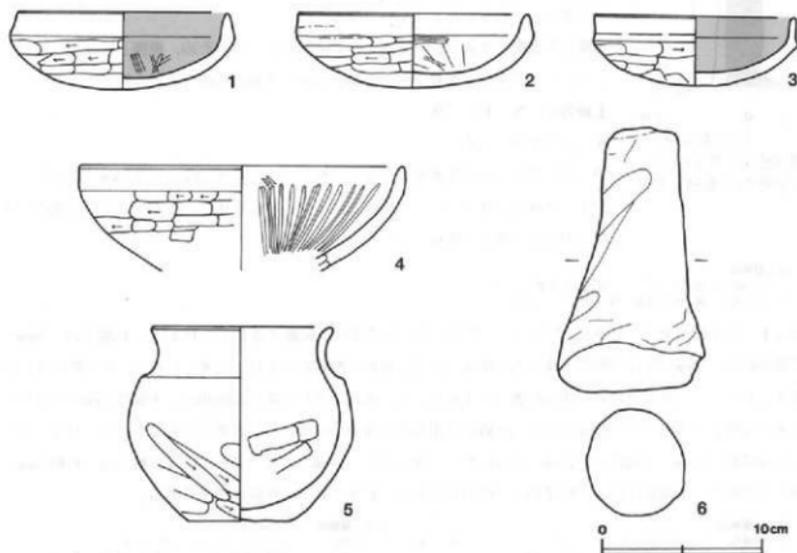
2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片144点、須恵器片4点、陶器片1点が出土している。第395図1の土師器杯は、北西コーナー部の床面から破片で出土している。2の土師器杯は、北西コーナー部の床面及び床面直上と覆土中から出土した破片が接合したものである。3の土師器杯は、北西コーナー部の覆土中層および覆土下層から出土した破片が接合したものである。4の土師器杯は、中央部の覆土下層から出土している。5の土師器杯は北西コーナー部の床面から出土している。6の土製支脚は北西コーナー部の覆土中から出土している。陶器片は攪乱により混

入したものと考えられる。

所見 本跡からは、壁溝は確認できなかった。時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



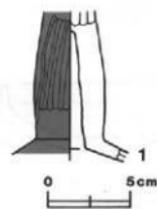
第395図 第1458号住居跡出土遺物実測図

第1458号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第395図 1	坏	A 12.8 B 4.7	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、不明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・長石・雲母にぶい黄褐色 普通	P5313 80% P L 242
	土 師 器					
2	坏	A 14.0 B 4.5	体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、不明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。上位ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石・石英・雲母。にぶい藍色 普通	P5314 60% P L 242
	土 師 器					
3	坏	A 12.4 B 4.4	口縁部・体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、不明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ。外面ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒・白色稜子 灰黄褐色 普通	P5315 60% P L 242
	土 師 器					
4	坏	A [19.8] B (6.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、不明瞭な稜を持つ。口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面縦位のヘラ磨き。外面ヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 藍色 普通	P5316 15% P L 242
	土 師 器					
5	鉢	A [11.1]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に不明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。外面ヘラ削り後ナデ。	砂粒・長石・石英 にぶい藍色 普通	P5317 45% P L 242
	土 師 器	B 12.9 C 6.2				

図版番号	器 種	計 測 値			特 徴	胎 土 ・ 色 調	備 考
		長 さ (cm)	径 (cm)	重 量 (g)			
第395図6	土製支脚	16.2	4.2～8.74	860.0	下位に指痕押圧による調整。	砂粒・長石・石英。明褐色	D P 5303

第1459号住居跡 (第396・397図)



第396図 第1459号
住居跡出土遺物実測図

位置 調査5区の北東部, H13j3区。

重複関係 北西部を第748号住居に, 南部を第1451号住居に, 北東コーナ一部を第91号溝に, それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 床面がほぼ露出した状態で確認されたため, 規模と平面形は床質およびピットの規模と配置から, 長軸5.00m, 短軸4.95mの方形と推定される。

主軸方向 N-45°-W

床 ほぼ平坦である。

炉 中央部からやや北西寄りに設けられている。長径60cm, 短径50cmの楕円形で, 炉床は10cmほど窪んでいる。炉床面には部分的に硬化した焼土ブロックが確認できた。炉内には焼土が堆積していた。

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量

ピット 9か所 (P1~P9)。各コーナ一部からやや中央寄りに位置するP1~P4は, 上端径50~58cm, 下端径約10~38cmのほぼ円形で, 深さ26~66cmである。規模と配置から主柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は, 上部を第1451号住居に掘り込まれている。確認できた上端径は約40cm, 下端径23cmのほぼ円形で深さは確認できただけで22cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7・P9は上端径45~55cm, 下端径35~45cmのほぼ円形で, 深さは15~28cmである。P8は上端長軸55cm, 短軸30cmの隅丸長方形で, 下端長径20cm, 短径15cmの楕円形である。P6~P9の性格は不明である。

P1土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

P3土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

P4土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

P5土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

P6土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

P7土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

P8土層解説

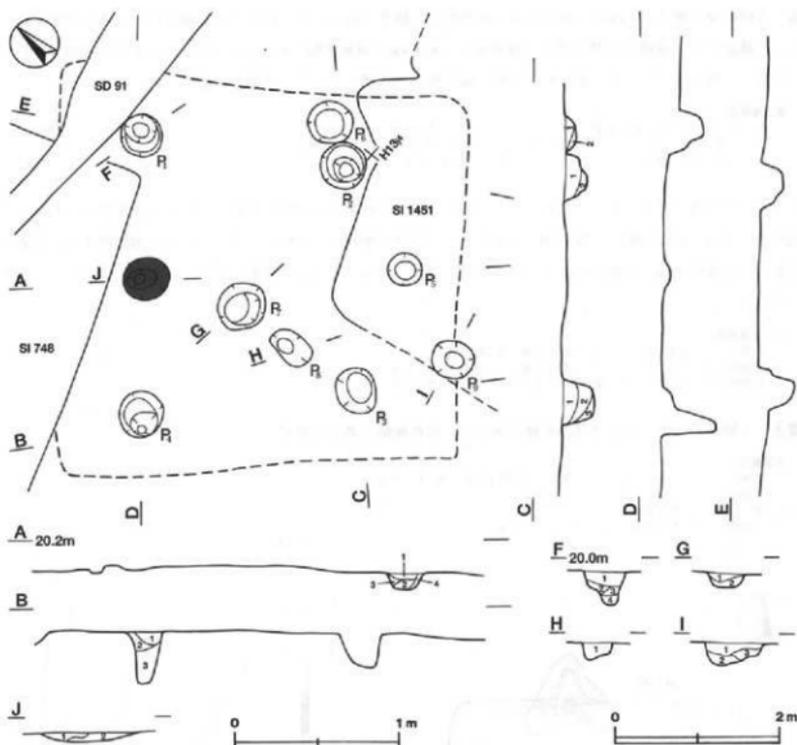
- 1 黒褐色 ローム大ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

P9土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片54点が出土している。第396図1の土師器高杯の脚部はP4の覆土土層とP3・P4・P9の覆土中から出土した杯部細片が接合したものである。それ以外の土師器片は古墳時代後期の埴細片で攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の壁は, 確認できなかった。時期は, 出土土器から5世紀前半と考えられる。



第397図 第1459号住居跡実測図

第1459号住居跡出土物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第396図	高土器	B (9.2)	脚部片。エンタシス状を呈する。	脚部外面縦位のヘラ磨き。外面赤影。	砂粒 赤褐色、普通	P5328 15%

② 奈良・平安時代

第1452号住居跡 (第398・399図)

位置 調査5区の北東部、I13b2区。

規模と平面形 西部が攪乱を受けているため、その部分の壁の立ち上がりは確認できなかった。そのため、規模と平面形は、床質から東西軸3.60m、南北軸3.60mの方形と推定される。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は5~9cmで、外傾して立ち上がる。西部および北西部では確認できなかった。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央を壁外に55cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。耕作による擾乱のため遺存状態は良くない。確認できた規模は、焚口部から煙道部まで約85cm、両袖部幅は約110cmである。火床部は床面よりわずかに高く、焼土小ブロック・焼土粒子が約6cmの厚さで堆積している。煙道は外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、粘土粒子微量
- 3 にぶい暗赤褐色 焼土小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量

ピット 5か所 (P1～P5)。各コーナー部からやや中央寄りに位置するP1～P4は上端径22～25cm、下端径4～7cmのほぼ円形で、深さ20～22cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は上端径50cm、下端径17cmのほぼ円形で、深さは31cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

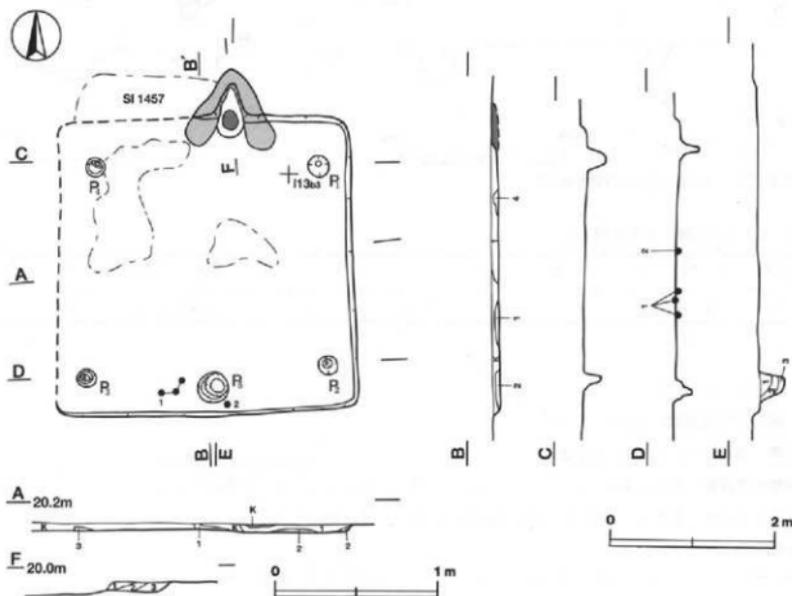
P5土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

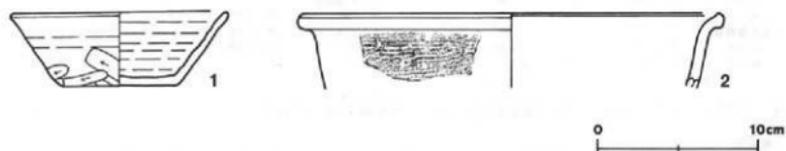
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量



第398図 第1452・1457号住居跡実測図

遺物 土師器片130点、須恵器片27点、土製品（支脚）11点、陶器片2点、磁器片1点が出土している。第399図1の須恵器杯は、南部のP5付近の床面および覆土中から出土した破片が接合したものである。2の須恵器鉢口縁部片は、南部の床面から出土している。また、覆土中から出土した支脚片はすべて小片である。陶器片及び磁器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の壁溝は、確認できなかった。時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。



第399図 第1452号住居跡出土遺物実測図

第1452号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1	須恵器 杯	A 13.0	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部は軽く外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。 体部下端手持ちヘラ削り。底部2 方向のヘラ削り。	砂粒・長石・石英・ 雲母 灰色、普通	P5305 65% P.L.242
		B 4.5				
		C 7.0				
2	須恵器 鉢	A [25.4]	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎気味に立ち上がり、口 縁部で外傾する。端部は上方につ まみ上げられている。	口縁部、体部外面横ナデ、体部内 面ナデ。外面横位の平行叩き。	砂粒・雲母・白色粒 子 灰黄色 普通	P5326 5%
		B (4.5)				

第1455号住居跡（第400図）

位置 調査5区の北東部、I12a0区。

重複関係 南部で第1453号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸4.00m、短軸3.80mの方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は5~12cmで、外傾して立ち上がる。

盤溝 北西コーナー部壁下から北部の壁下にかけて一部巡っている。規模は上幅7~15cm、下幅3~5cm、深さ約4cmで、断面形はU字形である。

床 はほぼ平坦である。

竈 北壁中央を壁外に30cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで95cm、両袖部幅93cmである。火床部は床面から8cmほど掘りくぼめられ、焼土小ブロック・焼土粒子が約8cmの厚さで堆積している。煙道は外傾して緩やかに立ち上がる。

焼土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量、焼土中ブロック微量
- 3 にぶい赤褐色 灰多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量、砂粒微量
- 4 にぶい赤褐色 灰多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量、粘土粒子・砂粒少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・灰中量、粘土粒子少量、炭化物・砂粒微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量

ピット 5か所（P1~P5）。各コーナー部からやや中央寄りに位置するP1~P4は、上端径24~34cm、

下端径20cmのはば円形で、深さ19~30cmである。規模と配置から支柱穴と考えられる。南壁際中央に位置するP5は、上端の長径47cm、短径40cmで、下端の長径34cm、短径23cmの楕円形で深さ32cmである。位置的に出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1 土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・小ブロック少量

P2 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

P3 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

P4 土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量

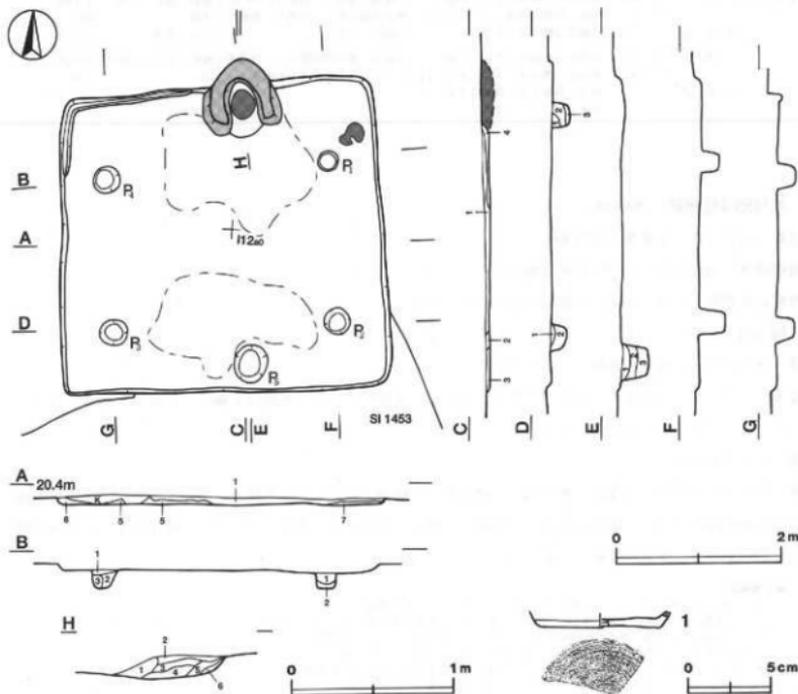
P5 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量



第400図 第1455号住居跡・出土遺物実測図

遺物 土師器片60点、須恵器片3点、陶器片3点が出土している。第400図1の須恵器杯は、北東部の覆土中から出土したものである。覆土中から出土した土師器片は大部分が甕の体部細片である。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器や重複関係から8世紀と考えられる。

第1455号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第400図 1	杯 須 恵 器	R (L/D) C [72]	底縁から体部下端にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面下端・底部回転ヘバ削り。	砂粒・雲母・長石・ 石英 赤褐色、普通	P5327 10%

第1460号住居跡 (第401図)

位置 調査5区の北東部、I13a1区。

重複関係 西部で第1458号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.60m、短軸3.50mの方形である。

主軸方向 N-106° -W

壁 壁高は2~7cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南部の壁下及び北東コーナー一部の壁下を巡っているのが確認できた。規模は上幅8~17cm、下幅2~7cm、深さ約4cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部から南部にかけてよく踏み固められている。

竈 西壁中央を壁外に50cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで105cm、両袖部幅約110cmである。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、焼土小ブロック・焼土粒子が約5cmの厚さで堆積している。煙道は外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 におい赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・粘土粒子・灰中量、砂粒少量、炭化粒子微量
- 2 極暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒・粘土粒子少量
- 3 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、砂粒・粘土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、砂粒・粘土粒子・灰少量
- 5 灰褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、砂粒微量
- 6 灰褐色 砂粒・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、砂粒・粘土粒子微量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

ピット 中央部に位置するP1は上端径35cm、下端径14cmの円形で、深さ12cmである。性格は不明である。

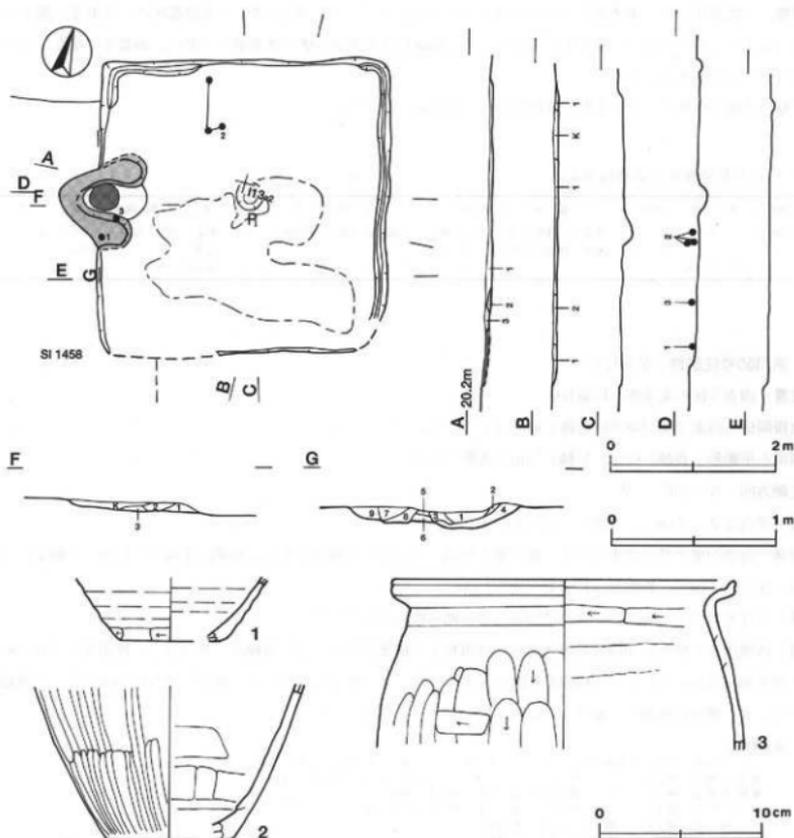
覆土 3層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片112点、須恵器片8点、陶器片1点が出土している。第401図1の須恵器杯は、竈南袖部から出土している。2の土師器甕は、北部の覆土中層や下層と北壁際の覆土上層から出土した破片が接合したものである。3の土師器甕は、竈の南袖部と覆土中から出土した破片が接合したものである。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から、9世紀前半と考えられる。



第401図 第1460号住居跡・出土遺物実測図

第1460号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第401図 1	坏 須 恵 器	B (39) C [6.2]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロケロナダ。体部下端回転ヘラ削り。	砂粒・雲母・石英 灰色・普通	P 5318 5%
2	甕 土 師 器	B (9.5) C [7.5]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のヘラ磨き。内面輪積み痕を残す横位のヘラナダ。	砂粒・雲母・長石・ 石英・赤色粒子 にぶい・橙色、普通	P 5320 10% P L 242
3	甕 土 師 器	A 20.6 B (10.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。頸部でくびれ、口縁部は外反する。頸部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナダ。体部内・外面ヘラ削り。体部内面上位輪積み痕。	砂粒・雲母・長石・ 石英・白色粒子 にぶい・橙色 普通	P 5319 20% P L 242

(2) 掘立柱建物跡

① 奈良・平安時代

第128号掘立柱建物跡 (第402・403図)

位置 調査5区の北東部, I12c0区。

重複関係 第1453・1454号住居跡を掘り込み, 第18号溝にP2・P7が掘り込まれている。

規模 本跡の規模は, 桁行3間, 梁行3間の側柱式の建物跡で, 芯々間の桁行6.5m, 梁行4.9mである。柱間寸法は桁行2.0~2.2m, 梁行1.6mである。柱穴は, 平面形が長軸(径)0.85~1.2m, 短軸(径)0.7~0.9mの隅丸長方形や隅丸方形および楕円形で, 深さ35~60cmである。

桁行方向 N-9°-W

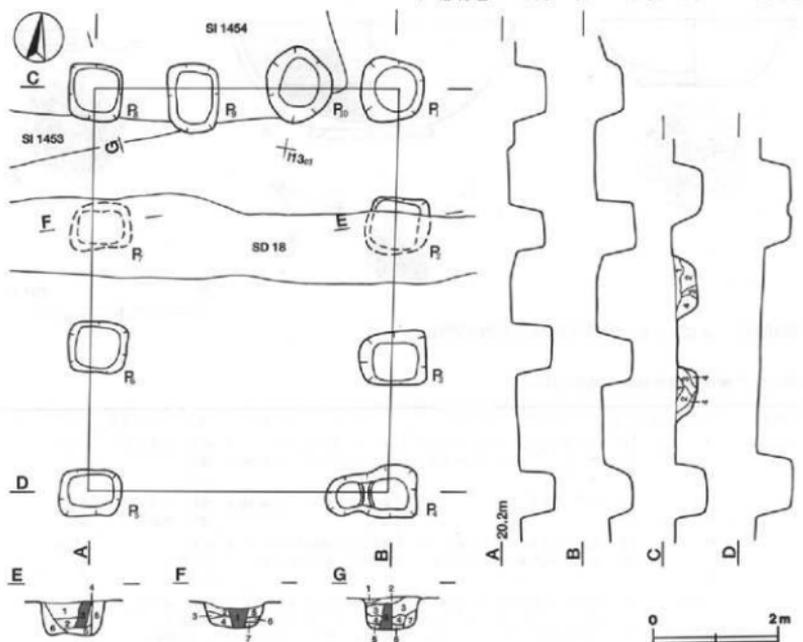
柱穴覆土 土層断面図中, P2の第3層やP7の第1層, P8の第8層が柱の抜き取り痕と考えられる。他の層は埋土で, 突き固められている。他の柱穴では柱痕や抜き取り痕は確認できなかった。

P2土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

P7土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 5 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量



第402図 第128号掘立柱建物跡実測図

P8土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、炭化粒子少量
 4 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
 5 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量
 6 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
 7 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
 8 黒褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量

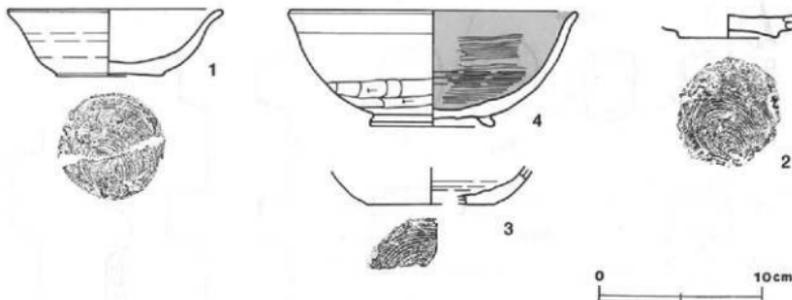
P9土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック少量
 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・小ブロック少量
 3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 4 褐色 ローム粒子多量

P10土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量
 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック中量、焼土小ブロック微量
 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量

遺物 土師器片103点、須恵器片2点がP1・2・7～10の埋土から出土している。P1からは土師器片18点、須恵器片5点、P2からは土師器片23点、P7からは土師器片7点、P8からは土師器片24点、P9からは土師器片14点、P10からは土師器片22点、須恵器片1点がそれぞれ出土している。第403図1の土師器杯や4の土師器高台付杯は、P8の埋土から出土している。2・3の土師器杯はP8の埋土上層から出土している。所見 本跡の時期は、出土土器から、10世紀後半と考えられる。



第403図 第128号堀立柱建物跡出土遺物実測図

第128号堀立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1	土師器	A 13.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。ロクロ目は弱い。底部回転車切り。	砂粒・雲母・長石 橙色 普通	P5321 95% P L.242
		B 4.0				
		C 6.5				
2	土師器	B (1.4)	底部片。平底。	底部内面ロクロナデ。外側回転車切り。	砂粒・雲母 橙色・普通	P5329 10%
		C 6.0				
3	土師器	B (2.3)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部から底部内面ロクロナデ。体部外面ナデ。底部回転車切り。	砂粒 灰黄褐色 普通	P5330 10%
		C [7.8]				
4	高台付土師器	A [17.8]	底部から口縁部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は軽く外反する。	口縁部、体部内面丁寧なヘラ磨き。口縁部から体部中位外面横ナデ。下位回転ヘラ磨き。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・石英・赤色粒子 にぶい・橙色 普通	P5322 65% P L.242
		B 6.9				
		D 7.6				
		E 0.7				

(3) 溝

第18号溝 (第404図・第409図)

位置 調査5区の北東部, I12c9~I13b6区。

重複関係 西部のI13c1区で第128号掘立柱建物跡のP2を, I12c0区でP7を掘り込んでいる。

規模と形状 確認できた長さは30.2m, 規模は上幅92~144cm, 下幅35~112cm, 深さ5~17cmであり, 断面形は浅いU字形をしている。

方向 I13b6区から西方向(N-100°-W)に, 直線的に延びている。

覆土 3層からなる。ロームブロックが土層断面図中第3層に多量に含まれているものの, レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

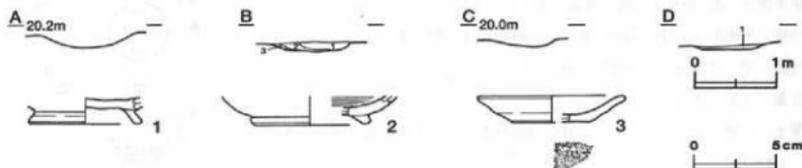
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

遺物 土師器片100点, 須恵器片7点が覆土中から出土している。第404図1の土師器高台付杯は中央部の覆土中層から出土している。2の土師器高台付杯と3の土師器皿は, 東部の覆土中層から出土している。土師器片は大部分が埴の細片である。

所見 本跡の時期は, 10世紀後半と考えられる第128号掘立柱建物跡を掘り込んでいることや出土遺物から10世紀後半以降と考えられる。比較的浅いことから, 区画溝と考えられる。



第404図 第18号溝・出土遺物実測図

第18号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第404図 1	高台付杯	B [1.6] D [6.8] E 0.9	底部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部内面へうろ磨き, 外面へうろ削り後ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・赤色粒子にぶい褐色 普通	P5331 10%
	土師器					
2	高台付杯	B [1.8] D [6.8] E 0.6	高台部から体部にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内側気味に立ち上がる。	体部内面丁寧なうろ磨き, 外面ナデ。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英にぶい褐色 普通	P5332 5%
	土師器					
3	皿	A [9.1] B 1.7	底部から口縁部にかけての破片。平底, 体部は外傾して立ち上がり, 口縁部にはいる。口縁部は軽く外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ, 底部回転糸切り。	砂粒 褐色 普通	P5333 15%
	土師器	C [4.8]				
	土師器					

第91号溝 (第405図・第409図)

位置 調査5区北東部, H12i8~H13i4区。

重複関係 第748号住居跡の東部から中央部を掘り込み, 第1459号住居跡の北東コーナー部を掘り込んでいる。

規模と形状 確認できた長さは26.6m, 規模は上幅60~166cm, 下幅14~50cm, 深さ9~20cmであり, 断面形はU字形をしている。

方向 H13i4区から西方向(N-100°-W)に, 直線的に延びている。

覆土 2層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 紫褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片17点、須恵器片1点、陶器片1点が覆土中から出土している。出土した土師器片は大部分が甕の体部細片である。陶器片は攪乱により混入したものと考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器が細片のため判断できない。重複している第1459号住居跡が5世紀前半、第748号住居跡が6世紀後葉～7世紀前葉と考えられ、それより新しい。比較的浅いことから、区画溝と考えられる。



第405図 第91号溝実測図

(4) 土坑

第1408号土坑 (第406図)

位置 調査5区の北東部、H13i2区。

重複関係 第748号住居跡の南部を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径0.73m、短径0.70mのほぼ円形である。

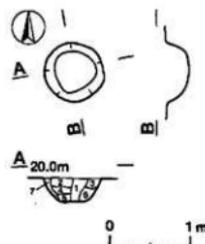
壁面 深さは25cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 紫褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 紫褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 3 紫褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
- 4 紫褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 紫褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 紫褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 7 紫褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量



第406図 第1408号土坑実測図

遺物 土師器片8点が覆土上層から出土している。出土している土師器片は、杯の口縁部小片1点と甕の細片7点である。図示はできなかった。

所見 本跡の時期は、6世紀後葉から7世紀前葉と考えられる第748号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降と考えられる。出土した土師器杯の口縁部小片は6世紀後葉と考えられることから、第748号住居跡から混入したものと思われる。

第1409号土坑 (第407図)

位置 調査5区の北東部、H13i2区。

重複関係 第748号住居跡の南部を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径0.73m、短径0.67mの円形である。

長径方向 N-89°-W

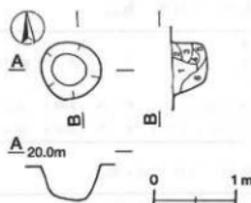
壁面 深さは30～41cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 6層からなる。ブロック状の堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量



遺物 土師器片13点、須恵器片1点が覆土中から出土している。土師器片は壺体部の細片であり、いずれの土器も図示はできなかった。

第407図 第1409号土坑実測図

所見 本跡の時期は、重複している第748号住居跡が6世紀後葉から7世紀前葉と考えられ、それより新しい。性格は不明である。

(5) 遺構外出土遺物



第408図 5区遺構外出土遺物実測図

5区遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第408図 1	高台付 杯	B (2.5) D 6.2 E 1.0	高台部から体部下端にかけての破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面丁寧なヘラ磨き。外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	砂粒・雲母・赤色粒子にふい黄褐色	P5323 25%
	土師器				普通	
2	杯	A [13.3] B 3.5 C 8.4	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は軽く外反する。肩部は丸く収めている。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部2方向のヘラ削り。	砂粒・雲母・長石 灰黄色	P5324 65%
	須恵器				普通	
3	高台付 杯	B (3.4) D [7.6]	高台部から体部にかけての破片。高台は底部外周に付けられ、「ハ」の字状に開く。接地面は平ら。体部は下位に傾を有し、外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け後ナデ。	砂粒・長石・石英 灰色	P5325 15%
	須恵器	E 1.7			普通	

表9 5区住居跡一覽表

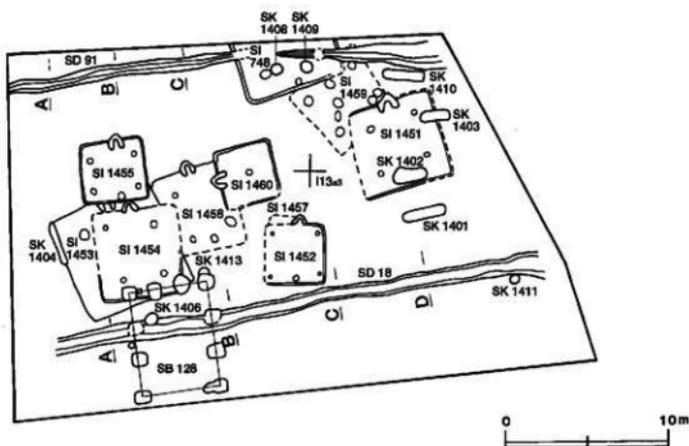
住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	底面	内部施設				覆土	出土遺物	備考		
							竈	ドット	土仕込出入口	伊・籠貯蔵火					
748	H1312	N-23°-W	方形	6.00×6.30	6~8	平坦	-	2	1	籠	1	人為	土師器(埴), 須恵器(壺)	S1169+186+S105-S1308+189	
1451	H1314	N-18°-W	[方形]	5.50×[5.30]	4~8	平坦	-	4	1	籠	-	人為	土師器(埴), 支脚	S1169+858+S1402+1481	
1452	I1382	N-7°-E	[方形]	3.65×[3.60]	5~9	平坦	-	-	-	籠	-	自然	須恵器(埴)	S11457→本跡	
1453	I1289	N-18°-W	方形	6.80×6.60	6~20	平坦	全周	-	4	1	籠	-	人為	土師器(埴・壺), 支脚	S1181+189+S1189+2833+188
1454	I1280	N-7°-W	[方形]	5.35×5.00	5	平坦	-	4	1	籠	-	-	土師器(壺)	S1183+S1169+858+S1328	
1455	I1229	N-6°-W	方形	4.00×3.80	5~12	平坦	一部	-	4	1	籠	-	人為	土師器(埴)	本跡→S11453
1457	I1352	-	不明	-	-	平坦	-	-	-	籠	-	-	土師器(埴)	本跡→S11452	
1458	I1311	N-23°-W	[長方形]	[5.30]×[4.65]	0~4	平坦	-	4	1	籠	-	人為	土師器(埴・壺), 支脚	本跡→S11453+1454	
1459	H1319	N-45°-W	[方形]	[5.00]×[4.95]	0	平坦	-	4	4	1	伊	-	人為	土師器(高埴)	本跡→S1169-S1161-S1291
1460	I1210	N-106°-W	[方形]	3.60×3.50	2~7	平坦	一部	1	-	-	籠	-	人為	土師器(埴・壺), 籠貯蔵火	S11458→本跡

表10 5区溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規模 (m)			壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 重複関係	
				幅員長	上幅	下幅						
18	I12e9~I13b6	東-西	直線土	(30.2)	0.92~1.44	0.35~1.13	5~17	外傾	U	自然	土師器(高台付坏・甕)	S128・SK1406→本跡
91	II218-II1314	東-西	直線土	(25.6)	0.60~1.66	0.14~0.50	9~20	緩斜	U	自然	土師器片, 陶器片	S1748・1459→本跡

表11 5区土坑一覧表

土坑 番号	位置	採得方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考 重複関係 新旧関係(占→新)
				長さ(軸)×幅員(圍) (m)	深さ (cm)					
1401	I13a4	N-78°-E	長楕円形	2.67×0.71	9	外傾緩斜	平坦	-	土師器片, 陶器片	
1402	I13a4	N-77°-E	長楕円形	2.04×0.76	14	外傾	平坦	-	土師器片	
1403	H13j4	N-84°-E	長楕円形	1.97×0.64	18~23	外傾	凸凹	人為	土師器片, 陶器片	
1404	I12b9	N-21°-W	長方形	2.57×0.30	9	外傾	平坦	-		
1406	I12c0	N-96°-E	楕円形	0.81×0.64	0~15	緩斜	凸凹	人為	土師器片	
1408	H13i2	N-22°-W	円形	0.73×0.70	25	外傾	平坦	人為	土師器片	S1748→本跡
1409	II13i2	N-89°-W	円形	0.73×0.67	30~41	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	S1748→本跡
1410	H13i4	N-87°-W	長方形	2.46×0.57	26	外傾	凸凹	人為		
1411	I13b6	-	円形	0.54×0.54	10	緩斜	凹状	人為	土師器片	
1412	II12c0	N-47°-E	楕円形	0.48×0.40	29	外傾	平坦	人為	土師器片	
1413	H13b1	N-21°-E	楕円形	0.77×0.69	11~33	外傾	凸凹	人為	土師器片, 須恵器片	



第409図 熊の山遺跡5区遺構全体図